

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.13 2001年度



The Board of Education in Oita City 2002

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.13 2001年度

The Board of Education in Oita City 2002

序 文

本書は平成13年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の概要を収録したものです。

21世紀という新しい時代を迎えた中で、大分市は県都として、さらに中核都市としての風格を備えた魅力あふれるまちづくりを推進いたしております。「2010大分市総合計画」のもと、本市の基本構想である「心かよい緑あふれる 躍動都市」の実現に向け、大分駅周辺総合整備事業をはじめとして、それぞれの地域において特色あるまちづくりが着実に進展をみせております。

特に、昨年6月に開催されました「2002ワールドカップ」において、大分市は世界の松舞台を演出するとともに、現代の国際都市Funai—大分—を広く世界に情報発信いたしましたところでございます。このような中、本市文化財保護行政におきましても、大友氏館跡が国史跡指定となり、横尾道跡の水場の遺構からは日本最古の建築部材・黒曜石を収納したカゴが発見されるなど今後の調査が全国から大きな期待をもって注目されているところでございます。

中でも平成13年度、大友氏館跡の国史跡指定を記念して行いました「中世大友再発見フォーラム」では、多くの皆様にご参加を頂き、大友氏と宗麟が築いた国際貿易都市Funaiの魅力を感じていただけたものと考えております。今後とも、史跡の拡大と公有化を図るとともに、大友氏館跡の整備や大友氏関連遺跡を活用したまちづくりに努めて参りたいと存じます。

大分市教育委員会では、平成12年度の機構改革により文化財課が発足されました。大分市歴史資料館、海部古墳資料館との連携を強化し、歴史教育や体験学習の充実を図り、文化財や歴史を通して郷土愛ゆたかな市民の育成にも努めて参りたいと存じます。

最後になりましたが、本書が関係各位において広く活用されますようにお願いいたしますとともに、本市文化財保護行政に対します一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成14年12月27日

大分市教育委員会
教育長 秦 政博

例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成12年4月1日から平成13年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
2. 平成13年度における調査地点は表2及び第3図に示している。
3. 本書の執筆は、各担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第IV章受領図書目録は、平成13年4月1日から平成14年3月31日の間に大分市教育委員会に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第IV章受領図書目録の作成は、勝間田あや、野々下美紀および佐藤による。
6. 遺構・遺物の実測及び図版の作成等については、次に記す大分市教育委員会臨時職員の協力を得た。

高木麻奈美・中山麻里子・森永美紀・内田順子・幸野麗・橋本幸子・山口しのぶ・首藤直美・伊東ろは・三宮多美子・南優子・菅真奈美・杉浦由香・武田真知子・大島紅・長木真里子・本田理恵子・伊賀円香・法華津幸子・河野裕子・武藤由紀子・後藤好美・工藤雄実子・小山田裕子・川野美和・河野誠・松場泉・木村藍子・飛高裕子
7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影したものである。
8. 本文中に掲載した調査地点位置図には、大分市都市計画図（縮尺1万分の1）の該当部分を使用した。
9. 本書の編集・校正は、佐藤及び各調査担当者が行った。

目次

第Ⅰ章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要	1
1	沿革	1
2	組織	1
3	大分市文化財保護審議会	2
第Ⅱ章	平成13年度事業概要	3
1	開発事前審査事業	3
(1)	平成13(2001)年度の概要	5
2	発掘調査事業	12
3	教育普及活動	12
(1)	大分市文化財だより(2001年度号)	12
(2)	現地説明会	12
(3)	研修参加	12
(4)	新指定文化財	12
4	海部古墳資料館	12
(1)	特別展	12
(2)	入館者数	12
(3)	古代土器製作体験	12
5	中世大友再発見フォーラム	13
(1)	中世大友再発見フォーラム	13
(2)	大友週間行事	13
第Ⅲ章	発掘調査の概要	14
I	下郡遺跡群第133次調査	14
II	下郡遺跡群第134次調査	16
III	下郡遺跡群第128・135次調査	19
IV	下郡遺跡群第136次調査	21
V	下郡遺跡群第137次調査	23
VI	横尾遺跡第83次調査 D-4地点	26
VII	大友氏館跡第10次調査	28
VIII	大友氏館跡第11次調査	32
IX	丹生遺跡群長迫地点	36
X	中世大友府内町跡第14次調査	39
XI	中世大友府内町跡第15次調査	42
XII	中世大友府内町跡第19次調査	44
XIII	玉沢地区条里跡 第3次調査(1区)	48
XIV	下郡横穴墓群	52
XV	東田室遺跡第2次調査	55
XVI	南金池遺跡第3次調査	57
XVII	大道遺跡群第1次調査	59
XVIII	中世大友府内町跡確認調査(試掘調査)	61
XIX	中世大友府内町跡確認調査(試掘調査)	62
XX	沖浜遺跡確認調査(試掘調査)	63
XXI	沖浜遺跡確認調査(試掘調査)	64
第Ⅳ章	受贈図書目録	65
1	調査報告書	65
2	定期刊行物・図録等	85

押図目次

第1図	地域区分図	3
第2図	地区別事前審査割合	4
第3図	調査遺跡位置図	5
第4図	文化財だより表紙	12
第5図	伊与床神楽写真	12

下郡遺跡群第133次調査

第6図	調査地点位置図	14
第7図	遺構配置図 (1/150)	14
第8図	調査区全景 (東より)	15
第9図	SF050検出状況 (西より)	15

下郡遺跡群第134次調査

第10図	調査地点位置図	16
第11図	遺構配置図 (1/200)	16
第12図	石造物出土状況	17
第13図	調査区全景	17
第14図	南北断面模式図	17

下郡遺跡群第128次・135次調査

第15図	調査地点位置図	19
第16図	SF085土層断面写真	19
第17図	遺構配置図 (1/600)	20

下郡遺跡群第136次調査

第18図	調査地点位置図	21
第19図	遺構全体図 (1/200)	21
第20図	SD005・015完掘写真	22
第21図	調査区全景	22

下郡遺跡群第137次調査

第22図	調査地点位置図	23
第23図	遺構配置図 (1/400)	23
第24図	SX002完掘写真 (西方向より)	25
第25図	SX002北壁土層図 (1/30)	25
第26図	SX002出土遺物実測図 (1/6)	25
第27図	調査区全景 (北西方向から)	25
第28図	調査区全景 (東方向から)	25

横尾遺跡群第83次調査 D-4地点

第29図	調査地点位置図	26
第30図	調査区全景 (南より)	26
第31図	遺構配置図 (1/200)	27

大友氏館跡第10次調査

第32図	調査地点位置図	28
第33図	A地点遺構配置図 (1/100)	28
第34図	A地点東西溝土層断面図 (1/40)	29
第35図	A地点4面遺構検出状況 (南より)	29
第36図	A地点東西溝土層断面観察時	29
第37図	B地点遺構配置図 (1/100)	30
第38図	B地点調査区西壁土層断面図 (1/80)	30
第39図	B地点3面目盛り地層掘り下げ状況 (北より)	31

第40図	B地点3・4面目遺物出土状況（北より）	31
大友氏館跡第11次調査		
第41図	調査地点位置図	32
第42図	SX021遺物出土状況（南より）	32
第43図	遺構配置図（1/125）	33
第44図	調査区南壁土層図（1/40）	34
第45図	SX010平面図（1/40）	34
第46図	出土遺物（1/3）	35
丹生遺跡群長迫地点		
第47図	調査地点位置図	36
第48図	調査区・試掘トレンチ位置図	36
第49図	基本土層図（模式）	36
第50図	IV層の遺構配置と遺物分布図（1/100）	37
第51図	出土遺物実測図（1/2）	38
中世大友府内町跡第14次調査		
第52図	調査地点位置図	39
第53図	遺構配置図（1/100）	40
第54図	SE100井戸枠検出状況	41
第55図	SE230井戸筒断面状況（南より）	41
第56図	SE270出土土師質井戸枠実測図（1/8）	41
第57図	SX429遺物出土状況（北より）	41
第58図	調査区全景（南より）	41
中世大友府内町跡第15次調査		
第59図	調査地点位置図	42
第60図	試掘トレンチ及び各調査区遺構配置図（1/250）	43
第61図	中区完掘状況（南から）	43
第62図	試掘トレンチ配置図（1/1000）	43
第63図	西区第1面完掘状況（北から）	43
中世大友府内町跡第19次調査		
第64図	調査地点位置図	44
第65図	遺構配置図（1/100）	44
第66図	調査区全景（空中写真）	45
第67図	調査区全景（南より）	45
第68図	SK002遺物出土状況	45
第69図	SE006井筒検出状況	46
第70図	SE006土層断面図（1/40）	46
第71図	出土遺物実測図	47
玉沢地区条里跡 第3次調査（1区）		
第72図	調査地点位置図	48
第73図	調査区全景（南より）	48
第74図	I区遺構配置図（1/600）	49
第75図	水口遺構配置図（1/200）	50
第76図	小区画水田基底部（南西より）	51
第77図	調査区南側東壁土層断面図（1/60）	51
下郡横穴墓群		
第78図	調査地点位置図	52
第79図	下郡横穴墓群遠景	52
第80図	下郡横穴墓群遺構位置と立面図（1/500）	53

第81図	A群18号墓遺物出土状況	54
第82図	B群1号墓遺物出土状況	54
第83図	A群遠景写真	54
第84図	B群遠景写真	54
東田室遺跡第2次調査		
第85図	調査地点位置図	55
第86図	遺構配置図 (1/300)	55
第87図	調査区全景 (北から)	56
第88図	SK009遺物出土状況	56
第89図	SK009出土遺物実測図 (1/4)	56
南金池遺跡第3次調査		
第90図	調査地点位置図	57
第91図	遺構配置図 (1/200)	57
第92図	調査区全景 (南方向から)	58
第93図	SE002検出状況 (西方向から)	58
第94図	SE002土層堆積状況 (1/30)	58
大道遺跡群第1次調査		
第95図	調査地点位置図	59
第96図	調査区全景 (空中写真)	59
第97図	SD040完掘状況 (東方向から)	59
第98図	遺構配置図 (1/200)	60
第99図	SD005出土遺物 (1/4)	60
中世大友府内町跡確認調査 (試掘調査)		
第100図	調査地点位置図	61
第101図	トレンチ配置図 (1/1000)	61
第102図	第4トレンチ全景	61
第103図	第4トレンチ南壁土層断面図 (1/40)	61
中世大友府内町跡確認調査 (試掘調査)		
第104図	調査地点位置図	62
第105図	2 T遺構配置図 (1/80)	62
第106図	遺構検出状況 (北より)	62
第107図	調査地付近見取図	62
第108図	調査地トレンチ配置図 (1/500)	62
沖浜遺跡確認調査 (試掘調査)		
第109図	調査地点位置図	63
第110図	石列遺構出土状況 (東より)	63
第111図	トレンチ内遺構配置図 (1/80)	63
第112図	調査地付近見取図	63
沖浜遺跡確認調査 (試掘調査)		
第113図	調査地点位置図	64
第114図	トレンチ配置図 (1/1000)	64
第115図	第2トレンチ遺構配置図 (1/100)	64
第116図	第1トレンチ土層模式図	64
第117図	第2トレンチ土層模式図	64

第Ⅰ章 大分市教育委員会文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月01日	大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日	大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成05年4月01日	大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月01日	大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月01日	大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月01日	大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組

2. 組織

課 長 幹 事		一 刀 修 一 玉 永 光 洋 (参事)	参事兼館長		木 村 幾多郎
課長補佐兼管理係長	熊 谷 一 秋		副 館 長	佐 藤 友 則	
	讚 岐 和 夫		主 査	清 松 直 人	
管理係	指 導 主 事	姫 野 公 徳	主 査	太 田 孝 子	
	主 任	幸 裕 美	指 導 主 事	藤 沢 敏 夫	
文化財係	主 任	桑 原 治 (平成14年度～)	主 任	武 富 雅 宣	
	主 事	浦 亜 紀	主 任	宮 崎 治	
	指 導 主 事	後 藤 典 幸	主 任	安 部 幹 夫 (平成14年度～)	
	指 導 主 事	甲 斐 猛 (歴史資料館)	技 師	中 西 武 尚 (文化財係)	
	主任技師	塔 鼻 光 司 (専門員)	研修教諭	橋 本 尚 富	
	主任技師	坪 根 伸 也	研修教諭	光 来 出 修 (平成14年度～)	
	主任技師	池 邊 千 太 郎	嘱 託	広 連 広 治	
	主任技師	塩 地 潤 一	嘱 託	仲 摩 一 義	
	技 師	高 昌 豊	嘱 託	佐 藤 曉 子 (平成14年度～)	
	技 師	河 野 史 郎			
	主 事	永 松 正 大			
	事 務 員	佐 藤 道 文 (平成14年度～)			
	嘱 託	奥 村 義 貴			
	嘱 託	荻 幸 二			
	嘱 託	佐 藤 孝 則			
	嘱 託	羽 田 野 達 郎			
	嘱 託	宮 田 剛			
	嘱 託	羽 田 野 裕 之			
	嘱 託	上 野 淳 也			
	嘱 託	小 住 武 史			
	嘱 託	松 尾 聡			
	嘱 託	松 竹 智 之			
	嘱 託	荻 谷 史 穂			
	嘱 託	水 町 裕 子			
	嘱 託	梅 田 昭 宏			
	嘱 託	井 口 あ け み (平成14年度～)			
	嘱 託	勝 間 田 あ や (平成14年度～)			
	嘱 託	岩 尾 美 保 子 (平成14年度～)			
	嘱 託	梅 木 信 宏 (平成14年度～)			

※ () 内は平成14年度

文化財課
概 要

大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成13年4月1日現在）

	【氏 名】	【勤務先・職名】	【担当】
会 長	佐 藤 真 一	元荷揚町小学校長	動植物
副 会 長	豊 田 寛 三	大分大学・教授	近 世
	北 野 隆	熊本大学・教授	建 造 物
	橋 本 昌 信	別府大学・教授	考古埋蔵
	橋 本 操 六	大分大学非常勤講師・前県総務課参事	中 世
	西別府 元 日	広島大学文学部・助教授	古 代
	宗 像 健 一	大分県立芸術会館・学芸第一課長	美 術
	友 永 尚 子	大分県立芸術会館・主幹学芸員	工 芸
	小 泊 立 矢	前大分県立先哲史料館副館長	民 俗
	吉 田 稔	元王子中学校校長	生 物

大分市文化財保護審議会条例（平成11年12月15日条例第42号）

（設 置）

第1条 文化財保護法（昭和25年法律第214号）第105条第1項の規定に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 審議会は、委員10人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任 期）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任を妨げない。

（会長及び副会長）

第4条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議회를代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（部 会）

第6条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶 務）

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委 任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和51年大分市条例第4号）は、廃止する。

第Ⅱ章 平成13年度事業概要

1 開発事前審査事業

(1) 平成13（2001）年度の概要

表1は平成13年度における開発申請内容を示したものである。

平成13年度の申請総面積は1,254,142.49㎡、総申請件数92件を数える。

その内訳は、開発計画事前審査申請3件、開発行為事前協議申請44件、開発行為変更事前協議申請1件、宅地造成工事前協議申請17件、墓地経営関係3件、土地売買等の届出16件、土地区画整理事業事前協議申請1件、砕石法第33条の6に基づく意見の聴取等3件、鉱業権の出願に関する協議5件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請については昨年度に引き続き申請件数が0件であった。

これを平成12年度の申請内容と比較すると、総件数では約16%の減少がみられる。これは開発に直接結びつく開発計画事前審査、開発行為事前協議が減少したことが主な原因と考えられる。また、審査件数においては、全体的に減少傾向にある中で、土地売買等の届出が若干増加傾向といえよう。

次に、数年来減少傾向にあった申請面積は、昨年、砕石法や鉱業権関連の申請により一時的に増加したが、本年度は従来通りの減少傾向となった。昨年度区画整理事業の申請があった植田地区は1/40に減少しており、大南・鶴崎地区・坂ノ市地区は約1/10、大分市街地区は1/5、明野・大在地区も1/2程度と軒並み減少している。ただしこれは昨年、組合施行の区画整理事業や、砕石法や鉱業権関連の申請が行われたためであり、一過性のものであると考えられる。

申請エリアに関しては、昨年度大分市街地区（A）が全体の7割近くを占め、他地区ではほぼ平均化されていたが、本年度は大分市街地区（A）に8割強が集中し、特に実質的な開発申請である開発事前協議や宅地造成協議が集中している。これは、今後の発掘調査件数の増加の要因になると考えられる。

本年の特徴としては、前述のとおり申請面積が激減したことがあげられる。前年比で約1/6に減少している。ただし、これは昨年、砕石法関連で広大な面積が申請されたためであり、来年度以降減少傾向がこのような状況をもよおすとは考えられない。ただし、減少傾向にある中で土地売買等の届出件数、面積は共に増加しており、今後このような状況が顕著になれば、開発行為に結びつくことが予測されるため、今後の動向に注目したい。

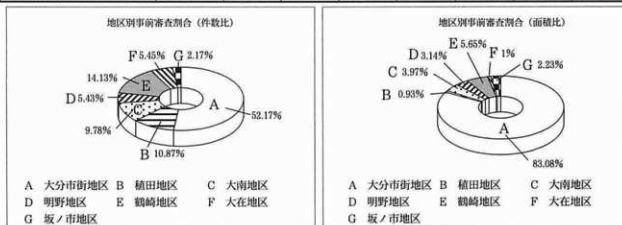


第1図 地域区分図

平成13年度
事業概要

表1 開発事前審査件数一覧

地区名	A-大分市街地区	B-植田地区	C-大南地区	D-明野地区	E-鶴崎地区	F-大在地区	G-坂ノ市地区	合計
【開発計画事前審査申請】								
件数	1	0	0	1	1	0	0	3
面積 (㎡)	49,121.54	0	0.00	17,005.34	14,619.23	0	0	80,746.11
【開発行為事前審査申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0
【開発行為事前協議申請】								
件数	22	6	4	2	8	2	0	44
面積 (㎡)	423,690.97	5,791.66	4,243.06	19,607.58	17,978.12	5,877.98	0.00	477,189.37
【開発行為変更事前協議申請】								
件数	1	0	0	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	152,277.54	0	0	0	0	0	0	152,277.54
【大規模土地取引事前指導申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0
【宅地造成工事前協議申請】								
件数	12	2	1	1	1	0	0	17
面積 (㎡)	10,739.85	1,392.95	712.09	942.09	603.47	0	0	14,390.45
【都市計画法32条協議申請】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0
【土地売買等の届出】								
件数	7	2	0	1	3	3	0	16
面積 (㎡)	31,553.59	4,538	0	1,766.80	37,599	6,824.92	0.00	82,282.30
【墓地経営に関する事前審査】								
件数	2	0	1	0	0	0	0	3
面積 (㎡)	16,123.96	0	5480	0	0	0	0	21,603.96
【土地地区画整理事業事前協議申請】								
件数	1	0	0	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	290,027.08	0	0	0	0	0	0	290,027.08
【砕石法第33条の6に基づく意見の聴取等】								
件数	0	0	2	0	0	0	0	1
面積 (㎡)	0	0	4,310.68	0	0	0	0	4,310.68
【鉱業権の出願に関する協議】								
件数	2	0	1	0	0	0	2	5
面積 (㎡)	68,403.00	0	34,982.00	0	0	0	27,930.00	131,315.00
【公共施設の設置計画等協議】								
件数	0	0	0	0	0	0	0	0
面積 (㎡)	0	0.00	0	0	0	0	0	0.00
【総合計】								
件数	48	10	9	5	13	5	2	92
件数比 (%)	52%	11%	6%	5%	14%	5%	2%	100%
面積 (㎡)	1,041,937.53	11,722.46	49,727.83	39,321.81	70,799.96	12,702.90	27,930.00	1,254,142.49
面積比 (%)	83%	1%	4%	3%	6%	1%	2%	100%



第2図 地区別事前審査割合

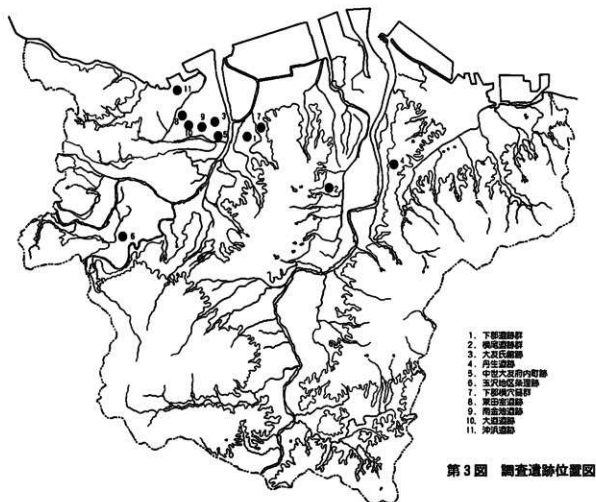
2 発掘調査事業

本年度市域内で実施された発掘調査件数は65件である。その内訳は試掘確認調査が48件、分布調査3件、本格調査17件を数える。内訳は表2・3に示している。

このうち試掘確認調査について既観する。

48件の調査件数の中で遺跡の存在が確認されたものは全体の約57%に及び、設計変更による盛土保存により本格調査に移行しなかったものを除くと、本格調査へ移行したものは総調査件数の約17%である。

以下において本年度（平成13年度）の発掘調査の成果を既観する。



旧石器・縄文

今年度の旧石器・縄文時代の調査は、丹生遺跡群において実施されている。調査地点は、昭和37年に古代学協会が実施した調査地点とほぼ重複している。今回の調査では、一部後世に削平をうけるなどしており、確実な旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。縄文時代では、早期の所産と考えられる無文土器が1点出土し、これと同一層から159点の石器および礫器がみつまっている。出土した礫器なども周辺遺跡の石器群との対照から縄文時代早期に位置付けられている。遺構は、炉穴3基と柱穴1基が検出されている。

今回確認された遺構・遺物の大半が縄文時代早期に位置付けられ、丹生遺跡群において初例となった縄文土器の出土と合わせて注目される。

(中西)

弥生時代

弥生時代の遺構は、下郡136次・137次調査、東田室2次調査、玉沢3次調査で確認されている。

下郡136次では、120次調査で発見されている二重環濠の内・外環濠の延長部分が検出されている。この溝状遺構からは、溝内土坑が確認されている。本年度の調査では遺物は出土していないが、120次調査地で人の歯が見つまっていることから墓域の可能性が指摘される。

東田室2次調査からは弥生時代前期中葉～末段階の貯蔵穴と推定される土坑群が検出されている。SX009からは多量の弥生土器が出土しており廃絶時に一括廃棄されたと考えられる。これら土坑群から出土する弥生土器は「下城式」成立段階またはそれ以前に遡る可能性があり、大分平野の弥生前期の土器相に一考を投げ掛けるものである。玉沢3次調査では、布留式古段階に比定される水田層の下層から下城式土器を内包する水田層が検出されている。隣接する独立台地上には弥生前期の集落の存在が推定されていることから、その有機的関係が窺える。

古墳時代

古墳時代の遺構は、下郡136次・137次調査、下郡横穴墓群、東田室2次調査、玉沢3次調査で確認されている。下郡136次・137次では弥生終末～古墳時代初頭の住居跡が検出された。下郡横穴墓群からは33基の横穴墓が確認され、墓内部に石像仏が安置されるなど江戸時代に二次利用が行われていた。2号墓・23号墓は、出土遺物から7世紀中頃に比定され、また人骨、刀子の出土が認められた。東田室2次からは古墳時代初頭から前期に位置付けられる井戸跡、住居跡が確認された。玉沢3次では、小区画水田が37区画検出されている。この水田跡は畦畔（基底部）により直線的に整然と区画されており、水田造営に際し省力化を目的とし、そのための遺地が行われた可能性が指摘される。これら水田が機能していた時期は、出土遺物および層位学的所見から4世紀から5世紀頃にかけてのものと考えられる。

近年、大分市内では古墳時代初頭から前期にかけての調査事例が増加している。特に、今年度調査が行われた玉沢3次調査では水田遺構が確認されるなど、集落と生産地の関係が若干ではあるが解明されつつある。今後、大分平野全体を通した展開を考えていく必要がある。

古代

当該期の遺構は、下郡136次調査、下郡横穴墓群、東田室2次調査、玉沢3次調査、南金池3次調査で確認されている。

南金池3次では、丸太を割り貫いた木枠を二重に設置した井戸跡が検出された。また、多量の製塩土器が出土

しており、製塩関連施設の存在する可能性が想定される。

玉沢3次では、9世紀前半、9世紀中頃の水田遺構及びそれに伴う施設が確認されている。使用時期が9世紀前半と考えられる水路には大畦畔が伴いその構造から、用水路の堤としての機能があったと考えられる。当地は中世には皇室御領となる植田庄に比定され、区画整理以前は条里状地割を色濃く残していた。今回の調査は、当地の開発史を窺い知るに多大な情報をもたらしたと言える。（佐藤）

中世

平成13年度は、8月13日に待望の友友氏館跡の国史跡指定が行われ、これに呼応するように中世大友府内城下町跡を中心に、数多くの成果が提示された年となった。

中世大友城下町跡に関する調査では、友友氏館跡の範囲確認調査・国道10号線古国府拡幅事業・JR高架事業の三つの大規模事業に伴う調査が大分県教育委員会、大分市教育委員会によって実施されている。その様相は東西0.7km、南北2.2kmに展開する豊後府内町の中央にあたる巨大な十字形のトレンチを入れたかのような状況を呈している。

本年度の調査は、友友氏館跡内において第10次・第11次の2地点の調査が、町屋部分に相当する中世大友府内町跡で第10次・第11次・第12次・第13次・第14次・第15次・第16次・第18次・第19次の9地点の調査が実施された。

友友氏館跡第10次調査は方二町規模と考えられている館推定範囲内の北東部分に相当する調査である。昭和62年に作成された復原想定図上の友友氏館北側外郭線の推定ライン上の調査を実施し、推定ライン上において東西方向の溝状遺構を確認している。これは前年度に第7次調査で確認した館北限施設の延長部にあたるものと考えられ、館の北限確定作業を大きく進展させた。

友友氏館跡第11次調査は前年度の第6次調査に引き続く館の中核部と推定される地点の確認調査として実施した。当地点の調査では第6次調査で検出されていた大型建物関連遺構がさらに西側に展開する状況を明らかにしている。さらに、建物群の周囲に土師器を廃棄した土坑数基も確認されており、当地点の空間利用状況の一部を明らかにした。

中世大友府内町跡第10次調査地は友友氏館跡の南西地点に位置し、大分県教育委員会により調査が実施された。調査では大型の側溝を伴う石敷き構造物をもつ道路状遺構が確認されており、さらには、この道路の北側部分において木棺墓群が検出されている。これらの木棺墓は、竪構造や当地がダイウス堂と呼ばれた教会施設推定地に隣接する点からキリシタン墓の可能性も指摘されている。

中世大友府内町跡第11次調査は友友氏館の北東隣接地に相当し、「称名寺」に推定される地点の調査であり、国道10号線古国府拡幅事業に伴い大分県教育委員会により実施された。調査では、砂、粘土、砂利を版築状に突き固めて築造された南北道路が検出されている。道路と推定「称名寺」との敷地境界に幅6m、深さ2.2mの堀状の溝状遺構と土塁が確認されており、この堀状の溝からは貝類、獣骨、陶磁器、土師器、木製品等が出土した他、表面に金箔を貼った京都系土師器皿の出土なども確認されている。さらに、「称名寺」境内推定地内の井戸跡からは、目の部分に金箔を貼った鬼瓦の破片なども出土している。

中世大友府内町跡第12次調査地点は第11次調査と同様に国道10号線古国府拡幅事業に伴い調査が実施された。友友氏館の東面の北側部分に位置し、「復原想定図」では南北方向の大路と々々小路の交叉する部分にあたる。推定「桜町」に相当する地域である。調査では、側溝を伴う南北、ならびに東西方向の道路交叉点が検出されており、想定図の精度の高さを追認する結果が提示されている。両道路とも砂、粘土、砂利を交互に突き固め路面が形成

され、南北方向の道路は16世紀中頃から後半に敷設されたと推定されている。築成当初の道路幅は約10mを測り、最終的には6m程度に縮小される。また、交叉点部分では2基1対の柱穴が確認されており、「府内古図」に描かれた木戸跡と推定されている。道路に画された「桜町」に想定される町屋跡では、16世紀後半から末を主体とした遺構群が展開する。なかでも焼土層に覆われた状況で確認された礎石建物跡が目立つ。礎石建物跡は、東西を主軸とする1号建物跡と南北方向を主軸とする2号建物跡から構成され、これらの建物跡には青銅炉跡や池状遺構などが伴う。出土遺物には中国青花、朝鮮王朝産陶器、華南三彩、犬形土製品、ガラス製品、各種分銅などがある。

中世大友府内町跡第13次調査地は、大友氏館跡の南東方向近接地に位置し、「御内町」、あるいは「堀之口町」に想定される地域に相当する。注目される出土遺物にメダイ、タイ産のケンディ破片などがある。

中世大友府内町跡第14次調査は民間の集合住宅建設に伴い実施した調査である。「唐人町」に比定される地域に相当する。調査では戦国時代の整地層を挟み、上下2つの文化面が確認されている。上位の文化面は16世紀代に比定され、井戸跡、土坑等が確認されている。下位の文化面は古代のものである。また、上位文化面では複数遺構で出土した遺物間の接合状況が認められ、遺構腐蝕の同時性が指摘されている。これらの現象は、天正14～15年（1586～1587年）の島津氏侵攻に伴う火災処理の結果とする可能性も示唆されている。

中世大友府内町跡第16次調査では「上市町」に比定される町屋跡、道路跡などが確認されている。第16次調査地点はJR高架事業に伴い大分県教育委員会により調査が実施されている。特筆すべき成果として、道路に面した短冊状の屋敷地の確認があり、さらには、1587年の豊薩戦争に伴うと考えられる焼土層上部に位置する遺構も確認されており、豊薩戦争後の府内町の状況を示す貴重な資料を提示した。

中世大友府内町跡第18次調査は大友氏館跡の東面、前述の第12次調査に南接する調査区である。調査では第12次調査では大友氏館の東側に位置する南北道路の延長部が確認されている。今次の調査で特筆されるのは、検出された南北道路の西側の空間、すなわち、大友氏館跡の東側前面空間の一部が明らかにされた点にある。この部分は、大友氏館の東側外郭施設と南北道路に挟まれた空間に相当するものと考えられるが、16世紀中頃～末の間の遺構変遷が明らかにされている。

中世大友府内町跡以外の調査事例としては、横尾遺跡第83次調査がある。ここでは現状で南北50m以上、東西60m以上を測る溝で区画された空間内に掘立柱建物跡が認められており、16世紀末に比定される半町規模の方形館の存在が推定されている。

（坪根）

【参考文献】「発掘された宗廟の城下町」2002 大分県教育委員会

近世

本年度行われた近世遺跡の発掘調査は、それ自体に主眼をおいた調査（府内城・城下町跡等）は皆無であり、下郡遺跡群第134次調査におけるSD001,005、第128・135次調査におけるSB010、SF085、第137次調査におけるSD080、及び横尾遺跡83次調査におけSD005,025等、複合遺跡における調査事例のみであった。

（河野）

表2 大分市平成13年度発掘調査地一覧

調査地点	種別	事業内容	遺跡名	調査地	調査担当	調査面積 (㎡)	調査期間
00001	国庫補助事業	市内遺跡確認調査	大友氏館跡第10次調査	大分市顕徳町	池邊千太郎 羽田野裕之	75	131210-140301
			大友氏館跡第11次調査	大分市顕徳町	永松正大	49	131213-140304
			中世大友府内町跡 第19次調査	大分市顕徳町	高品 豊	106	131127-140212
			横尾遺跡第82 ・2次調査	大分市横尾	塩地潤一	88	130912-131030
			丹生遺跡群	大分市丹生	塔鼻光司 萩 幸二	1507	131026-131207
00002	公共事業	横尾土地区画整理事業	横尾遺跡第82次調査	大分市横尾	塩地潤一 奥村義典 小住武史	2140	121010-130823
			横尾遺跡第83次調査	大分市横尾	塩地潤一 奥村義典 小住武史	495	130507-140108
			横尾遺跡第85次調査	大分市横尾	塩地潤一 奥村義典 小住武史	133.5	140129-140314
00003	公共事業	下郡土地区画整理事業	下郡遺跡群133次調査	大分市下郡	永松正大 羽田野裕之	79	130801-140328
			下郡遺跡群134次調査	大分市下郡	永松正大 高谷史穂 松竹智之	300	130623-140328
			下郡遺跡群128次 ・135次調査	大分市下郡	永松正大 早田利宏 横山歩	530	131205-140328
			下郡遺跡群136次調査	大分市下郡	坪根伸也 永松正大 松竹智之 羽田野裕之	417	131120-140328
			下郡遺跡群137次調査	大分市下郡	永松正大 高谷史穂	508	131201-140328
000004	公共事業	駅周辺総合整備事業	雨金池遺跡第3次調査	大分市顕徳町	後藤典幸 梅田昭宏	181	131212-140122
			大道遺跡群第1次調査	大分市大道町	後藤典幸 梅田昭宏	600	131119-140326
000005	公共事業	都市整備事業	東田室遺跡第2次調査	大分市田室町	高品 豊 梅田昭宏	430	130507-130920
000006	民間開発	宅地造成	下郡横穴墓群	大分市下郡	池邊千太郎 早田利宏	2300	130117-130629
000007	民間開発	共同住宅建設	中世大友府内町跡 第14次調査	大分市顕徳町	池邊千太郎 上野淳也	104	130515-131020
000008	民間開発	店舗建設	中世大友府内町跡 第15次調査	大分市顕徳町	讃岐和夫 塔鼻光司 宮田剛	500	130524-13091
000009	民間開発	土地区画整理事業	玉沢地区条里跡	大分市玉沢	甲斐猛 松尾聡 佐藤孝剛	2100	130709-140330

平成13年度
事業概要

表3 大分市平成13年度試験調査地一覧

番号	種別	道 路 名	住 所	調査面積 (㎡)	調査期間	開 発 原 因
1	確認 (公共)	大道条里跡	大分市大道5丁目534番15	20.8	130425	駅周辺総合整備事業
2	確認 (民間)	中世大友城下町跡	大分市顕徳町2丁目 3044-2・5・6・11	14	130510	個人住宅建設
3	確認 (民間)	辻道跡	大分市大字吉野原高松 277、278、281-1	21	130517	工場建設
4	確認 (民間)	庄ノ原道跡	大分市大字佐隈字深河内 1573-3番地先外	35	130524-130525	道路改良工事
5	確認 (民間)	沖浜道跡	大分市勢家町1丁目512-1	7	130607	個人住宅
6	確認 (公共)	南金池道跡	大分市顕徳町1丁目 2821-16	15	130615	駅周辺総合整備事業
7	確認 (民間)	古国府道跡群	大分市大字永興 96の3、 97の3、98の3、98の4	24	130619	保育所建設
8	確認 (公共)	下志村道跡	大分市角子原1丁目 4番 (大に多目的広場)	771	130703-130709	学校施設整備
9	確認 (民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字小中ツル 1954-1、1942-1番地 (C-11)	16	130704	宅地整地工事
10	確認 (公共)	大在浜道跡	大分市大在浜2丁目18番	1851	130710-130718	学校施設整備
11	確認 (民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字橋ノ本 799-1番地外 (E-5)	20	130718	宅地整地工事
12	確認 (民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字女屋敷 870-7番地 (F-4-チ)	18	130730	整地工事
13	確認 (民間)	古国府道跡群	大分市大字羽屋字園 1101-3の一部 外	21	130809	共同住宅建設
14	確認 (公共)	下郡道跡群	大分市大字下郡 1951-1 1952-1 1956-1 2413-3	120	130824	下郡区画整理事業
15	確認 (民間)	丹生道跡群	大分市大字丹生字長道 1748-15他	1010	130904-130912	牛舎建設
16	確認 (公共)	下郡道跡群	大分市大字下郡字六田 819-2番地 (C-22-ツ)	30	130907	下郡区画整理事業
17	確認 (公共)	下郡道跡群	大分市大字下郡北3丁目 23-33番地	2	130907	下郡区画整理事業
18	確認 (民間)	沖浜道跡	大分市勢家町3丁目550-2	11	130914	個人住宅建設
19	確認 (公共)	下郡道跡群	大分市大字下郡 2460-4、2695-7、外6区	40	130917	下郡区画整理事業
20	確認 (民間)	二目川道跡	大分市大字横尾字芝尾北 3625番外4区	70	130919	住宅造成
21	確認 (民間)	鶴崎町道跡群	大分市東鶴崎1丁目2番	60	130925-130927	未定
22	確認 (民間)	佐隈杉下道跡	大分市大字佐隈字熊群 702-6 703-7	40	131011	共同住宅建設
23	確認 (民間)	中世大友城下町跡	大分市大字大分字中前田 4725	20	131019	未定
24	確認 (民間)	府内城・城下町	大分市長浜町1丁目5258番14	50	131023	共同住宅建設

表3 大分市平成13年度試掘調査地一覧

番号	種別	遺跡名	住 所	調査面積 (㎡)	調査期間	開 発 原 因
25	確認(民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字江崎 58-1番地(E-4-ホ)	80	131023	店舗建築
26	確認(民間)	府内城・城下町	大分市都町2丁目 133番 134番 146番1・2	40	131025・131101	建物建設
27	確認(民間)	沖浜道跡	大分市勢家町3丁目1-10	40	131107	個人住宅建設
28	確認(公共)		大分市金池南2丁目他	73	131110・131218	道路拡幅
29	確認(民間)	丹生川坂ノ市 条里跡	大分市大字里字砂早橋 2452番地2 他4筆	302	131113-131115	工場増築
30	確認(民間)	丹生道跡群	大分市大字丹生字野間 2983-3 他6筆	80	131121	牛舎建設
31	確認(公共)	南金池道跡	大分市顕徳町1丁目2758-8	30	131128	駅周辺総合整備
32	確認(民間)	津守道跡	大分市大字津守字宮ノ後 244番1	15	131130	共同住宅建設
33	確認(民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字上サ 2148番地(D-17-テ)	15	131204	共同住宅建設
34	確認(民間)	沖浜道跡	大分市勢家町1丁目 639	15	131204	住宅建設
35	確認(民間)	専想寺道跡	大分市大字森町字栗坂通 591番1他4筆	90	131207	店舗建設
36	確認(民間)	下郡道跡群	大分市下郡土地区画B-7-ル	20	131212	倉庫建設
37	確認(公共)	玉沢地区条里跡	大分市大字市字石橋 51-1 52-1 53-1 54-1	110	131219-131220	消防署建設
38	確認(公共)		大分市桜ヶ丘1180-10	40	140108・140117	駅周辺総合整備
39	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字玉沢字深町 964番 967番10	40	140110-140111	病院建設
40	確認(公共)	東田家道跡	大分市田室町9番	55	140123	道路建設
41	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字玉沢字四月田 84-1他3筆	250	140212	病院建設
42	確認(民間)	下郡道跡群	大分市大字下郡字寺小路 2604-2	33	140220	共同住宅建設
43	確認(公共)	南金池道跡	大分市顕徳町1丁目 2821番地の10、19	25	140221	駅周辺総合整備
44	確認(民間)	羽田道跡	大分市大字羽田字岩屋 751-1、424-1	25	140306	宅地造成
45	確認(民間)	丹生川坂ノ市 条里跡	大分市大字一木字祝田732	394	140306-140308	工場建設
46	確認(民間)	若宮八幡宮道跡	大分市上野丘西 2993番3 2994番	7	140313	未定
47	確認(公共)	若宮八幡宮道跡	大分市上野町4番5号	10	140313	学校建設
48	確認(公共)	大道道跡群	大分市金池南1丁目 1110番地の1、2、3、4	30	140325	駅周辺総合 整備事業

3 教育普及活動

(1) 大分市文化財より 2001年号の発行

平成3年度から発行を続けている文化財だよりの2001年号(第10号)の作成、配布を行った。

今回の特集は、大友氏館跡の国史跡指定の答申を受け、中世大友再発見とし、市民に向けて広く情報の発信を図った。

- 内 容 ・発掘調査が語る中世大友府内町
・中世大友再発見フォーラム
・大友氏館跡国指定史跡へ答申

配布先 市内全戸



第4図 文化財だより表紙

(2) 現地説明会

今年度は、現地説明会を計7回開催し、延べ2250人の参加者を得た。

名 称	月 日	参加人数	
下郡横穴墓群	4/28	100人	
横尾遺跡群第82次	4/28	100人	
第2回横尾遺跡群第82次	6/24	900人	
中世大友府内町跡	9/1	500人	(県教委と共催)
玉沢地区里跡第3次1区	12/29	150人	
中世大友府内町跡・大友氏館跡	3/3	400人	(県教委と共催)
高崎山城登城	3/10	100人	

(3) 研修参加

独立行政法人奈良文化財研究所による一般研修「一般過程」に職員1名を派遣した。

(4) 新指定文化財

指 定 県指定有形文化財

名 称 刀

住 所 常行 得丸善一郎

指 定 平成13年4月3日

名 称 「木造聖観音菩薩坐像」、「木造十一面観音菩薩立像」

住 所 大分市八幡 大山寺

指 定 平成14年3月29日

4 海部古墳資料館

平成12年4月28日に開館した海部古墳資料館において、以下の事業を行った。

(1) 特別展

平成13年度特別展として、昨年度市の無形民俗文化財に指定した伊与床神楽をはじめ、上戸次小子ども神楽、日吉子ども神楽による「神楽の競演」を、第8回海部のまつりに合わせて実施した。

名 称 「神楽の競演」

開 催 日 平成13年10月13日(土)

(2) 入館者数

団 体	184団体	8,109人
個 人		11,996人
合 計		20,105人

(3) 古代土笛製作体験

平成14年度より開催予定の、古代土笛製作体験の、指導者講習のため、下関市立考古博物館に職員2名を派遣した。



第5図 伊与床神楽

5 中世大友再発見フォーラム

大友氏館跡の国史跡指定を記念し、大友氏遺跡を全国に発信することを目的として、中世都市研究会と共催で平成13年9月1～2日に開催した「中世大友再発見フォーラム」を中心として、8月26日から9月2日までの1週間を「大友週間」と銘打ち、各種記念行事を実施した。

(1) 中世大友再発見フォーラム

記念講演・公開シンポジウム 9月1日

記念講演 石井 進 「南蛮貿易都市の軌跡」

小野正敏 「戦国時代の館その景観と機能」

公開シンポジウム

テーマ「大友復活、地域活性、住民参加、街（都市）づくり」

中世都市研究会全国集会 9月2日

テーマ「豊後府内の都市と交易」

報告 坂本嘉弘 「考古学から見た中世大友府内城下町の成立と構造」

鹿毛敏夫 「文献・絵図からみた大友館と府内の町・都市と国際性」

高島 豊 「戦国時代豊後府内の貿易陶磁器」

大橋康二 「陶磁貿易からみた東南アジアと日本・豊後」

全体討論

フォーラム期間中、会場であるコンパルホールロビーにおいて、大友氏関連遺跡出土品を中心としたミニ展示を行った。

(2) 大友週間行事

大友ウォーク「ビンゴで歩く南蛮都市府内」8月29・30日

・中世府内町と大友氏ゆかりの史跡を、ビンゴ形式のクイズに答えながら散策した。

高崎山城登城「大友宗麟・義統のお城に登ろう」8月26日（雨天により延期）

・昔の登城ルートで高崎山城に登り、山頂では現地説明会を開催した。

夏休み特別連続講座「大友氏、大友宗麟についてもっと知ろう」8月28～31日

・歴史資料館にて4日連続で大友氏、大友宗麟について講座を行った。

「知ってるつもり!? 大友宗麟」8月28日～9月2日

・市民図書館に大友氏関係の本を集めたコーナーを設置。

バスツアー「見たい! 知りたい! 宗麟のまちめぐり」8月26・27・28日

・大友氏ゆかりの史跡、発掘現場をめぐるバスツアーを3日間実施する。

宗麟茶会 8月29・30日

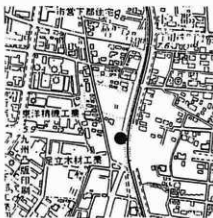
・コンパルホールにおいて出土した茶器の展示と茶会を行った。

平成13年度
事業概要

I 下郡遺跡群133次調査 E区q-15地点

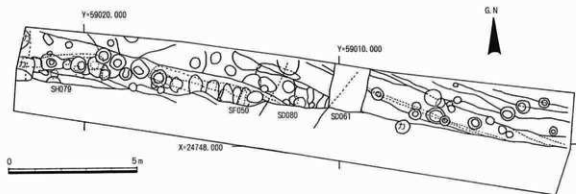
調査面積 約78.96㎡ 調査期間 2001.05.15～01.08.10
地域 A 調査担当 永松正大・羽田野裕之

今次の調査は、下郡土地区画整理事業の整地事業に伴う擁壁設置部分を中心に実施した。調査区は、平成9年度に庄ノ原線造成に伴って調査が行われた第92次調査区の北側に隣接する。また、調査区の東側は第104次調査区である。調査の結果、第92次・104次調査で検出された道路状遺構・溝状遺構・竪穴住居跡等の遺構群の続きが検出された。検出遺構には、竪穴住居跡、溝状遺構、道路状遺構、柱穴などがあり、各年代は、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世である。



第6図 調査地点位置図

弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡 (SH079)・溝状遺構 (SD080)を確認した。SH079は調査区西側に位置し、検出面での規模は1辺約3.2mを測る。これは、第92次のSH365の続きであり、隅丸方形の住居である。時期は遺物が碎片のため不明である。SD080は調査区中央で検出され、N-35°-Eの方向に掘削されている。検出面での規模は、幅約2.7m深さ約0.7mを測り、断面形状は逆台形を呈する。土層観察から2回以上の掘り返しを確認出来る。出土遺物は最終掘り返し段階の底面から、大量に出土する。出土する土器に東九州系の甕があり、出土した土器群の様相から弥生時代中期中葉～後葉の所産になるものと考えられる。



第7図 遺構配置図 (1/150)

古代の遺構としては、道路状遺構（SF050）や溝状遺構、土坑、柱穴が検出されている。SF050は調査区を斜めに横断する形で検出されている。この遺構は第92次・第104次調査において確認された東西道路状遺構（SF310・001）につながるものである。今回の調査では、この道路状遺構（SF050）が第104次で確認された改修は認められず、改修段階に伴う路面と側溝は見られなかった。しかし、連続土坑の切り合い関係から最低3回の改修と第92次・第104次とは若干異なる構築状況がわかった。構築状況はSF050を構築する以前に道路下面を掘りくぼめ、硬質土を版築状に堆積した長土坑（SX075）を形成し、道路として構築していた可能性がある。これは、SX075の下層に弥生時代の環濠（SD080）が存在していることから、その路面沈降防止の構築方法と考えられる。また、西側に連続土坑の数が少ないのは、西側の地山の土質が南側の土質に比べ硬質であることから、連続土坑を作る必要がないと考えられる。これは道路を造るのに関して一定の規則がなく、地山の土質によって道路の構築工法を変えていると思われる。連続土坑の中には土器の破片を敷きつめている。中には獣骨（歯）を検出しているものもあり道路構築に伴う祭祀的行為であろうか。時期は、道路構築以前に形成される土坑、及び連続土坑の出土遺物から8世紀末から9世紀初頭に比定できる。

他の主要遺構として溝状遺構（SD001）がある。この遺構は第92次調査で検出されたSD303の続きである。SD001は調査区の中央をN-15°-Eの方向で南北に縦断する。検出面での規模は幅約1.0m、深さ約0.7mを測る。断面形状V字形を呈す。複数回の掘り返しが確認でき、最終段階には人為的な埋め戻しの状況を確認する事が出来る。出土遺物は細片の為、時期等は判明しない。第92次調査で確認されたSD303の調査所見から中・近世のものと考えられる。

（永松・羽田野）



第8図 調査区全景（東より）



第9図 SF050検出状況（西より）

下部遺跡群
第133次
調査 E区
q-15地点

Ⅱ 下郡遺跡群134次調査 H区 s-21・22地点

調査面積	416㎡	調査期間	2001.05.17～01.09.10
地域	A	調査期間	永松正大・苅谷史穂・松竹智之

今次の調査は下部地区土地区画整理（整地工事）事業に伴い実施した。本調査地点は下郡遺跡群の南端に位置し、平成元年度に行われた13次調査の西側に隣接している。調査の結果、調査区南壁付近に東西と調査区中央付近に南北にのびる溝状遺構が確認された。東西にのびる溝状遺構はSD001・SD005・SD015、南北にのびる溝状遺構はSD024・SD025・SD030・SD031・SD036・SD040・SD041・SD043が確認された。

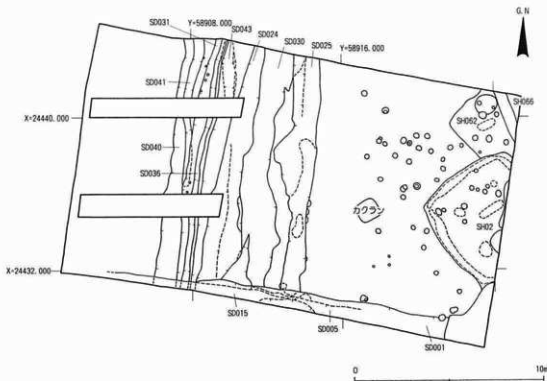
SD001は調査区南壁に沿って中央付近で南壁に入り込む。この遺構は隣接する13次調査においても確認されており、この溝は以前の田境と一致するため、水田に伴う用水路と考えられる。時期は土器片しか出土していないため特定できないが、13次調査などの所見から近世以降に構築されたものと考えられる。

SD005はSD001の床面で確認され、SD001とはほぼ重なる形で調査区南側中央付近の南壁に入り込む。検出面で幅約0.8m、長さ約11m、深さ約0.8mを測る。時期は下層から肥前系陶磁器が出土していることから近世以降に構築されたものと考えられる。

SD015はSD005の床面で確認され、調査区南側中央付近から調査区西壁まで確認された。検出面での最大幅約0.9m、長さ約13mを測る。断面形状は逆台形を呈する。時期は、土器片とともに時期決定できる白磁小片（一部釉剥ぎ）が出土しており、16世紀代に構築されたものと考えられる。



第10図 調査地点位置図



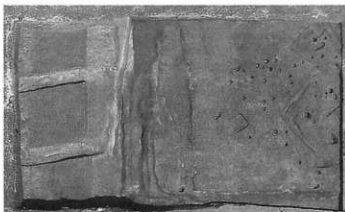
第11図 遺構配置図 (1/200)

SD024は調査区中央付近で確認された。検出面で最大幅約1.8m、長さ約12.5m、深さ約0.4mを測る。主軸方位N-0°~5°-Eを示す。断面形状は逆台形を呈しており、南側はSD015に切られる。時期は、青磁高台付碗と土師器片などから15世紀代に位置づけられるものと考えられる。また、石像4体が出土しており、これらの石像は頭部が欠損し、うつ伏せの状態出土した。この石像は形態や着用している衣服などから十王の可能性が高いと考えられる。



第12図 石造物出土状況

SD025は調査区中央付近で確認された。検出面での幅約1.0~1.5m、長さ約12.5m、深さ約0.45mを測る。主軸方位はN-0°~5°-Eを示す。断面形状は不整逆台形を呈する。時期は、少量であるが、下層より16世紀末に位置づけられる土師器皿が出土していることから、16世紀代であると考えられる。

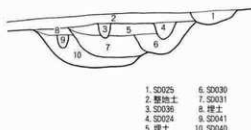


第13図 調査区全景

SD030は調査区のほぼ中央で確認された。検出面で幅約3.0~3.2m、長さ約12.5m、深さ約1.1mを測る。主軸方位N-0°~5°-Eを示す。SD030の時期は、下層より龍泉窯系青磁碗片、同安窯系青磁皿片、華南で生産された白磁の小片があることから15世紀代の可能性も考えられる。

SD031はSD015・SD030の床面で確認された。SD030に切られ検出面で残存幅1.6~1.8m、長さ約12.5m、深さ0.45mを測る。主軸方位N-5°~10°-Eを示す。断面形状はSD030に切られるため、不明であるが逆台形が推定される。SD031は土器片が出土しているが、時期を特定できるものはない。

SD036はSD030の西側で確認された。SD015とSD031を切っており、検出面で幅0.3m、長さ約12.5m、深さ約0.35mを測る。主軸方位N-5°-Eを示す。断面形状はU字型を呈す細長い形状の溝である。時期は土師器の小片のみしか出土していないため、明確にできないが、層位などから近世以降に構築された溝と考えられる。



第14図 南北土層模式図

SD040はSD031の西側より確認され、SD031・SD041に切られる。検出面で残存幅約2.8~3.1m、長さ約12.5m、深さ約0.6mを測る。主軸方位N-0°~5°-Eを示し、時期は中世の前半段階に位置づけられる瓦や、最下層より龍泉窯系青磁碗のIV類が出土しており、14世紀代に位置づけられると思われる。

SD041はSD031の西側で確認された。SD040を切りながら、調査区中央付近でSD031に切られる。検出面での幅0.5m、長さ約7.5m、深さ約0.35mを測る。時期は土師器の小片が出土しているが、時期は不明である。しかし、SD040との関連から中世前半段階と考えられる。

SD043はSD040の床面より確認した。土器片などが出土しているが、時期は不明である。調査区内で検出した溝のなかで最も古い溝である。

今回の調査では溝状遺構が検出され、調査区の東側には第13次調査で確認された竪穴式住居跡群があることや、調査区中央付近には空地がある事、確認された南北にのびる溝状遺構のほとんどが中世段階に構築された遺構であることがわかった。しかし、調査区内で最も古い遺構であるSD043が確認されたことから、この遺構が周辺調査区で確認された弥生後期の環濠である可能性も考えられる。また、今回の調査区と同様に本調査区の東側にあたる第39次調査で、近世に構築された南北にのびる溝状遺構3条が確認されているが、このように溝が併走している点を踏まえると、これらの溝が水路としての機能を有していたと思われる。また、時期ごとに西から東に溝が変遷していくことが今回の調査で明らかになった。この地域の開発が行われた事により、このような変遷がみられたと考えられる。

(荻谷・松竹)

Ⅲ 下郡遺跡群第128・135次調査

J区 r-5~8 地点

調査面積	530㎡	調査期間	00.10.12~01.01.15・01.07.19~01.08.23
地域	A	調査担当	永松正大・早田利宏・横山歩

下郡遺跡群は、大分川河口付近の右岸に当たる自然堤防上に立地しており、標高4~7mの低丘陵付近に遺跡が展開している。調査は、土地区画整理事業の街路建設に伴う事前発掘調査として実施した。調査区は、同遺跡群の北西端付近にあり、近年の周辺調査では、大型掘立柱建物群、土器焼成土坑、道路跡など官衙関連遺跡（「大分郡衙」?）と想定されており、官衙関連遺跡に伴う遺構の検出が想定された。調査の結果、古代は須恵器蓋を埋置したビット、土坑群、中世では溝状遺構、近世の掘立柱建物跡、近世~近・現代の道路遺構が確認された。



第15図 調査地点位置図

古代についてはSX079とSX050が検出される。SX079は、調査区の中央部に位置する。径0.25mで平面円形を呈しており、柱痕は検出できていない。須恵器環蓋は、埋土中にやや傾いた状態で、つまみ部を下に向けた状態で置かれていた。土層観察の結果、不整合が見られることから柱を引き抜いた後、須恵器環蓋を埋置したものと考えられ、建て替え、ないしは建物の廃棄に伴う祭祀行為の痕跡と想定される。須恵器環蓋の時期は、小田編年のIV期にあたり、7世紀後半に比定出来る。

SX050は、複数の土坑が集中する遺構である。各土坑は、約0.6m規模の楕円・円形のプランを持ち、不規則な切り合い関係が見られ、掘り下げるにつれて窄まる形状になり、深さは0.3~0.4mに収まる。当初は、土坑墓群、または大型円形遺構（囲い等）を考えていたが、センタービットや、土層の不整合が確認出来ない事などから、性格については不明である。何らかの建物跡の柱穴とも想定されたが、確証には至っていない。

埋置ビットや、不明土坑群も明らかな削平を受けており、その際に古代段階の遺構は多くが消失したと考えられる。

中世は溝状遺構（SD020・035・040）が検出されている。調査区の北側に東西方向に延びている。3条ともほぼ同一方向を示し、同地点に踏襲している事から、字境に当たるものと考えられる。SD035・040は断面形状V字形であり、何らかの防衛的な性格も有していた可能性も考えられる。時期は、出土遺物から、14~15世紀代に比定される。SD020は、断面形状逆台形状で幅1.5m深さ0.8mを測る。ラミナがみられる事から、流水の痕跡と考えられる。時期は、近世（幕末）以降の遺物が出土しており、当該期に当たると考えられる。



第16図 SF085土層観察時

近世では、掘立柱建物跡（SB010）と、字境に確認できる道路状遺構（SF085）を確認した。SB010は、3間+ α ×2間で、掘り方隅丸形状で、径約30cmで最深では70cmを数える。時期は、出土した唐津折縁皿の形状から17世紀に比定される。SF085は、現表道路下に地山を掘りくぼめて、砂利・砂・粘質土を交互に版築し、嵩

下郡遺跡群
第128・135次調査
J区 r-5~8 地点

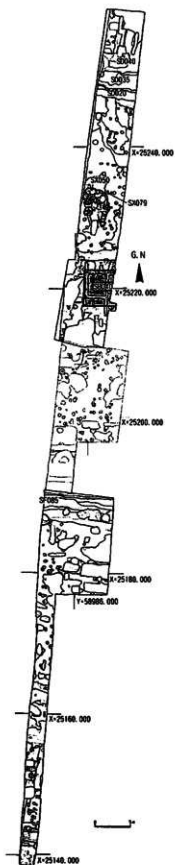
上げていく状況が土層から看取できた。また、路面の両側に側溝を持つ。最下層からの出土遺物から18世紀末以降に構築されたと考えられる。但し、現状で確認できる道路遺構側溝以外は、道路構築の際に破壊されたと考えられる。いわゆる「豊後型道路」にあたる。掘乱埋土内から緑釉陶器片が1点出土している。

今回の調査では、古代の官衙関連遺跡の検出が期待されたが、後世の大規模な削平により以降の残存状況は、概して悪い。隣接地の標高差は約60cmになり、近隣の住民の話では、耕作地内で弥生の複合口縁壺や、甕を大量に確認しているとのことであり、現状で確認できていない弥生期の集落等の展開が想定される。

SX050・079のように、古代に帰属する遺構を確認したものの、官衙関連遺跡との確証に至らなかった。その中で、SX050は初見の遺構であり、今後類例資料の増加を待ちたい。中近世では、字境に関する遺構が展開しており、現状地割の形成が少なくとも中世（14～15世紀）の段階まで遡ると判明し、SD035・040は防衛的性格を有する可能性もあることから、中世城館の溝（堀？）などが考えられる。

近世～近現代の道路遺構を128・135次の両調査区で確認し、135次の調査区南でも近代にかかる道路遺構を断面で確認しており、区画整理前の地籍図に見られる道路部分にあたり、現状地割の有用性が高いと思われる。道路遺構の造成も「豊後型道路」に極めて近似するもので、他の周辺遺跡（横尾・猪野新土井等）において確認される道路遺構の造成とも近似している。平面では、連続土坑を確認できていない。以上から、近世以降の道路遺構については、多くの資料が得ることができた。また、現状地割の有用性を生かした調査を行い、下部遺跡群の地割について解明していきたい。

（永松）



第17図 遺構配置図 (1/600)

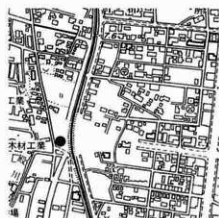
IV 下郡遺跡群第136次調査 H区q・r-16・17地点

調査面積	417㎡	調査期間	2001.09.17～02.02.06
地域	A	調査担当	坪根伸也・永松正大・松竹智之・羽田野裕之

今次の調査は下郡地区土地画整理事業（整地工事）に伴い実施した。調査地点は第53・120次調査区に隣接する。調査の結果、弥生時代中期中葉～後期初頭の溝状遺構2条、弥生時代後期の竪穴住居跡、弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴住居跡、中世段階の掘立柱建物跡、土坑、ピット群が確認された。

溝状遺構（SD005・SD015）

SD005は調査区中央付近で南北にのびる溝状遺構で、第120次調査で確認された二重環濠の内環濠にあたる。検出面での幅3.5m、深さ1.5mを測り、断面形状は逆台形を呈する。土層観察の結果、下層部に灰色砂質土とラミナ状の水性堆積物がみられることから、埋没途中で流水があったことが認められる。北側に隣接する第120次調査で、内環濠が半分程度埋没した段階で土坑が検出されている。その埋土からは人の歯が出土しており、墓墳の可能性が指摘されている。今回の調査区においても同様の土坑が数基確認された。SD005からは、主に下城式甕片がみられることから弥生時代中期中葉～後葉の所産と考えられる。



第18図 調査地点位置図



第19図 遺構全体図（1/200）

下郡遺跡群
第136次調査
H区q・r-
16・17地点

SD015は調査区西側付近で南北にのびる溝状遺構で二重環濠の外環濠にあたる。規模は幅3m、深さ0.9mを測り、断面形状は逆台形を呈する。土層観察の結果、2回以上の掘り返しが認められる。またSD005同様に、溝の底付近で土坑が確認された。外溝での溝内土坑は周辺調査区では確認されておらず、今回の調査で初めて確認された。規模は、長軸で2mを測り、形状は長方形プランを呈する。土層の堆積状況を見るとブロック土が混じる埋土があることから、人為的に埋め戻されたと考えられるが、底付近で確認されたため明確な土坑の性格は不明である。出土遺物は、最終堆積埋土内でほぼ完全に復元できる高坏がまとまって出土した以外、小破片が出土する程度である。出土している土器の形態的特徴から弥生時代中期中葉～後期初頭の所産と考えられる。



第20図 SD005・015遠景

竪穴住居跡 (SH020・SH025・SH035)

SH020は調査区西側で確認した。規模は4.5×4.5mの方形プランで、主柱穴、炉跡、壁溝を確認した。内部構造から2本柱から4本柱へと改築されたことが考えられる。2本柱の段階には住居の中央部に灰溜まり土坑が構築され、拡張する際に埋め戻され、後に地床炉を設け、灰溜土坑はその東側に移設されていることが確認された。

遺物は、住居中央付近の床面直上から完形品を含む土器がまとまってみられ、甕形土器片・高坏などが出土しており、弥生時代後期末～古墳時代初頭に比定される。また、貼床から甕の口縁部が出土しており、形態から若干古い時期に位置づけられるため、2本柱と4本柱の住居の段階には時期差があると考えられる。



第21図 調査区全景

SH025は調査区中央で確認した。規模は4.5×5.0mの方形プランで、主柱穴4基、壁溝を確認した。住居中央部に灰溜土坑がみられたが炉跡は確認できなかった。また、壁溝が巡っており、これと接続する形で東壁に屋内土坑がみられる。出土遺物は住居の中央付近の埋土より甕形土器片・壺形土器片が出土しており、これらの土器の特徴から弥生時代後期末～古墳時代初頭に比定される。

SH035は調査区中央より南側で確認された。この住居跡は西側部分が削平を受けており、約3分の1しか確認できなかったが、主柱穴と思われる柱穴1基と壁溝を確認した。遺物は僅かしか出土していないが、甕形土器の口縁片から弥生時代後期と考えられる。

掘立柱建物跡 (SB040)

SB040は調査区中央付近で確認された総柱の建物跡である。出土遺物は破片資料で僅少であり時期比定はできないが、北側に隣接する第120次調査において確認された、中世前期に比定される建物跡とほぼ同じ方向軸であることから、この時期にあてはまる可能性が考えられる。

今回の調査で確認された竪穴住居跡は弥生時代後期～古墳時代初頭に比定され、周辺調査区で確認されている住居群とほぼ一致しており、集落の一部であると考えられる。二重環濠も含め、この地区の弥生時代～古墳時代初頭にかけての様相が明らかになってきたといえよう。

(永松・松竹)

V 下郡遺跡群第137次調査 H区s-19~21地点

調査面積	508㎡	調査期間	2001.09.25~01.12.27
地域	A	調査担当	永松正大・荻谷史穂

下郡遺跡群は、大分川河口付近の右岸に当たる自然堤防上に立地しており、標高4~7mの地点に遺跡が展開する。今回の調査地は同道跡群の南側最西端に相当し、大分市下郡土地区画整理事業に伴う事前調査として実施した。

調査の結果、弥生時代後期から近世に至る遺構・遺物を確認した。以下、主要遺構について時代順に概説する。

弥生~古墳時代

竪穴住居跡2軒+α土坑2基



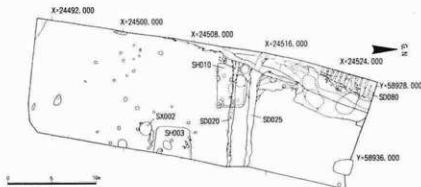
第22図 調査地点位置図

SH003

SH003は、調査区東端の中央付近で検出した。遺構の大半が調査区外に伸展しているため、全容を判明するには至らなかったが、現状での一辺が約4.4m、推定での平面形状は隅丸方形、若しくは隅丸長方形を呈する。調査区東壁面の土層観察により貼床を確認し、平面精査に於いて周壁溝が認められた。周壁溝は遺構壁面に沿って全周せず、その北側にのみ展開し西寄りて消失する。なお、主柱穴は認められなかったものの、中央からやや南寄りでは平面不整円形を呈する灰溜まり土坑を確認した。出土遺物は、極少だが底面より弥生後期に比定される壺の頸部が認められた。

SH010

SH010は調査区中央の西寄りて検出した。長軸約4.0m、短軸3.5m、遺存深度約0.15mを測る。平面形状はやや東西に長い隅丸方形を呈し、検出した段階では住居廃絶時に於ける埋没土の初期堆積土が北側に残存している状況であった。中央で地床炉を確認した。長軸約0.10m、短軸約0.80m、深さ約0.15mを測る。この地床炉には焼土塊が露出しており、その下層からは多量の炭化物が認められた。なお、地床炉の東西両端で主柱穴を確認している。また、北西側の床面に於いて土坑を検出した。径約1.30mのはば円形を呈し、深さ約0.15mの2層から成る皿状の土坑である。土坑の性格に関しては、住居に伴うこと、位置、規模、形態などを考慮すると屋内貯蔵穴の可能性が指摘できる。出土遺物は僅かながら弥生後期、古墳初頭の甕の口縁部小片である。



第23図 遺構配置図 (1/400)

下郡遺跡群
第137次調査
H区s-19~21
地 点

SX002

SX002は調査区東側の中央よりやや南側で検出した。径約1.60mの平面円形を呈し、深さ約0.80mで断面は緩やかな逆台形を呈する。堆積土は8層で、底面は平坦でなく部分的に不整円形の凹みを穿つ。特筆すべき点に出土遺物が挙げられる。土層観察に於いて内包するブロック等の大きさから8層に分層したものの、遺物の一括性が認められ、古墳時代初頭の所産であることが判明した。遺構の性格に関しては下郡遺跡群に於いて類似した資料は確認されておらず、今後の調査成果に期待する。



第24図 SX002完掘写真（西方向より）

中世

溝 2 条

SD020・025

SD020・025は調査区のほぼ中央で検出した。主軸方位はN-5°-Eで並列して、のびる。SD020は幅約0.50m、深さ約0.25mで断面U字状を呈する。堆積埋土は3層で、最下層に相当する南側は、中層埋土をブロック状に内包する人為的埋め戻しである。出土遺物は少量だが、検出面より瓦質の鉢口縁部片が出土しており、埋土の状況も考慮すると、この溝は14世紀以降の所産といえよう。SD025は幅約1.0m、深さ約0.50mの3層堆積である。土層観察の結果から、上層及び中層は断面U字状の自然堆積で、下層埋土はやや粘質を伴う人為的埋め戻しである。なお、中層から白磁碗類片が出土している。

近世

溝 1 条 + α

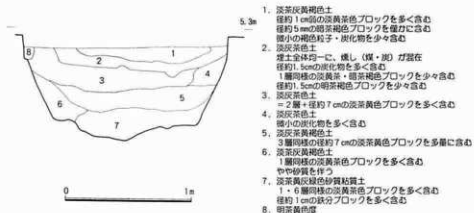
SD080

SD080は調査区西北側で検出した。遺構の大半が調査区外に伸展しているため全容を判明するには至らなかったが、現状での幅約1.0m、最深部が約0.25mの単一層である。主軸方位はN-25°-Eを測る。出土遺物には唐津系陶器小片など近世に比定される陶磁器類がある。

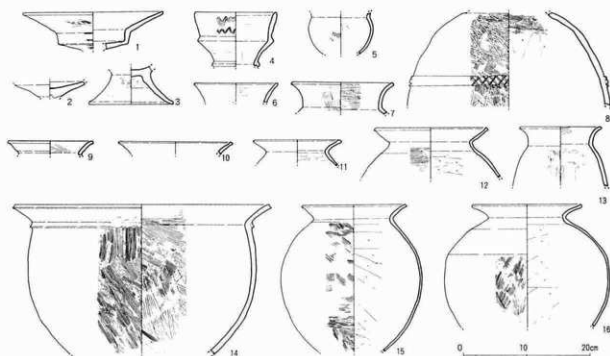
（永松・苅谷）

小結

今回の調査地は、下郡遺跡群が展開する自然堤防上の最も西側に相当する。このエリアは、既往の調査の成果に既に弥生時代終末から古墳時代初頭に比定される集落の分布が周知されていた。今次の調査では、当該期の遺構が少なかったため、集落の具体的な様相を考察するには到らなかったが、その範囲を推定するうえでは十分な成果を得ることができた。



第25図 SX002北壁面土層図 (1/30)



第26図 SX002出土遺物実測図 (1/6)



第27図 調査区全景 (北西方向から)



第28図 調査区全景 (東方向から)

下郡遺跡群
第137次調査
H区s-19~21
地点

VI 横尾遺跡第83次調査 D-4 地点

調査面積	495㎡	調査期間	2001.05.07～02.01.08
地域	E	調査担当	塩地潤一・奥村義貴・小住武史

横尾遺跡第83次調査地点は大野川の支流・乙津川下流左岸に広がる鶴崎丘陵の標高約30～31mの地点に位置し、乙津川に向けて開口する開析谷の南側緩斜面にあたる。

調査は平成13年5月7日から実施した。6月4日に一時中断した後、12月6日に調査区の拡張に伴って調査を再開し、翌平成14年1月8日に終了した。

本調査区は、第79次調査区の北側にあたり、東側には第81調査区が隣接するため館を囲む溝状遺構の発見が期待された。

調査の結果、溝状遺構6条、地層横転遺構9基、柱穴群が確認された。今回検出された溝状遺構についてはすべて周辺調査で確認された溝状遺構とつながるものである。

SD001とSD015については調査区外に延びるため、直接にはつながっていないものの、溝の埋土や形状から一連のものであると判断できる。つまり、本調査区南側にあたる第79次調査で確認された南北溝と東側の第81次調査で確認された東西溝と同一のものであると考えられる。

さらに、SD001とSD015の帰属年代については周辺地の調査成果より16世紀末頃に比定され、SD015から僅かに出土した遺物の様相からも、その所見を改めるような状況は見受けられない。

現状で南北50m以上、東西60m以上を測るこれらの溝で区画された空間には、戦国期に比定される掘立柱建物跡が認められ、(註1)区画の規模や出土した遺物の様相から半町規模の館の存在が想定される。(註2)

次に、SD005においては拳大の礫が3段に積まれた石列が検出された。この石列はSD005とSD025を区分するようにその境に存在するため、L字状に配置されている。SD025が確認されなかった南北部分には、石列は存在せず、第81次調査の東西溝で確認された石列とつながるものであると考えられる。周辺調査より、時期は18世紀後半に比定されるものである。

SD005からは近世磁器の他に、特筆すべき遺物として鉛玉(鉄砲弾)、高取・上野系陶器碗片、中国染付碗片、刷毛目唐津碗片が出土している。

その他、地層横転遺構については9基検出されたが、今回、遺物を含むものは確認されなかった。このうち、SX016は第81次調査で確認されたものと同一のものである。

本調査区東側に隣接する第81次調査地において確認された縄文時代早期に比定される黒茶褐色ブロック土層(集石包含層)については、本調査区北側の一部でも確認されたが、遺物は皆無であった。

今回の調査によって、戦国期に比定される溝状遺構の北西コーナー部分が特定出来た事は、当地に想定されている方形館の全様解明にまた一歩近づいたものとして高く評価できよう。今後の周辺調査が期待される。

(塩地・奥村・小住)



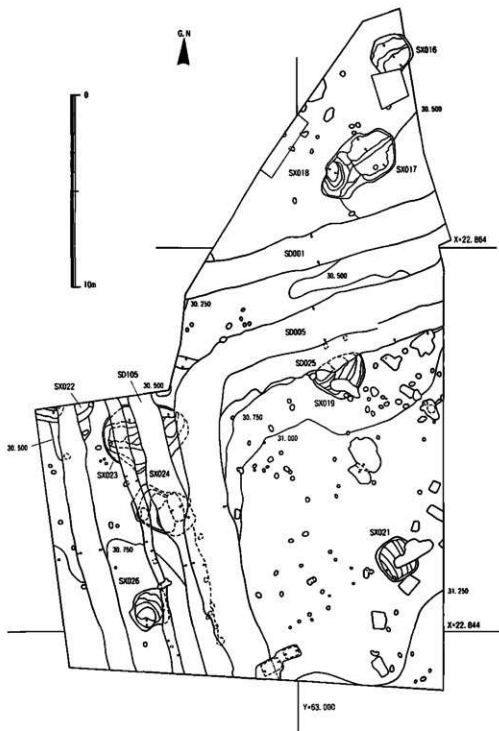
第29図 調査地点位置図



第30図 調査区全景(南より)

註

- (1) 平成12年度に実施した横尾遺跡第79次調査において検出されたものである。
 (2) 小柳和宏 1994『鎮西における居館の出現と展開－豊後大友氏一族を中心として－』
 『城と館を掘る・読む－古代から中世へ－』山川出版社
 塩地潤一 2000『豊後府内出土の貿易陶磁器』『城館出土の貿易陶磁器－織豊前後西国大名と貿易－』日本貿易陶
 磁研究会



第31図 遺構配置図 (1/200)

Ⅶ 大友氏館跡第10次調査

調査面積	74㎡	調査期間	2001.12.10～02.03.01
地域	A	調査担当	池邊千太郎・羽田野裕之

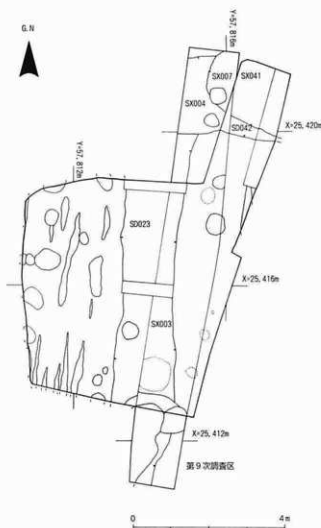
第10次調査地は、推定大友氏館跡の北限外郭線に沿った場所に位置する。当調査区では、二つの調査地点（A地点・B地点）を設定した。A地点は前年度調査を行った第9次調査を含む位置である。B地点はA地点よりも約16m南側にあたる。調査地点の各面積は、A地点が約42㎡、B地点が約32㎡を測る。

A地点

A地点は当調査区の中で北側に位置しており、土層観察と平面検出により地山から6層の整地層からなることが確認でき、中でも第4面・第5面において遺構が検出された。特に第5面では調査地点北側で東西方向に延びる溝状遺構、中央で南北方向に延びる溝状遺構を確認した。調査地点北側で検出された東西方向に延びる溝状遺構（SX041・SD042・043・044）は何度も造り替えが行われている。これらの溝状遺構は、大友氏館の北側推定外郭線上に位置しており、これに関連する遺構であると考えられる。溝状遺構は、土層観察による切り合い関係から（旧）SD044～SD043～SD042～SX041（新）という変遷過程がおえる。最も古い時期の溝状遺構SD044は、新しい溝状遺構の掘り返しによって南側の掘り方のみが確認された。さらに溝状遺構は、2度ほどの掘り返しが行われており、最終的には、溝状遺構SD043の掘削が認められる。その規模は推定幅約2.2m、深さ約1.2mでY字形の掘り方である。溝状遺構SD043が造られた後、整地地業によって厚さ20cm以上の整地層（5面）が形成される。この時点で溝状遺構は一度埋められている。そして再び5面整地層より溝状遺構SD042の掘削が見られた。規模は、推定幅約2.2m、深さ0.8mで緩やかなU字状の掘り方である。北側の肩部は調査区外に延びている。土層観察からは、最下層の床面にグライ化した層が見られることから、滞水していた痕跡を留める。これ以外の溝状遺構に関しては遺構内に砂質土の地山からの流れ込みが著しく、滞水の状況は見られなかった。最終的に溝状遺構は、掘り返し（SX041）が確認できた。この遺構は、平成12年度に第9次調査として調査をおこなったSX007と平面的につながるものと考えられる。しかし



第32図 調査地点位置図



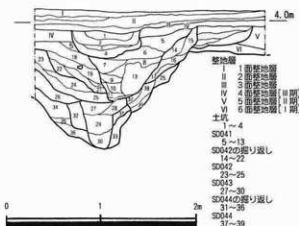
第33図 A地点 遺構配置図（1/100）

ながら、SX007は弧を描いて西側で遺構が収束しているために長土坑の形状を呈する。なお溝状遺構に付随して南側（館内側）には、土塁や築地塀などに関連する遺構は確認できなかった。このことから、館を囲む施設があるとなれば東西方向に延びる溝状遺構の外側に展開することが考えられる。一方、南北方向に延びる溝SD023は、東西方向の溝状遺構に直交するように検出された。規模は、幅約1.4m、深さ約0.8mで掘り返しが見られる。遺構は5面の整地面で確認されており、土層観察と切り合い関係からSD041・042と同検出面であるが、SD042との新旧関係は不明である。4面の整地層が形成されるときには、すでに溝状遺構は埋められている。

またSD023の西側には、南北方向に何本もの長い溝状の窪みを確認した。さらに5・6面においてピットを確認したが、建物となるような遺構は確認できなかった。

A地点における各面の年代は、3面が肥厚した京都系土師器、唐津産陶器皿、碗等が出土していることから16世紀末から17世紀初頭の年代が考えられる。4面からは、漳州窯系染付皿等が出土していることから16世紀後半から16世紀末と考えられる。

溝状遺構から出土した遺物は、少量のために溝状遺構の時期を厳密に決めることは困難であった。SX041からは、中国産白磁碗・陶器壺等が出土しているものの積極的に年代を決めることはできない。層的には、4面の整地層よりも下層に位置することから16世紀葉以前と考えられる。なお、最下層に位置する溝状遺構SD044からは遺物が出土していないために時期は不明である。



第34図 A地点東西溝土層断面図（1/40）



第35図 A地点 4面遺構検出状況（南より）



第36図 A地点 東西溝土層断面状況

B地点

B地点は主殿が推定される大友氏館跡第6・11次調査区の北側約30mに位置する。遺構は、4面にわたってそれぞれ検出された。

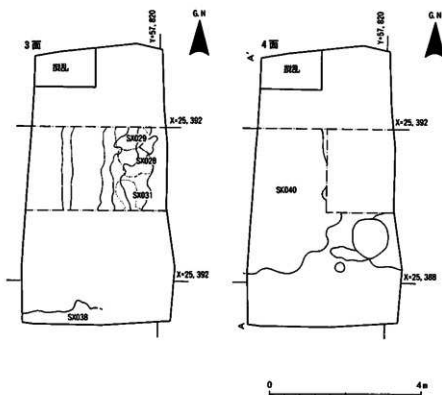
今回検出できた最下層の4面では、標高3.6m付近に位置し、この面から掘り込まれた不定形の廃棄土坑SK040を検出した。遺構は、深さ約0.15m、長さ3m以上にわたって広がっている。土層観察からは不鮮明ながら分層でき、断続的に遺物が多量に廃棄していったことを窺い知ることができる。土坑内からは、京都系土師器とログ

口成形土師器が比率的に9対1の割合で混在し、多量に出土している。出土した京都系土師器は、3面で出土する京都系土師器に比べ口径が大きいものが含まれ、器の底部の厚みが薄く、口縁部が外反気味のものが多く見られる。遺構の時期については、ロクロ成形土師器が混入することや、中国産白磁皿・中国産染付皿が共存していることから16世紀前半を中心とし、16世紀中葉までの範囲として捉えられる。

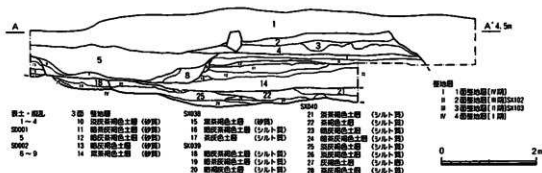
3面は、4面上の位置する厚さ40cm程の整地層である。この整地層は、地山に見られる砂とシルト質土を交互に入れて短期間で整地を行っている。整地は、最終段階でおよそ1m間隔にわたり、南北方向に向かって幅30～40cmの茶色シルト質土を帯状に積んでいる。そして、その間に砂を入れていく作業方法を行ない、最後に砂混じりの締まった土を全面に覆うように敷いている。

この整地作業の途中段階の、砂を入れた部分に多量の京都

系土師器をまとめて一括廃棄した状況が確認された。出土状況は、ひとつの範囲がおよそ直径80cmほどで京都系土師器が幾重にも折り重なるような状態であり、それが数カ所に連続して分布している。中には、土器に炭が付着した状態で廃棄されたものも確認できるが、土器が2次的に比熱を受けていないことから廃棄処理する段階で混入したものと考えられる。時期は、出土した京都系土師器にロクロ成形土師器が混入されていないことから16世紀中葉と考えられる。また、調査区の南壁においても多量の京都系土師器が一括廃棄された遺物群SX038が確認されている。現状での検出された範囲は、南北約1m、東西約2mであるが、その大半が調査区外に延びていることから南側にも遺物の廃棄が広がることがわかる。



第37図 B地点遺構配置図(1/100)



第38図 B地点 調査区西壁土層断面図(1/80)

2層SX102は、3面上層にあたり砂質土で積まれた厚さ7cmの整地層である。この整地層には、多量の京都系土師器が出土しているほか、検出作業によって浅い溜まり状の部分からも京都系土師器が出土している。溜まり状の部分は、溝状になったものや直径1mほどの楕円形の形状を成すものである。これら2層から出土した京都系土師器は、3層出土の京都系土師器と形状が類似していることから時期差は少ないものと考えられ、16世紀中葉に想定される。

1層は、表土を剥いで検出された最上層の整地層で鉄分の沈着が見られることから水田盤である。この面で検出できた遺構は、調査地点南側で、東西方向に延びる遺構（SX001・002）である。なお、東側では遺構が収束しているが、幅2.3mにもおよぶ大規模なものである。埋土中からは、昭和時代のガラス製品や陶磁器類が出土していることから最終埋没はこの時期となるが、掘削時期は不明である。

今回の調査では、A地点において推定大友氏館跡の北側外郭線にあたる東西方向に延びる溝状遺構を確認し、さらにこの遺構が、同一場所・同一方向に幾度となく掘削されたものであることが確認できた。これは、平成12年度に推定大友氏館跡北限の北西部に位置する第7次調査区において、数条の溝状遺構が3時期に渡って変遷している状況と酷似する。こうした状況により、推定大友氏館跡北側外郭線は、溝状遺構をともなった第7次調査区と第10次調査区を結ぶライン上になると考えられる。

B地点では、多量のロクロ成形土師器が廃棄された遺構と、整地地業段階での京都系土師器の大量廃棄行為が見られた。地山を掘り込む廃棄土坑からは、16世紀前葉～中葉の土師器皿が大量に出土しており、調査区が16世紀前半～中頃には館内であったことが指摘できる。整地地業は16世紀中頃と考えられ、第4次調査でも確認されている。整地地業の砂質土内に、京都系土師器が集中した状態の一括廃棄行為が確認されたことも、大友氏館跡関連調査の中で注目される事象である。これらの事象は、館内の空間の利用において、場の区分が存在する可能性を示唆するものである。

（池邊）



大友氏館跡
第10次調査

第39図 B地点3面整地層掘り下げ状況（北より） 第40図 B地点3・4面遺物出土状況（北より）

Ⅷ 大友氏館第11次調査

調査面積 約48.5㎡
地域 A

調査期間 2001.12.13～2002.03.04
調査担当 永松正大

第11次調査区は、推定大友氏館の中央部より東に位置し、周辺地形に比べて50cm程高い状況にある。明治時代初期の旧字図においてコの字状の地割に囲まれていた事が判明している。昨年度の大友氏館第6次調査において、基壇状の盛土整形と大型建物関連遺構が確認されており、第11次調査では大型建物関連遺構の検出を目的とし、第6次調査区B地点の東、西、北にトレンチを設定し、調査を行った。

1 T、2 T、3 Tの南壁土層断面（A-A'、B-B'、C-C'）から、複数の整地層を確認している（第43図参照）。現地表から表土層（1、2、3、11）の4層、近世以降の整地層（15、16、19、21）の4層を確認している。現表土から暗褐色茶色砂質土層（21: SX005）まで掘り下げ、SX005上面で検出を行い、近世以降の掘り込み（SD001・007等）を完掘し、暗褐色茶色砂質土層を除去後、下層の暗褐色茶灰色土層（24）上面で、礫の集中した土坑（SX010）、円形土坑（SX030）、土師器の大量廃棄に伴う土坑（SX013・020・021・025）、溝状遺構（SD012）を検出した。

SX010は、不整形な円形を呈し、遺構中心部に礫の密集した状況が確認された（第45図）。礫は拳大10cm前後の円礫、楕円礫で、白色の玉砂利（1cm大）も見られる。遺物は16世紀中葉に比定される京都系土師器が出土した。礫の集中している状況や出土した京都系土師器の年代観、前回調査の大型建物関連遺構の配置状況から、SX010は大型建物関連遺構であると考えられる。第6次調査で確認されたSX090とSX010は、芯間間で約3.5mを測る。

SX010の南側には、SX030（径約1.5～1.6m）が検出された。現状では、礫、遺物の集中は見られず、SX010とは明らかに遺構の様相に違いが見られる。しかし、大形プランである事、検出時の遺物に16世紀中葉の京都系土師器が見られるなど、大型建物関連遺構の可能性があるといえる。

SX020・025（1 T）、SX013・021（4 T）は土師器を大量に含む土坑である。遺物はロクロ成形土師器及び京都系土師器が主体で、碎片資料が多数を占めることから、廃棄土坑と考えられる。これら4基の廃棄土坑にはSX013（古）→SX021（新）、SX020（古）→SX025（新）の切り合い関係が確認された。SX020・025では、後出すると思われる京都系土師器が認められず、前段階の遺構である可能性がある。SX020・025は同標高値（約4.9m）で検出されており、同時期での並存も考えられ、儀器の使い分け等が想起される。また、SX020・025の下層にも土師器を大量に含む遺構が認められた。

SD012は、3 Tで確認された溝状遺構で、南北方向に延びる。暗褐色茶灰色土層から切り込んでいる点から、大型建物関連遺構との関連性も窺える。

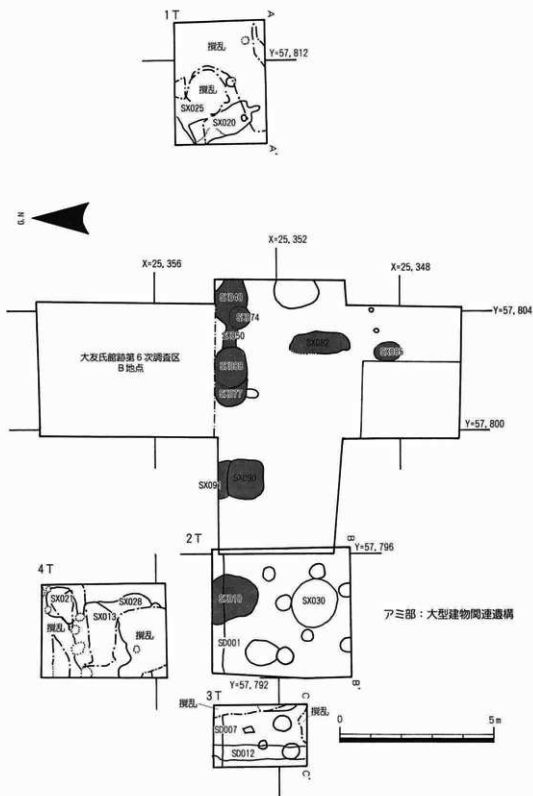
昨年度調査同様に、本調査でも土師器の出土量が圧倒的に多く、出土状況からも儀式・儀礼に関連する地点であったと考えられる。出土した土師器の資料の一部について、法量分化を想定し、計測を行った。京都系土師器、ロクロ成形土師器を含め復元可能とした資料は、計93



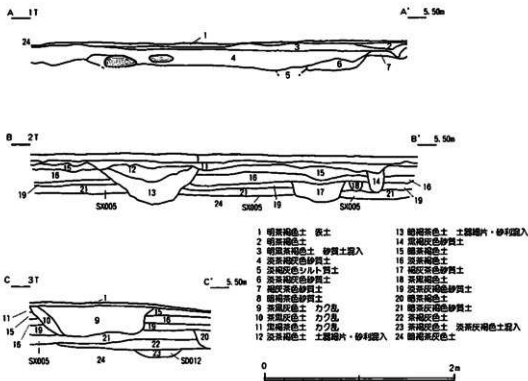
第41図 調査地点位置図



第42図 SX021遺物
出土状況（南より）



第43図 遺構配置図 (1/125)



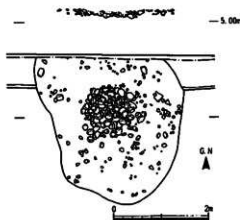
第44図 調査区南壁土層図 (1/40)

点 (SX005出土資料を含む) である。復元可能資料は、法量を算出し残存率1/8以上の資料とした。京都系土師器 (16世紀中葉以降) は、SX005・013・021から計29点出土した。口徑に基づく法量を算出したところ、~11.2cm、12.4~14cm、15.4cm~の3つのグループが抽出され、明らかな法量分化と考えられる。口縁形態を主とした分類においては、全体に薄手のつくりで、口縁部を外反させるもの (9・10)、口縁部から胴部にかけて厚く、底部が薄手のもの (11)、大きく2つに分けられる。

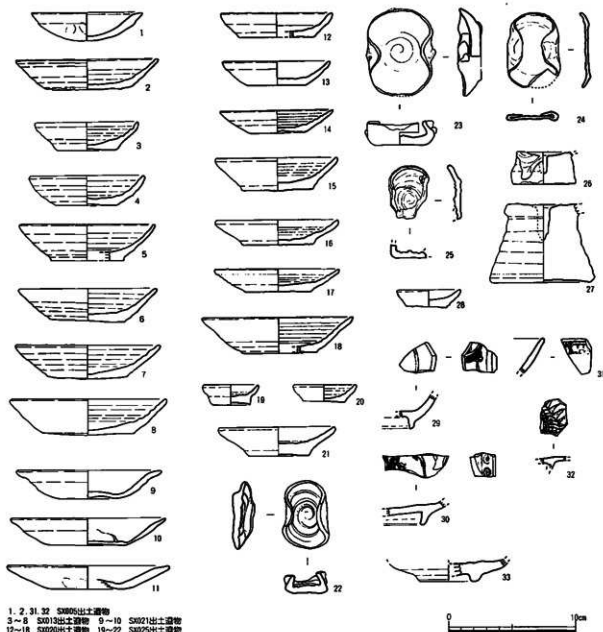
ロクロ成形土師器 (16世紀前葉~中葉) は、SX005・013・020・021・025から計65点出土している。京都系土師器と同様に計測を行った。結果、5cm、9cm、10cm、11cmに数値のまとまりが見られることから、法量分化と考える。器形は、内湾して立ち上がるもの (3~5、12・13・19~21)、まっすぐ外反気味に立ち上がるもの (2・6~8・14・17・18)、底部からまっすぐ外反して立ち上がり、口縁部にかけてやや内湾するもの (15・16) と大きく3つに分かれる。また、耳皿 (22~25) の資料が確認された。同資料内には、白色系の色調を持ち、非常に薄手の畿内系の土師器 (24) も見られる。

貿易陶磁器では、15~16世紀代の中国産染付碗C群 (31)・E群 (29)、染付皿 (30・32) が確認され、また華南三彩 (袋物?)、龍泉窯系青磁大皿等が確認されている。他に、燭台 (土師質: 26・27)、加工土製品 (オハジキ)、不明鉄製品、砂目段階の唐津焼皿 (33)、瓦質土器が出土している。

今回の調査で、大型建物関連遺構の西への展開と、第6次調査を合わせた遺構の配置状況から区画性の高い遺構であると想定される。調査区北と東で確認され



第45図 SX010平面図 (1/80)



第46図 出土遺物 (1/3)

た廃棄土坑は、切り合い関係を持つことから、踏襲しながら機能していたと考えられ、土師器の大量廃棄を伴う行為＝儀式・儀礼が行われていたことを示唆する。また、出土する16世紀前葉～中葉のロクロ成形土師器及び京都系土師器に、法量分化がみられ、儀器としての使用が考えられ、前述の考えを補完するものといえる。そして、大型建物関連遺構の区画する内側（南側）には、廃棄土坑が確認されない事、廃棄土坑が検出された東と北では、空間的性格が違う事が指摘できる。

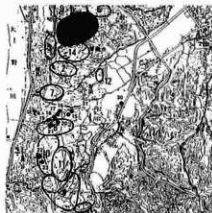
以上のことから、本調査区が、儀式・儀礼を行う空間、「表」の場である可能性が高く、更に「表」の場の中心施設である「主殿」の存在が考えられ、大型建物関連遺構が「主殿」の可能性も想定できる。

(永松)

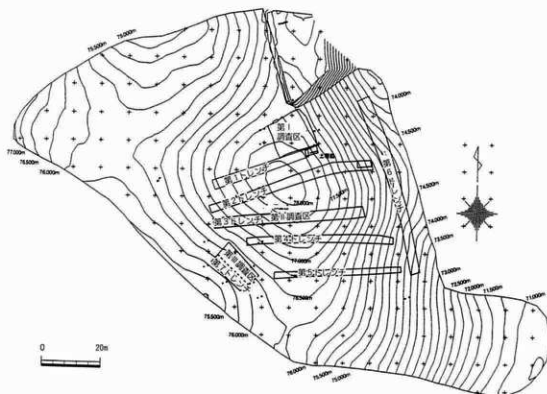
IX 丹生遺跡群長迫地点

調査面積	1,500㎡	調査期間	2001.10.26～01.12.07
地域	G	調査担当	塔鼻光司・荻幸二

遺跡は大分市の東部、大野川下流の右岸に広がる丹生台地上に位置する。昭和37年～42年にかけての古代学協会が6次の調査を行なった中の1b地点で、市が史跡として指定した「丹生遺跡」に当る地点で開発が持ち上がったため、平成13年9月4日～12日にかけて7本のトレンチを入れて試掘を行い、縄文時代早期との所産と考えられる石器と、斜面部で以前の調査のトレンチと考えられる攪乱が検出された。そのため、県と協議の結果、基本的に盛土保存することとしたが、一部削平部分と開発予定地における遺跡分布状況確認のため、試掘の成果をもとに確認調査を行なった。



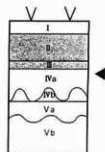
第47図 調査地点位置図



第48図 調査区・試掘トレンチ位置図 (1/1250)

第1調査区

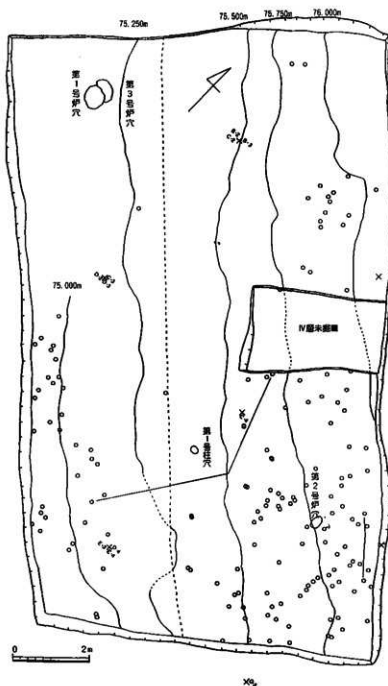
以前の古代学協会の1b調査で北区とされ、トレンチが密集する頂部に第1調査区を設定し、トレンチを確認し、以前の調査の座標上の位置を確定する調査を実施したが、頂部は調査後に1m以上の削平を受けているようで、トレンチは検出できず、以前の調査の位置を確定することはできなかった。



第49図 基本土層図

第Ⅱ調査区

斧状石器が第3トレンチの包含層から出土していたため、その周囲を第Ⅱ調査区として設定し、調査したが、礫以外の遺物は検出されなかった。



第50図 IV層の遺構配置と遺物分布図 (1/100)

第Ⅲ調査区

厚く石器の包含層と遺構が残存していた西斜面分の第7トレンチを拡張する形で第Ⅲ調査区を設定し、包含層の広がりと、丹生遺跡群の時間的位置づけの確認のため、調査を実施した。近世の遺構と溝状遺構の直下に、暗黄褐色の層、灰褐色の層の存在が確認された。IV層からは159点の石器及び礫、1点の土器が出土し、1基の柱穴、3基の炉穴が検出された。土器は縄文早期の無紋土器と考えられ、石器も殆どが大分平野の縄文早期に特有の礫器ないしはその素材か、調整剥片だったため（第51図）、縄文時代早期の所産と推察した。本調査の層は、古代学協会の北区で、攪乱層の下から一部検出された包含の黄褐色土層に相当するものと考えられるが、北区の大部分が調査後に削平を受けてため、検証は不可能である。但し、火山灰分析では石器包含層の層からは、縄文時代早期末のアカホヤ火山灰が検出されており、また炉穴出土の炭化物の放射性炭素分析で、B.C.3100年前後の年代が出ている。V層からは、自然礫以外出土しておらず、長崎大学の長岡信治教授の分析で、丹生台地の大在層の丹生層に当たり、加久藤テフラの存在から、30万年前の水成層とされている。

出土遺物

①石器（第51図1～3）

第Ⅲ調査区からは、計159点の石器及び礫・礫片が出土している。詳細は、礫器が4点、台石が1点、敲石が1点、剥片が14点、砕片が1点、礫器の素材と考えられる礫片が106点、礫が29点の他、中世の所産と考えられ

る結晶片岩製の砥石が1点である。他に試掘トレンチから、礫器が4点、斧状石器（第51図1）が1点、姫島産黒曜石製の二次調整剥片1点なども出土している。

②土器（第51図4）

ナデ整形が認められ、縄文早期前半の所産と考えられる。丹生遺跡群では唯一の縄文土器の出土例である。

位置づけ

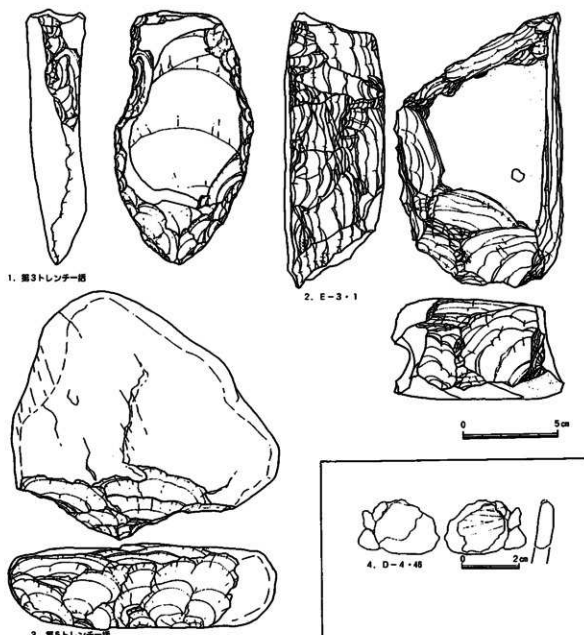
本確認調査の第9調査区の成果から、丹生遺跡群で出土した礫器の大部分は、大分平野特有の縄文時代早期文化の所産と推定されるが、試掘の第3トレンチからしか出土されなかった斧状石器の時期的位置づけがなされなかった。今後の調査に期待されるところである。

（荻）

<参考文献>

大分市教育委員会2002「丹生遺跡群長迫地点」『大分市市内確認調査概報—2001年度—』

鈴木忠司編1992『大分県丹生遺跡群の研究』古代学協会



第51図 出土遺物 (1/2)

X 中世大友府内町跡第14次調査

調査面積 104㎡
地域 A

調査期間 2001.05.15～01.10.18
調査担当 池邊千太郎・上野淳也

当調査は、集合住宅建設に伴い実施した。調査区は、大分川の西岸に位置し、『大分市史』における「戦国時代の府内復元想定図」において、「唐人町」比定エリア内に位置する。調査面積は、104㎡を測る。遺構検出面は、現地表面（標高5.6m）から、1m程の厚みを持つ昭和30年代の造成土と、0.4m程の近世・近代の水田層を除去した後、標高4.2m付近において第1検出面が確認される。遺構検出面としては、戦国期の第1面と古代の第2面の計2面が存在する。第1面は、戦国時代の整地層上に形成される。整地層は、僅か10cm程の厚みしかもたないが、16世紀代の遺物を包含するため、第1面の遺構形成時期は、その時期よりも降るものである。従って、第1面は、ほぼ16世紀代をカバーする時間幅を持つと考えられる。



第52図 調査地点位置図

当調査において検出された遺構の大半は、第1面に帰属する。検出された遺構の種類としては、井戸遺構、柱穴遺構、長土坑、土坑などが挙げられる。これらの遺構の分布状況には、遺構の密度に差が認められる。調査区の中央東側は、遺構密度が極端に低く空地となるが、一方、この空地周辺部の遺構密度は極めて高いものである。また、建物の復元には至っていないがこの空地を取り囲むように柱穴列が立ち並ぶ状況が看守されるため、この空地に掘立建物等の建造物が存在した可能性も考えられる。生活遺構である井戸遺構に関しても、やはりこの空地を取り囲むように分布するため、空地上に建物が存在したことを想定することによって、井戸遺構の分布状況が建物を避けて展開したものであるとの説明が可能となる。このような遺構の配置傾向は、その他の遺構群に関しても、同様に空地を避けて展開することが指摘されるため、空地上の建造物と、その周辺に展開する遺構には共時性が認められることとなる。

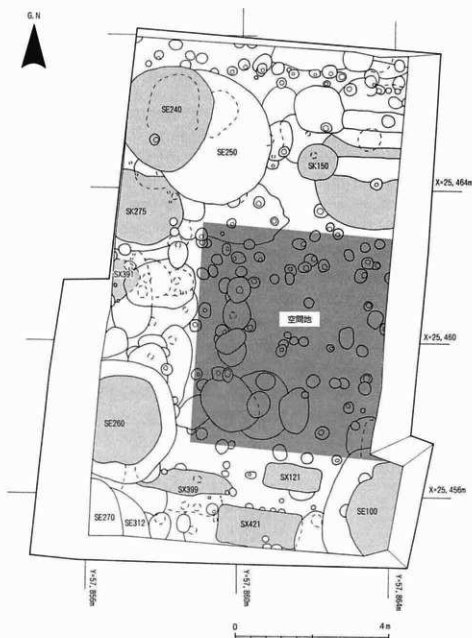
僅か100㎡程の面積内において、6基もの井戸遺構が検出された事象は特筆すべき点である。この都市遺跡内における遺構の過密性は、街区或いは敷地使用における踏襲性を反映するものと考えられる。生活痕跡としては、井戸遺構が第一に挙げられるが、前述の通り、SE100・SE230・SE240・SE250・SE260・SE270の計6基が確認されている。井戸遺構は、全て16世紀中頃～後半の所産であるが、SE100はサンワ土による下部構造の構築（第54図参照）、SE230は桶積みの井戸枠構造を持ち（第55図参照）、SE270からは土師質の井戸枠（第56図参照）が出土するなど、様々な井戸構造が用いられていたことが指摘される。またSE240からは、コビキB調整が観察される丸瓦が、SE260からは、唐津系陶器碗が出土しており、期的にも天正後半期～文禄年間以降の廃絶時期が指摘される。また、SE100・SE240・SE260・SE270のいずれからも、交叉／斜交掘目の備前焼摺鉢が出土していることから、16世紀後半でも第4四半期よりの廃絶時期が想定される。

街区方位を暗示する現象としては、前述の空地を取り囲む柱穴列の方位と、調査区北辺の柱穴列の方位が概ね同じ角度である点が挙げられる。「想定図」においては、唐人町は二之大路に取り付くことから、N-5°-E方位軸に南北軸が、N-275°-W方位軸に東西軸が乗ることが想定されるが、前述の柱穴列2例と共に、調査区南辺の長土坑群（SX121・SX341・SX399・SX429）も概ね同様の東西方位軸に対応するようである。

また、これら方位性を示す遺構間においては、遺構間接合が確認されている。遺構間接合に関しては、SX121・SE260・SE270・SK275・SK391・SX399・SX429間とSK150・SE240間において確認されている。これら遺構間接合の連鎖関係が認められる遺構群には、廃絶時期の共時性が指摘されるが、隣接する遺構間に関しては混入し

ている可能性が否めない。当調査区と二之大路跡を挟んで東側に対峙する中世大友第11次調査区は、「想定図」における「称名寺」比定地であるが、その外堀と推定される溝状遺構から出土した華南彩釉陶（緑単彩）鶴形水注と朝鮮産雑釉陶器碗（蕎麦茶碗）には、当調査区との遺構間接合関係が確認されている。以上のような、遺構間接合の状況から、広範囲にわたる複数の遺構が同時廃絶した可能性が指摘される。また、「想定図」において「桜町」に比定されている第12次調査区では、天正14～15年（1586～1587年）の島津侵攻を反映すると考えられる焼土層が確認されている。これを整地層と考えた場合、府内復興時に、更に広範囲にわたる整地行為がおこなわれている可能性が指摘される。もし、この広範囲にわたる整地行為が、推定唐人町域まで広がると考えれば、広範囲にわたる遺構間接合の理由・時期に関して説明を与えることが可能となる。このような遺構分布における配置や共時性に関する考察は、今後、周辺の調査が進展してゆくことでより明らかになってゆくものと思われる。

（上野）



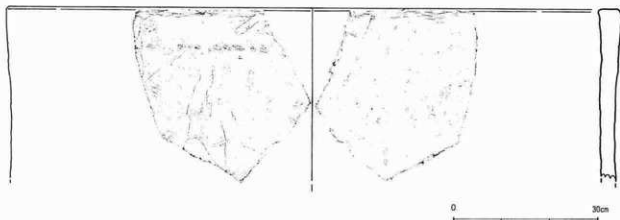
第53図 遺構配置図 (1/100)



第54図 SE100井戸枠検出状況



第55図 SE230井戸筒断面状況
(南より)



第56図 SE270出土土師質井戸枠実測図 (1/8)



第57図 SX429 遺物出土状況 (北より)



第58図 調査区全景
(南より)

X I 中世大友府内町跡第15次調査

調査面積	約472㎡	調査期間	2001.05.24～01.09.17
地域	A	担当者	讃岐和夫・塔鼻光司・宮田剛

今回の調査は、平成12年3月に実施した店舗建設に伴う事前の確認調査によって遺構を確認したため、同年5月より、本調査を実施したものである。

調査地は、大分市顕徳町3丁目4415番地等に所在しており、周知遺跡「中世大友府内城下町跡」に属している。戦国期の府内（府中）の様子を伝える古絵図から比定される御北町と隣接した大友氏館跡の北西境に位置している。

また、この場所は旧病院跡地のためか、大型浄化槽や建物基礎等で大きく遺構面が削平を受けており、建物解体の際にも随所に擾乱を受けていた。

本調査区では、設計変更により遺構保存を図り、調査区を出来るだけ最小限にとどめた。調査は館跡の北限に近い場所に東西方向約39m・南北約10mの規模で実施した。

調査区内は、予想以上に大きく擾乱を受けており、遺構は鳥状に幅狭く西・中・東の3ヶ所ほどに残されており、各遺構の性格を把握するには非常に困難な状況にある。

調査区の東側では、試掘の6トレンチと重なっている。調査では東西方向に延びる幅0.2mの溝状遺構と大型土坑を確認している。東側の遺構状況を見ると、砂質層の地山と思われる際澄じり褐色砂質層がみられ、その西側には6トレンチで確認された大型土坑の土層堆積が認められた。その堆積状況は、暗褐色粘質土と暗褐色砂質混入土が斜目方向に堆積していた。土坑を掘削する地業が成されており、その後に褐色粘質土と橙褐色粘質土が交互に整地状に埋土されていた。その他の検出遺構については、掘立柱建物跡と思われる東側梁行部分の柱穴跡がみられた。配置から建物跡は西側に延びるものと思われる。

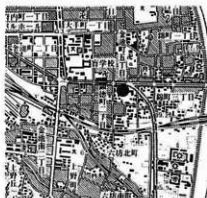
調査区内の中・西側の遺構については、古くは14世紀後半の大型土坑から17世紀代の遺構まで幅広い時期のものを認めることが出来たが、西側については、旧病院建設工事等に伴う削平により大きく改変されており、16世紀代の遺構が中心となる。検出遺構については、古い段階で土坑が主体を占めているが、新しくなるにつれて柱穴が増えてくる。このような状況は居住区の広がりやを示していると考えられ、御北町の町屋の展開状況を窺うことが出来る。

この調査区では、とくに焼土と灰が堆積している2基の土坑を検出している。中側で検出した土坑は長軸を東西方向に向けており、規模については、長軸は0.86m・短軸約0.50m・深さ0.56mを測り、長方形を呈している。北側の掘り方部分はすでに削平を受けていた。埋土中からは16世紀中頃の時期と思われる京都系土師器皿が数枚出土している。

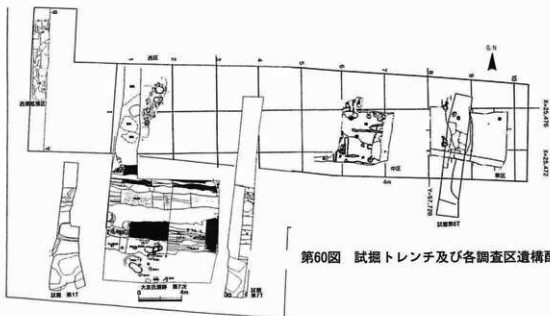
また西側でも同様な土坑が検出されている。長軸を東西方向に向けたもので、規模については、長軸は1.5m・短軸は1.1m・深さ0.56mを測り、長方形を呈している。遺物には京都系土師皿・手づくね土師器小皿・底部転用品の焼き台・瓦質火鉢の底部片・平瓦片・鉄釘・鉄小刀片等が出土している。

西側拡張区については、西側の土層観察によると、大友館跡の北限境溝の掘り込みが一部確認でき、平成12年度に調査を実施した大友氏館跡第7次調査の結果を追認する所見を得ることができた。

（讃岐）



第59図 調査地点位置図



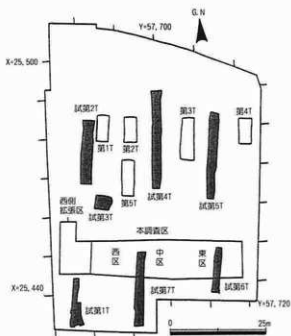
第60図 試掘トレンチ及び各調査区遺構配置図 (1/250)



第61図 中区完掘状況 (南から)



第63図 西区第1面完掘状況 (北から)



第62図 試掘トレンチ配置図 (1/1000)

中世大友
府内町跡
第15次調査

XII 中世大友城下町跡第19次調査

調査面積	106m ²	調査期間	2001.11.28~02.02.12
所在地	A	調査担当	高島豊

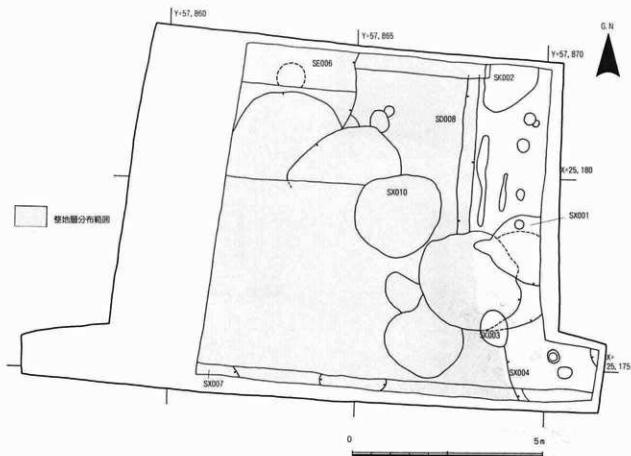
今回の調査区は、大友氏館推定地の南限から約40m南に所在する。調査区の東辺は、館推定地の東辺を延長した線の西側に近接した位置にあり、『戦国時代の府内復元想定図』によれば「大友御蔵場」の東隣にある「柳町」に比定される地点にあたる。

調査地点の北側約20mには、平成12年度に大分県教育委員会によって調査された、中世大友府内町跡第8次調査区がある。第8次調査では、館推定地の東辺を南に延長した線に近接して、南北方向に延びる土塁遺構が検出され、大友氏館の南限及び東限との関連が注目された。今回の調査は、この第8次調査の結果を踏まえ、土塁遺構の延長の確認と、大友氏館の南限・東限の確認を含めた遺跡の性格の把握を目的として実施した確認調査である。



第64図 調査地点位置図

調査の結果、調査区東端においては、南北方向に延びる地山の高まりが検出されたが、土塁と判断される積土遺構は検出されなかった。地山（明褐色シルト質土）の高まりの検出面標高は約4.4mである。また調査区の西半は東から西に向かって地山の標高が次第に低くなっていることが確認された。この原地形は、複数回の整地に

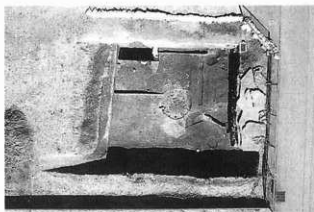


第65図 遺構配置図 (1/100)

より埋められ最終的に平坦にされている。整地層の最上部からは唐津焼鉢片（第71図3）が出土していることから最終的な整地の年代は16世紀末～17世紀初頭と推定される。しかし、この段階に比定できる遺構については検出されていない。

整地層を一部掘り下げたところ、円形の大型遺構が多数切り合って検出された。SE006は整地層の下で検出され、トレンチ調査の結果、瓦質の井筒を埋置した井戸であることが判明した。井筒は口径62cmで、井筒専用に製作されたものである。複数個を積み重ねて使用していたと推定され、土層断面の観察では、井戸廃絶時に上部の井筒を掘り上げたと思われる痕跡が認められたほか、埋土中から別個体の井筒破片が出土した。埋土中に包含された京都系土師器（第71図10・11）から判断すると、16世紀後半にはすでに廃絶していたと判断される。なお、瓦質の井筒を使用する井戸は中世大友城下町跡では第3次調査に続き2例目となる。円形の大型遺構SX010は整地層下部で検出された。10cm程度掘り下げたのみにとどまるが、タイ産の四耳壺片や京都系土師器が出土しており（第71図5～9）、京都系土師器の年代観により、16世紀後葉～末に位置づけられると考えられる。整地層中もしくは整地層下で検出されたSX010をはじめとする遺構については、埋土やブランがSE006と類似しているものが多いことから、多くは井戸である可能性が高いと判断され、整地部分を中心に多数の井戸が作られていたことが推定された。その場合、切り合い関係において比較的新しいSX010と比較的古いSE006の間にも多くの遺構が切り合っていることから、かなり頻繁な井戸の作り替えが行われたものと考えられる。

整地層の下で検出された南北溝S008は、京都系土師器が出土していないため、16世紀前半もしくはそれ以前にさかのぼる可能性がある。しかし、京都系土師器を伴わない遺構はこれ以外に検出されていない。また、整地層の下部においても京都系土師器や青釉稜花皿（第71図2）が出土しているため、整地の時間的上限が16世紀中葉以前にさかのぼる可能性は低いと考えられる。



第66図 調査区全景（空中写真）



第67図 調査区全景（南から）



第68図 SK002遺物出土状況

地山の高まり上に作られた遺構のうちSK002・SK003は廃棄土坑と考えられる遺構である。SK002からは焼けたものを含む多数の礫とともに瓦（平瓦・丸瓦）や陶器などが多量に一括廃棄された状態で出土しており、火災処理土坑とも考えられる。出土遺物（第71図12～19）には備前焼（15・18）や瓦質土器（14・17）などの生活雑器を多く含んでいるが、ふいごの羽口（19）も出土しており、生産活動との関連をも窺わせる。16は、漳州窯系の青花皿ものである。備前焼のすり鉢（15）はいずれも交差するスリ目を有するものであり、天正年間以降に比定されるものである。また京都系土師器（12・13）は16世紀後葉に比定されるものである。従って遺物の年代観から判断すると、1586年の島津軍の府内侵攻に関連する火災処理土坑である可能性もある。このほか、遺構の性格は不明であるが、SX001・SX004も16世紀後半ないし後葉に位置づけられる。

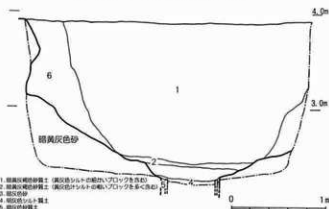
なお、整地層上面からの出土ではあるが注目される遺物としては、タイ四耳壺片（第71図4）やベトナム白磁碗（第71図1）、青銅製分銅（第71図20）がある。このうち分銅は、直方体の形状を呈するもので、重量は現状で18.6グラムを計る。一辺約12mmの正方形をなす小口部分の中心には、直径3.5mmほどの穴が長軸方向に穿たれているようであるが、穴は付着物により埋まっている。また、穴と穴の間の器表面には、幅0.8mm程度のきわめて細い溝が1条彫られている。

以上のように、今回の調査で検出された遺構は廃棄土坑、井戸および溝等であり、特に整地部分において多数切り合った状態で検出された。こうした所見から本調査地点は、従来の比定のとおり町屋の一部である蓋然性が高いと判断されよう。さらに井戸が多数検出されたことから、町屋の地割の中でも裏庭に近い空間であった可能性が高いと考えられる。今回検出されなかった建物遺構については、標高がより高い調査区東端の地山の高まり部分からさらに東側にあるものと推定される。

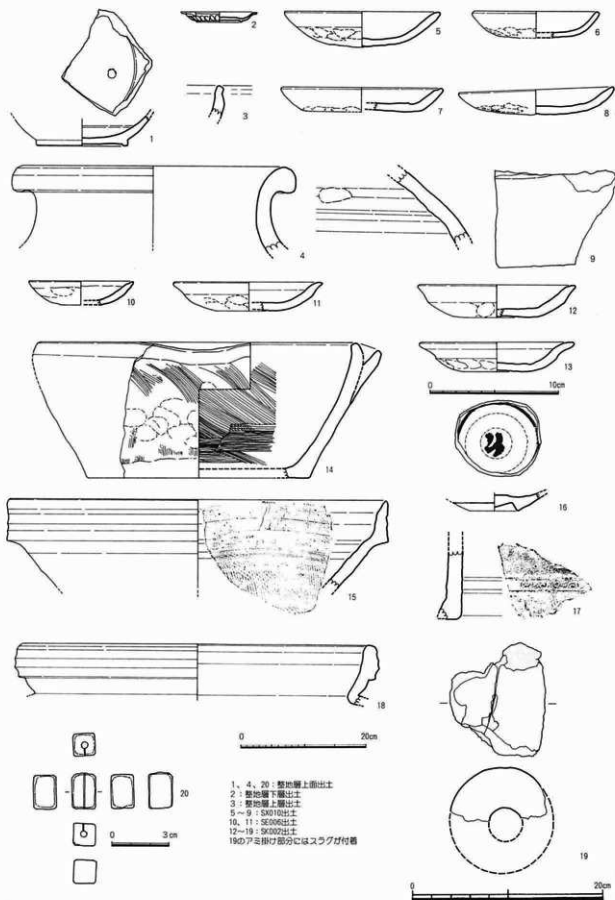
大友氏館の南限については、今回の調査結果により、本調査地点よりも北であることが確認されたといえる。北隣の中世大友府内町跡第8次調査区では土塁遺構が検出されているのみならず、遺構密度が低く、廃棄土坑がほとんど見られないなど、本調査地点とはその空間利用において大きな違いが認められる。従って現状では大友氏館の南限は、第8次調査区付近にあるとするのが妥当であろう。今後の追加調査を待ちたい。（高畠）



第69図 SE006井筒検出状況



第70図 SE006土層断面図（1/40）



第71図 出土遺物実測図 (1~13・16: 1/3, 14・15・17・19: 1/4, 18: 1/6, 20: 1/2)

XⅢ 玉沢地区条里跡 第3次調査（1区）

調査面積	約1500㎡	調査期間	2001.06.04～01.12.29
地域	B	調査担当	甲斐 猛・松尾 聡・佐藤孝則

調査地は大部分の西部を流れる大分川の支流、七瀬川が大きく東に蛇行する左岸に位置する。北と南を阿蘇火砕流堆積物などに覆われる宗方・雄城台とそれに続く田原・木の上の丘陵に囲まれ、標高約15mの沖積低地に位置する。また、当地点は条里状地割（阡線が約14度西偏）が良好に現存する「玉沢地区条里跡」の一角にあたり、中世には皇室御領となる植田庄に比定されている。そのため古代～中世を主体とする水田遺構ならびに条里関連の遺跡の発見が予測され、その初現年代の追及が課題となっている。また、調査地の南側に位置する印輪地区では1997年に調査が行われ、印輪社関連遺跡の可能性を示唆した遺構群が確認されている。



第72図 調査地点位置図

今回の調査は、植田新都心西部土地画整理事業に伴うものであり開発計画上、調査区を1区～7区に分けて実施している。今回の報告は、平成12年度に調査を実施した1区の概要報告である。調査の結果、古墳時代～中世にかけての19面もの水田遺構を確認することができた。以下に各時代の主要遺構の様相についてまとめる。



第73図 調査区全景（南より）

【中世】

14世紀代の水田層（水田1）並びに多数の足跡を確認している。また水田層からは14世紀代に比定される土師器の小皿が出土している。さらに、龍泉窯系青磁碗のI-1-a類、和泉型瓦器碗、東播系須恵器鉢等、広域流通品と考えられる遺物が出土している。足跡の埋土は水田面の全体を覆う洪水堆積と考えられる淡灰黄茶色シルト質土である。踏み込み深度は一定ではないものの、ほぼ田面から数cm程度である。大半が動物の蹄の跡であり、一部には人と考えられる足跡を確認している。大きさは約20cm程度である。以上のことから、今回の調査区においては直接植田庄につながる遺構の確認は出来なかったものの、比定地内において初めて中世段階の水田遺構を確認した意義は大きく、今後の調査が期待される。

【古代】

9世紀前半と9世紀中頃の水田遺構を確認している。9世紀前半の水田遺構としては、水路（SD020）、大畦畔とそれに伴う水田層（水田3）と水口1を検出している。

水路（SD020）は、調査区の南東隅にあたり、遺構の主軸方向はGN-34°26'20"-Eを測る。その大半は調査区外であるため、正確な規模や流れの方向は確定できないが、現状で最深部は検出面から約1mを測る。出土遺物から使用時期は6世紀前半頃～9世紀前半と考えられる。9世紀前半と考えられる水路は現状で、最深部で約40cmである。この水路は、北側に上面幅約40cm、底面幅約1m、高さ約20～25cmを測る断面台形状の大畦畔を伴っている。大畦畔北側には、削平された盛土もしくは、畦畔の補強と考えられる土盛が存在する。以上のことから大畦畔は、用水路の堤との機能が想定される。当該期の水路から、9世紀前半に比定される土師器の環が出土している。水口1は最大長約2.20m、最大幅約1.8mを測る。検出面から最深部で約70cmである。大畦畔機能

時の水口と考えられ、縦断面の土層観察からミナが確認されることから、排水を意図したものであると判断している。さらに当時、相当量の水流であった事が想定される。

大畦畔に伴う水田層（水田3）は大部分が削平もしくは上層の水田により耕作されており、他の遺構については検出されなかった。

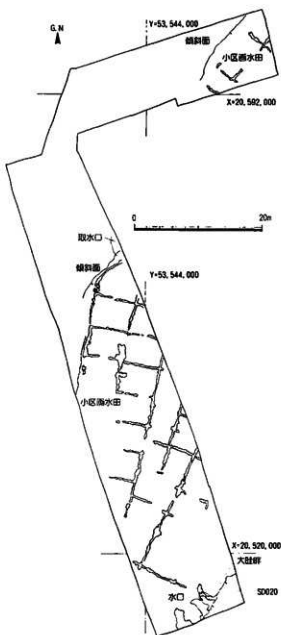
また、9世紀中頃の水田層（水田2）を調査区全面で確認している。この水田層は耕作痕が顕著にみられ、大畦畔上面にも確認される。水田面で遺構を確認できていないため当時の地割は判らないが、水路（SD020）の使用も途絶え完全に埋没していることから、9世紀中頃を画期に水田の改変・拡張・水掛りの変更が行われた事を示唆する重要な所見であると考えている。水田5並びに水田7においては、足跡を検出している。遺物が出土していないため時期は明示できない。水田5は調査区の南側のみで確認している水田層である。この水田の下層において水口を2基検出している。これらには、新旧関係が認められるものの、ほぼ同一地点において構築されたものである。

水口2は最長3.30m、幅約5m、検出面より最深部は30cmを測る。水口3は、最長約2m、幅約20cm、検出面より最深部20cmを測る。いずれも出土遺物は皆無で、伴う水田層も確認できていないため時期は明示できない。

【古墳時代】

4世紀～5世紀の水田遺構を確認している。主な遺構は、取水口、水口（水口4）、畦畔基部およびそれに区画された小区画水田37筆である。畦畔は盛土部分が削平され、基本的には基底部のみ遺存している。水田11並びに水田12を基盤とし、調査区北西から南東に向かっての緩斜面に形成されている。区画の主軸方向は北側でGN-13° 23' 33" - E、南側でGN-26° 08' 30" - Eを測り、自然地形の傾斜に沿って東偏している。水田の形態は基本的には一辺5mを測る正方形を呈し、傾斜によって若干の歪みが認められる。畦畔が直線的で整然と配列されていることから、江浦分類B-1・B-2類に位置付けられるものと判断される。この水田形態は起伏の少ない緩斜面に形成され、弥生時代から古墳時代にかけてよくみられる形態である。省力での水田造営と維持が可能となるものの、起伏の大きい微高地などには不適切であることから、当時水田造営に際して選地が行われた可能性が指摘されている。

この小区画水田が機能していた時期は、布留式古段階に比定される高坪の脚が出土した水田11と出土遺物から3世紀末頃と考えられる水田12を基盤面とし6世紀前半頃と比定される須恵器の口縁部が出土した、水路（SD020）との新旧関係が認められることから、4～5世紀頃と考えている。また、小区画水田に伴うと考えられる水



第74図 1区遺構配置図（1/600）

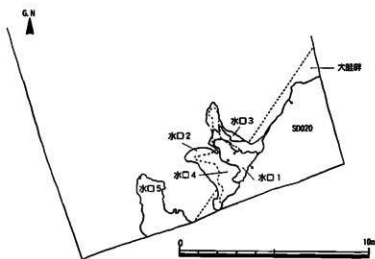
調査地区
多摩郡
第3次調査
（1区）

口（水口4）を検出している。規模は、最長部約4.5m、幅1.5m、検出面から最深部で約30cmである。顕著なラミナ現象は確認できないが平面形状と土層断面状況、そして水路にかかる地点にあることから排水目的とした水口と判断している。さらに、小区画水田の北側斜面の上位から、取水口と考えられる溝状遺構を確認している。平面では調査区外に大半が入るため規模は窺いしれないが、現状幅は約1mである。土層断面観察により、長さ10.8m、深さは現状で最深部約14cmである。北から南に向けて約70cmのレベル差を確認している。埋土は、1cm大の砂が混入している茶褐色粘質土である。以上のことから、北側の微高地から南の水田へ水を引き入れる取水口と考えられる。小区画水田と併存していた可能性が高く、その結果、当該期の調査地は傾斜地の上位に灌漑用水路を設けてそこから取水し、畦畔の一部を開口させて水口とし、田から田へ順次低い水田へ給水する方法がとられていたと想定できる。また、田を巡った水は調査区南側の尻水口（水口4）から水路に排水されていたと考えられる。まさに典型的な江浦分類のB類といえよう。

【弥生時代】

今回の調査では布留式古段階に比定される水田層の下層から、土層断面観察によって8層もの水田層を確認している。出土遺物は希少であるものの、水田18で下城式土器壺片が出土している。

さらに、調査区北側においては緩斜面に沿って落ちを確認している。斜面の南側を土層断面で確認したため一部平面調査を実施したところ、東から西に延びるプランを確認している。この落ちは、現状幅約2.20m、高さ約40cmで、緑色シルト質土層でグライ化が顕著にみられた。上層は淡黄白茶色シルト質土層で鉄分の沈着が顕著に確認されている。その後の調査により、4世紀後半以降の水田層でグライ化のみられる幅約5mの大畦畔を確認しており、今回北側への落ちは確認できていないが、この落ちの北側が畦畔であった可能性が示唆される。また上層の鉄分沈着層は擬似畦畔の可能性が考えられよう。



第75図 水口遺構配置図（1/200）

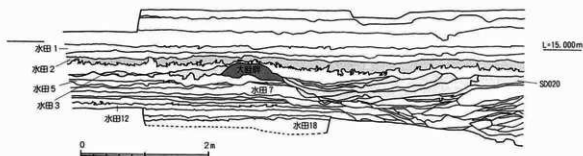
【まとめ】

以上が今回の調査における主要な成果である。変遷の中で注目されるのはまず、古墳時代の小区画水田の確認である。調査区周辺では、首長墳である御陵古墳をはじめ多くの古墳群が存在し、この時期の集落の展開も確認されている。今回の水田は当時の生産遺跡として関連が注目される。このような歴史的環境から、豪族の経済基盤を支えた水田である可能性を視野にいれ、水田利用としての広がりや調査する必要がある。次に、その自然地形に規制された小区画水田の地割が9世紀前半まで確実に踏襲されている事である。今回の調査で、排水を目的とする水口を4基折り重なる様に検出しており、9世紀前半の水口1については、水田5によって完全に下層の水口が埋没しているにも関わらず、古墳時代とは同じ箇所に設置されている。これは、水口の設置場所を決定する際、単に踏襲するのではなく、各時代に形成されていた水田区割りの地形的要因に規制され決定している

可能性が高いと指摘できるのではないだろうか。その地割が、9世紀中頃には踏襲されていない可能性が指摘できる所見も興味深い。これは、地割を踏襲しながら水田の拡張が行われた可能性もあるので今後の検討を要する。しかし、条里状地割の形成時期について言及できる重要な所見であると考えられる。中世においては、今後植田庄関連の水田と遺構の確認が期待される。今回の調査で、水田としての土地利用の初現について解明する事は出来なかったものの、土地を選び自然地形を最大限利用し各時代ごとに土地に合った水田を形成していることが確認できた。そして、当調査地では連綿と水田が経営されていたことが確認され、今後の調査区につながる調査結果であったといえる。(佐藤)



第76図 小區画水田基底部(南西より)



第77図 調査区南側東壁土層断面図(1/60)

五民地区
条里跡
第3次調査
(1区)

XIV 下郡横穴墓群

調査面積 A群23基／B群9基
地域 A

調査期間 00.08.23～00.10.10／01.01.17～01.06.29
調査担当 池邊千太郎・早田利宏

下郡横穴墓群は、大分市下郡字加納に位置し、大分平野の西側を流れる大分川の右岸にあり、明野から加納にのびる台地の北西端部、標高41～44m程の斜面に位置する。牧から下郡を経て津守・曲にかけての明野丘陵の西側斜面には滝尾百穴横穴墓群を始めとして数十基単位の横穴墓群が連なっているところであり、大分市内でも有数の横穴墓地帯となっている。

調査歴としては、平成元年8月より9月にかけて調査が行われたのが最初である。このときの調査は、A群のうち14基を対象におこなわれた。

今回、新たな開発計画によりB群の9基の横穴墓を平成12年8月～10月にかけて調査をおこなった。さらに、造成工事の変更により、A群の調査区を平成13年1月～2月にかけて本格的な調査を実施し、同年6月29日までに実測作業を含め、すべての発掘調査を終了した。

下郡横穴墓群は丘陵の南斜面のA群と東斜面のB群に分かれて分布が認められる。横穴墓数は、A群23基（今回の調査数9基）、B群9基の横穴墓が確認できた。

A群は、標高41～44mの間に帯状に広がっている。その中で横穴墓は上下2段に分かれて構築されている。横穴墓は、羨門部分が風化によって崩落している以外はほぼ原形を留めている。玄室内部については、早くから開口していたらしく副葬品や人骨の残りは良くない。中に石像仏が安置されているなど江戸時代には横穴墓の二次利用がおこなわれていたことがわかる。

そうしたなかで、遺物が出土した横穴墓は、2号墓・18号墓・23号墓である。2号墓については、玄室内より須恵器の坏蓋が出土している。所産時期は、7世紀中頃に比定される。18号墓については、羨道部からは土師器の蓋が1点、玄室内より土師器の坏と蓋が合わさった状態で出土している。遺物の所産時期は8世紀末～9世紀前半に比定される。この時期

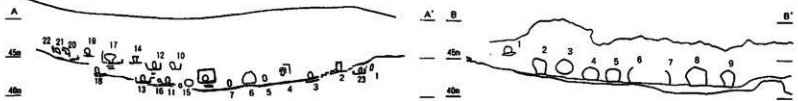
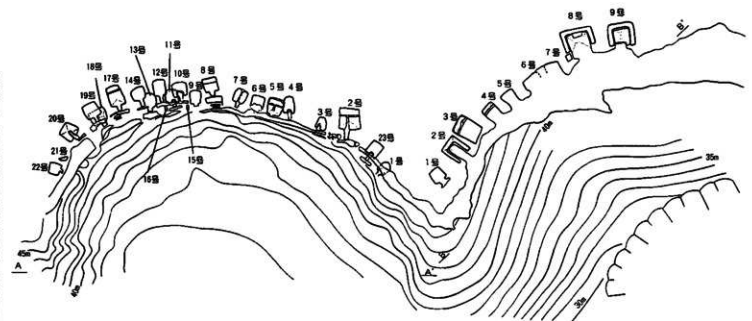
は、横穴墓の内部の形式的年代、遺物が床面から浮いた状態であること、閉塞が開口しその羨道部からも土師器が出土していることからこれらの遺物は横穴墓の再利用時に置かれたものと考えられる。23号墓については、玄室内から須恵器の坏身と坏蓋がセットで出土している。遺物の所産年代は7世紀中頃に比定される。これ以外に刀子と人骨が出土した。人骨は、大腿骨の一部が出土しているにすぎず、遺存状態が不自然であることから二次的に埋葬された可能性もある。



第78図 調査地点位置図



第79図 下郡横穴墓群遠景



第80図 下郡境穴墓群遺構配置図と立面図 (1/500)



第81図 A群18号墓遺物出土状況



第82図 B群1号墓遺物出土状況

B群は、標高42m～43mの間にほぼ一列に並んで造営されている。最も南西側に位置する1号墓のみがやや高い位置に構築する。A群と比べ羨門部分は後世の掘削によって大きく削り取られ、玄室床面も50cmほど掘り下げられている状況である。このため、大半の横穴墓は、天井部分を残して原形を留めていない。A群と同じく調査までは、玄室内部に仏像を安置し、石塔を置いてその下部に骨甕器を埋納するなど信仰の場として二次の使用が認められた。

横穴墓の玄室構造を見ると、寄棟形天井・アーチ形天井・ドーム形天井を呈し、玄室形態が妻入長方形を呈するものが主体を占めている。玄室の内部の施設では奥に一段高く屍床を設けたもの、コの字状に屍床を設けたものなどがあるほか、玄室内に排水溝を設けているものも若干確認される。

B群において遺物が出土したのは1号墓のみであった。羨門入口において須恵器の蓋が1点出土している。遺物の所産時期は7世紀中頃と考えられる。

以上、下部横穴墓群から出土した遺物によって7世紀中頃を中心に横穴墓が造営されたことが認められた。しかしながら、開口した横穴墓には遺物が出土しておらず、玄室の平面形態や天井形から7世紀中頃よりも古く造営されたものが含まれており、横穴墓の内部構造から6世紀後半には造営が開始されたことが考えられる。

下部横穴墓群が分布する丘陵沿いには、市指定の滝尾百穴横穴墓群を筆頭に、穴井前横穴墓群、松梁山横穴墓群など多数の横穴墓群が分布している。古墳時代の前期から中期にかけては、各地域で首長系譜によって前方後円墳が造られるが、後期になると造られなくなる。それに変わって、6世紀後半から7世紀初頭には、千代丸古墳・丑殿古墳・弘法穴古墳など巨石を利用して造られた大型の横穴式石室が造られるようになった。さらに大分市内では、この時期に横穴墓が多く造られている。他の地域では首長墳の周辺に小型の群集石室墳が造られるが、大分ではほとんど存在していない。こうしたことから、横穴墓には身分的にも小型石室墳を造営するような被葬者が埋葬されたと考えられる。

今回の横穴墓の調査によって、古墳時代後期の墓制の一つである横穴墓群の形成過程、横穴墓の構造など多くの情報を得ることができた。

(池道)



第83図 A群遠景写真



第84図 B群遠景写真

XV 東田室遺跡第2次調査

調査面積	409㎡	調査期間	2001.05.07～01.09.20
所在地	A	調査担当	高島豊・梅田昭宏

今回の調査は、都市計画道路田室春日線改良事業に伴って実施されたものである。調査の結果、弥生時代前期中葉～末の貯蔵穴と推定される土坑群、古墳時代初頭～前期の竪穴住居群および井戸跡、平安時代初頭と見られる掘立柱建物等を検出した。

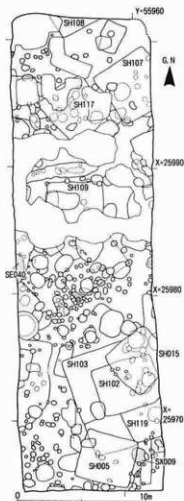
貯蔵穴と推定される土坑群は、調査区中央部東寄りを中心に分布しており、少なくとも20基以上存在するものと見られる。古墳時代の住居跡床面で検出されるなど、古墳時代以降の遺構に切られているものが多く認められ、このうちSX009は古墳時代住居SH005と試掘トレンチに切られているものの、概ね遺存状況は良好であった。平面形は長軸約1.3m、短軸約1.1mの楕円形状で、遺構検出面からの最大深は70cmであった。埋土の上部からは多量の弥生土器が出土しており、遺構廃絶時に一括廃棄されたものと考えられる。出土した土器は、甕（第89図3・4）、鉢（第89図2）、壺（第89図1）のほか図示していないが高環を含み、主要器種を全て含む良好な一括資料である。これらの土器はいわゆる豊後における弥生前期末～中期の「下城式」に類似するものである。しかし、壺の形態や甕口縁端部がわずかに外反する等、典型的な「下城式」成立期もしくはそれ以前に遡る特徴を有している。こうした特徴は大部分下志村遺跡で出土した土器のうち、下志村3式か、さらに遡る下志村2式（註）に比定できるものであり、弥生時代前期中葉以前に位置付けられる可能性が考えられる。

井戸（SE040）は調査区西端で検出され、現道の下に続いているため完掘できなかった。検出面からの深さは最深部で約1.4mである。土層の状況から素掘と考えられ、壁面には著しい崩落痕が認められる。このような井戸の構造では長期の維持は困難であったと考えられ、掘られた後、短期間で埋積したものと推定される。したがって、日常生活以外の何らかの用途を想定するほか無いものと思われる。埋土の下部から出土した土器から、古墳時代前期のものと推定される。

古墳時代の竪穴住居は、いずれも方形のもので切り合いが著しいが10基以上あるものと考えられる。出土した土器から、古墳時代初頭～前期に位置づけられるものである。SH005は調査区南端付近で検出された古墳時代前期の竪穴住居である。4.0m×4.2mの正方形に近い方形で深さは約20cmである。主柱穴は2本で中央付近に炭化物の集積した浅い土坑がみられ、炉ではないかと考えられる。明確な貼床は認められない。完形のものを含む多量の土器が出土したが、いずれも床面からわずかながら浮いており、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。



第85図 調査地点位置図



第86図 遺構配置図
(1/300)

掘立柱建物は調査区中央で検出され、現状で東西2間×南北1間であるが、北端部が攪乱により切られていることから、北西側にはさらに延びるものと考えられる。柱痕の一部からは黒色土器碗が出土しており、この建物は平安時代初頭の9世紀初頭～前半に比定される。このほか、遺構検出時には黒褐色土包含層から緑釉陶器片も出土しており、周辺に古代の建物群が展開する可能性が考えられる。

今回の調査地点は、毘沙門川南東側に所在する微高地上に位置しており、調査地点の北側および西側に下る地形と推定される。このため、地形的に高い、調査区の東側～南東側が各時代における遺跡の中心部であろうと考えられ、これは調査により判明した遺構分布とも一致するものである。(高畠)

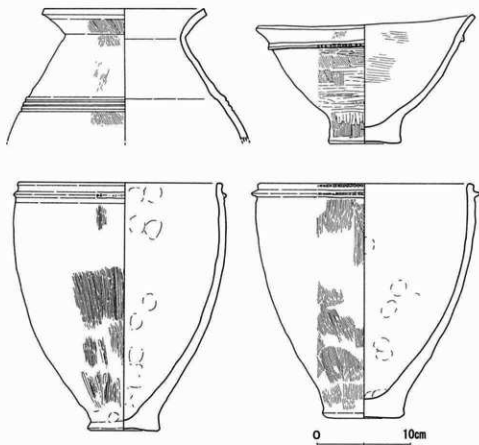
(註) 高橋徹1996「大分平野周辺の前期～中期の弥生式土器について」『九州横断道路関係埋蔵文化財発掘調査報告書 曲道跡』大分市教育委員会



第87図 調査区全景 (北から)



第88図 SK009遺物出土状況



第89図 SK009出土遺物 (1/4)

XVI 南金池遺跡第3次調査

調査面積	181㎡	調査期間	2001.12.12～02.01.22
地域	A	調査担当	後藤典幸 梅田昭宏

当調査は大分駅周辺総合整備事業の土地区画整理事業に伴い実施した。調査地は上野台地北側の沖積平野に位置し、現行の行政区画においては大分市顕徳町1丁目にあたる。

当地より南東に約1kmの上野台地東端には竜王畑遺跡が所在する。古代の大型建物跡、築地堀跡等が確認され、官衙に関連すると思われる遺構が広がる。東側には大友氏館跡があり、古代、中世における豊後の政治的中心地と近傍する。

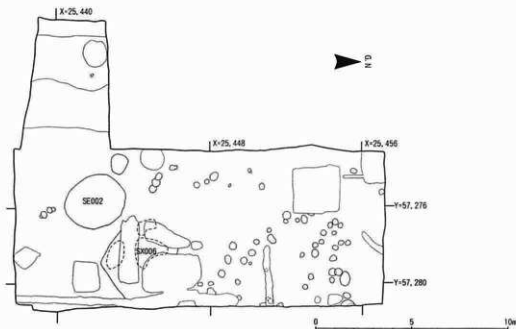
調査区は、近年に発掘調査された南金池遺跡第2次調査地（以下、第2次調査）と隣接する。試掘調査の結果から自然河道又は低湿地に挟まれた狭い微高地に立地している可能性が高く、第2次調査報告より、砂質の安定地盤上に立地した未発見の大型建物跡及び製塩関連遺構の検出が期待された。

調査地は標高約3.5m～4.0mを測る。（以下、標高をカッコに記述）石炭殻を混入する埋土が約25cm堆積し、下層では鉄分が沈着する約10cmの淡灰色土が認められる。この層までを重機による掘削で除去し、淡灰褐色土より人力による遺構の検出作業を行った。約5cm掘り下げると黄褐色の安定地盤面（約3.3m）に至り、この面において井戸跡、小穴群、焼土及び炭化物を含む土坑等の遺構が確認された。

SE002は井戸跡と考えられる。平面形は楕円形状であり、検出面では長軸3.2m、短軸2.8m、深さ1.5mを測る。検出面より約80cm程下位において（約2.3m）木枠を確認した。丸太を割り抜いた木製品であり、高さ約50cm、厚さ約3cm、内法は約60cmを測る。この木製品は曲物によって1/4程度周囲を固定され、曲物自体は木杭により支えられていた。さらに別の木枠を用いて曲物が存在しない約1/2を覆い、残る1/4は構造物が存在しない。し



第90図 調査地点位置図



第91図 遺構配置図 (1/200)

たがって、木枠は一部、二重に設置されていたと考えられる。二重に木枠を設置する点において第2次調査の井戸跡の構造と類似する。最深部(約1.7m)の湧水点には水溜と考えられる曲物が砂利層にくだり出土した。

遺物は、土師器環、須恵器高台付環、金紋形甕、平瓦、製塩土器、土鍾等が出土した。井戸跡の埋没年代は水溜部出土の土師器環から9世紀初頭以降に埋没したと考えられる。

SX006は焼土及び炭化物を含む土坑である。近、現代の土木作業等による掘り込みにより大半は破壊されていた。検出面において、長軸1.36m、短軸0.76m、高さ0.30mを測る。土師器環、製塩土器、金紋型甕等が出土している。出土遺物は概ね9世紀代に位置づけられる。

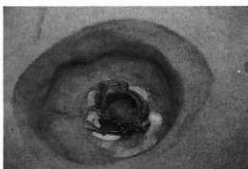
当調査において古代に属する遺物及び遺構を確認した。第2次調査地と隣接地することから、同一の微高地上における遺構の分布を確認した。両遺跡の出土遺物及び類似した井戸跡の構造から、ほぼ同時期に営まれた一連の遺跡であると考えられる。また、調査区内において約1kgの製塩土器が出土し、第2次調査により出土した製塩土器は少なくとも約9kg以上(註1)存在する。したがって、同一の微高地上において古代に属する製塩関連施設跡が存在した可能性が一考される。

今後の調査においては製塩関連遺構の想定を含めた、古代に属する遺構の分布及び当調査において確認されなかった建物跡の検出が望まれる。(梅田)

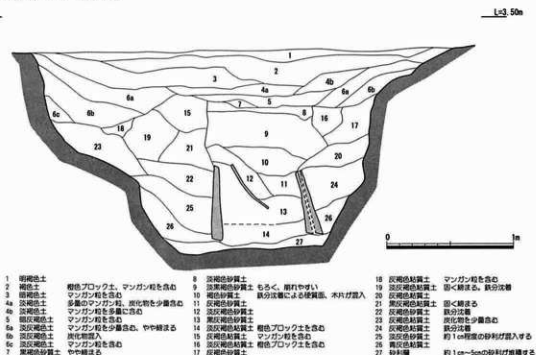
註1 本稿作成時に、再計量。



第92図 調査区全景(南方から)



第93図 SE002検出状況(西方から)



第94図 SE002土層断面図(1/30)

XVII 大道遺跡群第1次調査

調査面積 630㎡ 調査期間 2002.01.28～02.03.26
地域 A 調査担当 後藤典幸 梅田昭宏

当調査は都市計画道路、庄ノ原佐野線の建設に伴い実施された。調査地は上野台地の北側裾部の緩傾斜地に位置する。調査地の東側、約500mの地点においては平成12年度に大分県教育委員会によって調査が行われ、弥生時代、古代の溝状遺構が検出されている。東大道遺跡南側の近縁には初瀬井路が所在する。初瀬井路は天正期に開削が指示された国井出井路を含み、荏隈から上野台地を環状に廻り生石へ達する長大な井路である。また西側は大道条里跡に比定され、条里地割はGN-35°-Eを指向すると考えられている。

調査区の地表面は標高約7.6m～8.4mを測り、北へ傾斜する。標高約7.5m付近において少量の水が湧出する安定地盤面を確認した。調査区の中央部付近において北側に向かい傾斜する地形の落ちこみがあり、水田耕作土と推定される土器包含層が徐々に厚く堆積する。遺構は包含層の上下2面において検出した。

SD002は溝状遺構である。検出面より、最大幅約1.8m、深さ約0.4mを測る。染付碗等が出土し、18世紀代に位置づけられる。中央付近で検出されたSD005は中世に属する溝状遺構と考えられる。断面は逆台形状を呈す。最大幅約2.2m、深さ約0.4mを測る。青磁碗(第100図1 以下番号のみ表記)、土師器環(2)、土師質土器鉢(3)、瓦質土器火鉢(4)、備前産播鉢(5)等が出土した。出土遺物により15世紀後半代に位置付けられる。これら2条の溝状遺構はGN-55°-Eを示す。

SD012は、断面は逆台形状を呈し、GN-78°-Eを指向する。遺物は少量の土師器片、須恵器片等が出土する。須恵器の出土から、古代以降に埋没した可能性が示唆される。

SX015は長方形の掘り方を有する遺構である。堆積状況から人為的に埋め戻された可能性が考えられる。最下層から土師器環が1点のみ出土する。遺物の属属年代は概ね15世紀代に位置づけられる。

本調査地において複数の溝状遺構を確認した。GN-35°-Eと一致する遺構は皆無であり、比定された条里地割との関連性は低いと考えられる。東西方向に延長するSD002、SD005、SD012は土層観察時に流水痕跡が認められ、台地の裾部に位置する立地条件から、台地斜面の流水や湧水を汲み取り、分配する流路としての機能が想定される。

概して遺物の出土量が少ない為、遺構の所産時期を求めるのは困難であり、今後の調査成果を含めた検討が望まれる。(梅田)



第95図 調査地点位置図



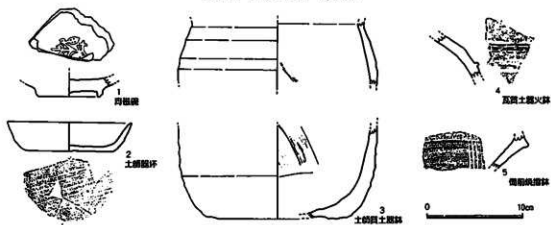
第96図 調査区全景



第97図 SD040完掘状況
(東方方向から)



第98圖 遺構配置圖 (1/200)



第99圖 SD005出土遺物 (1/4)

XVIII 中世大友府内町跡確認調査（試掘調査）

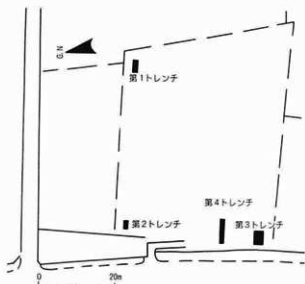
調査面積 約20㎡ 調査期間 2001.10.19
地域 A 調査担当 塔鼻光司・羽田野達郎・水町裕子

調査地は中世大友府内町跡の推定・今道町からやや南に位置する。トレンチを4本設定したところ、第1・第2トレンチでは16世紀前半～中頃の遺物包含層を確認し、第3トレンチでは石列、第4トレンチでは柱穴と溝状遺構を確認した。

第4トレンチでは南北方向に走る幅約3mの溝状遺構を確認した。溝状遺構内では石列も確認している。遺物は漳州窯の染付片、16世紀末の備前焼大甕口縁部片、備前焼水差または建水の破片などが出土している。土層観察から一気に埋没した可能性が考えられる。第3トレンチでも石列が検出されており、検出面の土層が第4トレンチの溝状遺構の埋土と同一であることから、第3トレンチの方向に伸びている可能性が高い。当調査地に16世紀代の遺構が展開していることが判明し、中世大友府内町の南限との関係が注目される。（水町）



第100図 調査地点位置図

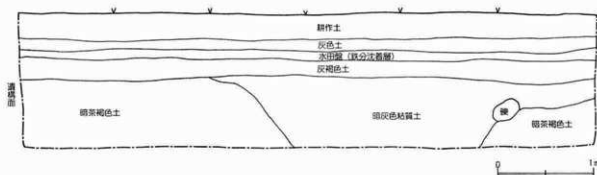


第101図 トレンチ配置図（1/1000）



第102図 第4トレンチ全景

中世大友
府内町跡
確認調査



第103図 第4トレンチ南壁土層断面図（1/40）

XIX 中世大友城下町跡確認調査（試掘調査）

調査面積 13㎡ 調査期間 2001.05.10
 地域 A 調査担当 塔鼻光司 羽田野達郎 水町裕子

申請地は、大分川左岸の標高約3m～4mの沖積低地に位置し、戦国時代の中世大友城下町の復原図によるとダイウス堂の付属施設（コレジオ、病院跡）が存在していたと想定される場所に比定される。このため、埋蔵文化財確認調査を平成13年5月10日に実施した。調査区に4本のトレンチを設定し調査したところ、1Tは、110cm掘り下げ断面観察により表土から約27cm下から3層に分層出来る整地層を確認し、一層目の整地層で柱穴を検出している。以下、表土下84cmで砂層を確認している。遺物は、土器片が出土している。2Tは、表土から約22cm下で豊薩戦争時のものと思われる焼土層、その下、8cm下で整地層を確認し、柱穴、角礫の集石を検出している。

遺物は、東南アジア産のものと考えられる16世紀後半の焼き締め陶器が出土している。4Tは、115cm掘り下げ行い、断面観察によりそれぞれ、表土下28cm、64cm、80cm、93cmで4つに分層出来る整地層を確認し、1、2、3層でそれぞれ土坑状の遺構、柱穴を検出している。最下層は、表土から107cm下で、砂層で構成されていた。遺物は、土器片が出土している。3Tは表土から50cmが攪乱を受けており、以下整地層を確認している。調査区東半分は上層が削平されていることが考えられる。以上、今回の調査所見から、ダイウス堂の付属施設に関係する遺構は、確認出来なかった。しかし、遺構が少ない中、角礫の集石が確認出来ているため、何らかの遺構の一部であることが想定される。（羽田野）



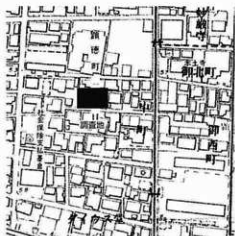
第104図 調査地点位置図



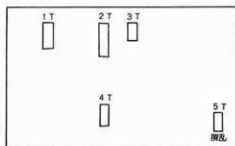
第105図
2T遺構配置図
(1/80)



第106図 遺構検出状況 (北より)



第107図 調査地付近見取図



第108図
調査地トレンチ配置図 (1/500)

XX 沖浜遺跡確認調査（試掘調査）

調査面積	7 ㎡	調査期間	2001.06.07
地域	A	調査担当	塔鼻光司 羽田野達郎 水町裕子

調査地は、住吉川最下流の左岸の砂州にあたり、復原図によれば南蛮貿易港が存在したとされる沖浜遺跡内の推定・神宮寺に比定される。トレンチを1本設定し、掘り下げを行ったところ、表土から58cm下の灰茶褐色シルト質土の整地層で1面目の遺構面を、その下9cmの黒茶褐色シルト質土・整地層で2面目の遺構面を確認し、それぞれビットを検出している。遺物が出土していないため、両面とも時期は不明である。そして、表土下86cmで確認出来た、3面目の遺構面にあたる黒褐色シルト質土では、石列遺構を検出している。遺構が確認された層からは、太宰府分類D期の龍泉窯系の青磁片が出土している。表土から96cm下で、最下層の黄茶色シルト質土で安定地盤を確認している。



第109図 調査地点位置図

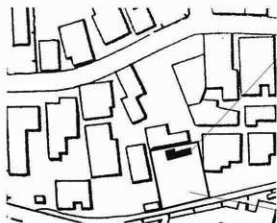


第110図 石列遺構出土状況（東より）

当遺跡は、笠和郷の勢家津や南蛮貿易に伴う施設等があったとされているが、考古学的観点からは、裏付けがとれておらず、全くその実態が分からない状況であった。今回の調査は遺跡内において初めて、遺跡が存在することが実証できた。また、その成果が、12世紀中頃または後半から遺構が存在し、遺構が複数面にわたって確認できていることから、国衙領域であった笠和郷の勢家津と南蛮貿易港時代の沖ノ浜に何らかに関係する遺構群ではないかと考えられる。（羽田野）



第111図 トレンチ内遺構配置図（1/80）



第112図 調査地付近見取図

XX I 沖浜遺跡確認調査（試掘調査）

調査面積	約11㎡	調査期間	2001.09.14
地域	A	調査担当	塔鼻光司 羽田野達郎 水町裕子

調査地は戦国期の貿易港として推定される沖浜遺跡にあたる。2本のトレンチを設定したところ複数の文化面を検出した。以下に概観する。

文化面1（暗灰褐色シルト質土）

第2トレンチのみで確認され、柱穴、礎石列を検出している。中世のものと思われる火樽模様のある備前焼の小底底部片が出土しているものの、近世～現代に帰属できる陶磁器片も出土していることから、当文化面は近世以降に形成された文化面と考えられる。

文化面2（暗茶褐色シルト質土）

第1・第2トレンチで共に確認される。第1トレンチでは土師器の坏片、同安窩系青磁碗の破片（碗Ⅰ-1b・大宰府分類・D期）を伴う溝状遺構を検出している。第2トレンチでは柱穴を検出したが、遺物は出土していない。文化面2の時期は第1トレンチの出土遺物から12世紀中頃～後半と考えられる。

文化面3（黄褐色シルト質土）

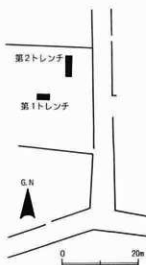
両トレンチで確認しており、第1トレンチでは土坑状遺構、第2トレンチでは柱穴・土坑状遺構を検出している。遺物は出土していないため時期は不明である。

南蛮貿易港として機能していたと考えられる時期の文化面は確認されていないが、文化面2・3の時期から笠和郷の勢家津との関連が注目される。

（水町）



第113図 調査地点位置図



第114図 トレンチ配置図 (1/1000)



第115図 第2トレンチ遺構配置図 (1/100)

1	表土
2	暗茶褐色シルト質土 (文化面2)
3	暗灰色土
4	黄褐色土
5	黄褐色シルト質土 (文化面3)

第116図 第1トレンチ土層模式図

1	表土
2	暗灰褐色シルト質土 (文化面1)
3	暗茶褐色シルト質土 (文化面2)
4	黄褐色シルト質土 (文化面3)

第117図 第2トレンチ土層模式図

第IV章 受贈図書目録

1. 調査報告書

北海道	財団法人 北海道埋蔵文化財センター	
	調査年報13 平成12年度	2001
福島県	(財) 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	
	西前坂遺跡 ー第二次調査報告ー 平和の社ニュータウン関連	1993
	清水台遺跡 ー第12.14.15 B.21次調査報告ー	1999
	蒲倉古墳群 ー第7次調査報告ー	1999
	小泉山田A遺跡(第4次) ー発掘調査報告ー 国道288号(郡山東バイパス)改築工事関連	1999
	守山城跡 ー発掘調査報告書署ー 個人宅地造成関連	1999
	荒井横田遺跡(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) ー第12・13次発掘調査報告ー 郡山南拠点土地区画整理事業関連	1999
	郡山市埋蔵文化財分布調査報告 8	2001
	第7回市内遺跡発掘調査成果展 埋もれていた中世のまち ー荒井猫田遺跡ー	1999
いわき市教育委員会	夏井庵寺 平成12年度範囲確認調査概報	
	松ノ下遺跡 ー縄文時代中期集落の調査ー 一般県道旅人勿来線内遺跡発掘調査報告2	2001
	石坪遺跡 ー古代集落の調査ー 一般国道6号久ノ浜バイパス埋蔵文化財調査報告Ⅲ	2001
	横山B遺跡 ー旧石器〜江戸時代の調査ー 常磐自動車道遺跡調査報告17	2001
いわき市教育委員会・日本道路公団・財団法人いわき市教育文化事業団	常磐自動車道遺跡調査報告16 大谷遺跡ー古代集落跡の調査ー	
	荒田目条里遺跡 ー弥生時代遺物包含層の調査ー	2001
(財) いわき市教育文化事業団	いわき市教育文化事業団 年報11 平成11年度	
	いわき市教育文化事業団 年報12 平成12年度	2001
群馬県	高崎市教育委員会	
	高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書15	2001
	倉賀野条里Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V遺跡 倉賀野上稲荷Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・V遺跡 三坊木Ⅰ・Ⅱ遺跡	2001
	矢中村北D・下村北Ⅱ・洞ノ内遺跡	2001
	下之城村前Ⅲ・倉賀野上新堀Ⅰ遺跡 高崎操車場跡地周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(1)	2001
	旭町Ⅲ遺跡 高崎駅周辺(西口)土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	2001
寄居町教育委員会	用土北沢遺跡(3次) 用土第三土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(4)	
	町内遺跡 8 赤浜遺跡(第1次調査)	2001
埼玉県	国立歴史民俗博物館	
	国立歴史民俗博物館研究報告 第86集	2001
	【共同研究】同位体を用いた産地決定法の研究 同位体・質量分析法を用いた歴史資料の研究	2001
	国立歴史民俗博物館研究報告 第87集 【共同研究】日本歴史における労働と自然	2001

国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館研究報告	第89集	国産紀年銘土器・陶磁器データ集成上巻	2001
国立歴史民俗博物館研究報告	第89集	国産紀年銘土器・陶磁器データ集成下巻	2001
国立歴史民俗博物館研究報告	第90集		2001
国立歴史民俗博物館研究報告	第91集	生・老・死：日本人の人生観	2001
国立歴史民俗博物館研究報告	第92集	古代・中世の都市を巡る流通と消費	2002
国立歴史民俗博物館 研究年報9	2000年度		2001
国立歴史民俗博物館研究報告	第88集	古代荘園絵図と在地社会についての的研究	2001

財団法人山武郡市文化財センター

新坂遺跡・東風吹山遺跡・浦野遺跡・西後藤遺跡

財団法人山武郡市文化財センター	株式会社山武グリーンカントリー倶楽部発掘調査報告書	第23集	1995
-----------------	---------------------------	------	------

(財) 山武郡市文化財センター

山荒久遺跡	一金谷郷遺跡群Ⅰ	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第29集	1996	
台前遺跡	上引切遺跡	一金谷郷遺跡群Ⅱ	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第39集	1996
油井古塚原遺跡	滝木浦遺跡	東金市道0102号線改良工事に伴う発掘調査報告書			
		(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第62集	2000	
駒形台遺跡		(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第63集	2000	
青掛貝塚遺跡	一金谷郷遺跡群Ⅲ	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第67集	2000	
台前遺跡	一金谷郷遺跡群Ⅳ	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第68集	2000	
一本松遺跡	(399地点)	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第69集	2000	
西権崎台遺跡	(414地点)	(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第72集	2001	
伊能忠敬出生地遺跡発掘調査報告書		(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第73集	2001	
大山遺跡605-3 地点		(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第76集	2002	
東遠芝遺跡 (1421・10地点)	山武町道三角山阿栗線道路改良工事に伴う発掘調査報告書				
		(財) 山武郡市文化財センター発掘調査報告書	第78集	2001	
年報 No.16	平成11年度	(財) 山武郡市文化財センター		2000	

文化庁

地方文化行政状況調査報告書	平成10年度		2001
地方文化行政状況調査報告書	平成11年度		2001

千代田区教育委員会

江戸城の考古学	江戸城跡・江戸城外堀跡の発掘報告	千代田区文化財調査報告書	12	2001
東京都千代田区	岩本町二丁目遺跡	千代田区文化財調査報告書	13	2001

東京都北多摩南都建設事務所 三鷹市教育委員会 三鷹市遺跡調査会

丸山B遺跡	東京都三鷹市	丸山B遺跡発掘調査報告書	三鷹市埋蔵文化財調査報告	第21集	2000
-------	--------	--------------	--------------	------	------

三鷹市教育委員会 三鷹市遺跡調査会 三鷹商事株式会社

井の頭池遺跡群A Ⅱ	東京都三鷹市井の頭	井の頭池遺跡群A発掘調査報告書	三鷹市埋蔵文化財調査報告	第22集	2001
------------	-----------	-----------------	--------------	------	------

府中市教育委員会

武蔵国府関連遺跡調査報告28	高倉・美好町地域	の調査9	都府府中美好町二丁目第8期地建設に伴う事前調査		
武蔵国分寺跡調査報告5	南西地域の調査1	都府府中武蔵台一丁目団地建設に伴う事前調査	2001.3		
		府中市埋蔵文化財調査報告	第29集	2001	
武蔵府中	大量出土銭の調査概報	一東京都府中市宮西町1-2出土一		2001	
朝日町神明台遺跡	府中市朝日町3丁目	旧調布基地跡地内遺跡の調査概要		2001	

府中市教育委員会 府中市遺跡調査会

武蔵国府の調査	18	昭和58年度府中市内調査概報		2001	
武蔵国府の調査	19	平成10年度府中市内調査概報		2001	
推定武蔵国分寺参道口跡の調査		都府府中栄町三丁目第2期地の発掘調査		2001	

東村山市遺跡調査会

下宅部遺跡	1998年度発掘調査概報	1999
下宅部遺跡	1999年度発掘調査概報	2000
下宅部遺跡	2000年度発掘調査概報	2001

東京都埋蔵文化財センター

袋地遺跡	一赤羽北地区都市施設整備再開発事業にともなう調査一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第93集	2001
東京都あきる野市	天神前遺跡 瀬戸岡古墳群 上賀多遺跡 新道通遺跡 南小宮遺跡	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第95集	2001
都市計画道路都道秋多3・4・6号線用地内における埋蔵文化財発掘調査報告		東京都埋蔵文化財センター調査報告	第96集	2001
多摩ニュータウン遺跡	一No.210遺跡一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第97集	2001
尾張藩上屋敷跡遺跡Ⅶ		東京都埋蔵文化財センター調査報告	第98集	2001
尾張藩上屋敷跡遺跡Ⅷ		東京都埋蔵文化財センター調査報告	第99集	2001
多摩ニュータウン遺跡	一No.471一B遺跡一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第100集	2001
東京都新宿区	百人町三丁目西遺跡Ⅴ 東京都中央卸売市場淀橋市場施設整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第101集	2001
多摩ニュータウン遺跡	一960遺跡一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第103集	2002
多摩ニュータウン遺跡	一No.939遺跡Ⅲ(Ⅰ)・Ⅲ(Ⅱ)・Ⅲ(付図)一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第104集	2002
多摩ニュータウン遺跡	一200遺跡(第2・3次調査)一	東京都埋蔵文化財センター調査報告	第108集	2002
	ⅠⅡ本文編(Ⅰ) Ⅱ本文編(Ⅱ) Ⅲ図版編			

多摩ニュータウンNo.471一B遺跡調査委員会

多摩ニュータウンNo.471一B遺跡出土石器に関する調査報告一		2001
---------------------------------	--	------

東京都南部住宅建設事務所

東京都	日野新町蛇久保遺跡	2001
-----	-----------	------

新潟県

中条町教育委員会

新潟県北蒲原郡中条区	下町・坊城遺跡Ⅴ 中条町埋蔵文化財調査報告	第21集	
(C地点遺構編・総論編・奥山荘政所条・C地点遺物編写真図版編)			2001

富山県

財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所

埋蔵文化財調査概報	一平成12年度一	2001
富山県福野町	安居宮跡群発掘調査レポート	
	一平成12年度富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座一	2001

山梨県

甲府市教育委員会

横根・桜井積石塚古墳群調査報告書Ⅱ	一横根支群94・103・104号墳発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告12	2001
-------------------	---------------------------	--------------	------

甲府市・甲府市教育委員会

久保之沢遺跡	一農道改良工事に伴う発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告13	2001
秋山氏館跡	一甲府市都市計画街路高畑町昇仙峡線建設工事に伴う発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告16	2001

甲府市山宮町土地画整理組合・甲府市教育委員会

米草遺跡	一山宮町土地画整理事業に伴う発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告14	2001
------	------------------------	--------------	------

桜シルク工業株式会社・甲府市教育委員会

甲府城下町遺跡Ⅰ	一北口二丁目(桜シルク跡)発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告15	2001
----------	-----------------------	--------------	------

中央都市建設株式会社・甲府市教育委員会

武田城下町遺跡Ⅰ	一大手一丁目(甲府宮林署跡地)発掘調査報告書一	甲府市文化財調査報告17	2001
----------	-------------------------	--------------	------

岐阜県

神岡町教育委員会

岐阜県吉城郡神岡町	江馬氏城館跡 下館跡堀内地区西辺と北西隅部の調査		2001
-----------	--------------------------	--	------

静岡県	袋井市教育委員会	
	掛之上遺跡Ⅶ	袋井市駅前第2地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書2 2001
愛知県	名古屋市教育委員会	
	埋蔵文化財調査報告書36 朝日遺跡（第7次～10次）茶臼山古墳（第3次）	
	千音寺遺跡（第3次）H-113号窯 付 朝日遺跡（第5・6次）名古屋城三の丸遺跡（第11次）	名古屋市文化財調査報告 49 2001
	埋蔵文化財調査報告書37 高蔵遺跡（第26次～30次）玉ノ井遺跡（第2次）	
		名古屋市文化財調査報告 50 2001
	埋蔵文化財調査報告書38 正木町遺跡（第12次・第13次）伊勢山中学校遺跡（第8次）	
	尾張元興寺跡（第9次）堅三蔵通遺跡（第15次）	名古屋市文化財調査報告 51 2001
	埋蔵文化財調査報告書39 西志賀遺跡（第2次）松ヶ洞14号墳 桜台高校遺跡（第3次）	
	春日野町遺跡（第3次）	名古屋市文化財調査報告 52 2001
	豊田市教育委員会	
三重県	不動1・2号墳 山ノ神古墳 神明社古墳 【矢作川中流域左岸における首長墓の系譜】	
		豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 2001
	神明遺跡Ⅱ 第一分冊 本文編 第二分冊 写真図版編	豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 2001
	三味線塚古墳『中期古墳の全面発掘調査』	豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 2001
	新金山遺跡 本文編 写真図版編	豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 2001
	(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター	
	広久手18・20・30号窯跡 一博覧会エントランスエリア整備に係る埋蔵文化財発掘調査一	2001
		財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 調査報告 第23集 2001
	平成12年度 瀬戸市埋蔵文化財センター年報	2001
	四日市市教育委員会	
滋賀県	平尾城跡	四日市市遺跡調査会文化財調査報告書X X VI 2001
	菅野遺跡	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書27 2001
	一般国道1号北勢バイパス 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ	2001
	四日市市文化財保護年報11 一平成11年度一	2000
	滋賀県教育委員会 滋賀県安土城郭調査研究所	
滋賀県	特別史跡安土城跡発掘調査報告11 一主郭中心部本丸の調査一 (本文編) (図版編)	2001
	特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書Ⅶ 一伝前田利家邸跡一	2001
	特別史跡安土城跡石垣調査報告1 一平成6～11年度の調査一	2001
	滋賀県安土城郭調査研究所	
	滋賀県安土城郭調査研究所年報 2000年度	2001
京都府	草津市教育委員会	
	門ヶ町遺跡第18次発掘調査報告書	草津市文化財調査報告 43 2001
京都府	(財) 長岡京市埋蔵文化財センター	
	長岡京跡右京第679次発掘調査報告書	長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 2001
	長岡京跡右京第668次発掘調査報告書	長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集 2001
	長岡京跡右京第696次発掘調査報告書	長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集 2001
	長岡京跡右京第716次発掘調査報告書	長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集 2001
	長岡京跡右京第721次 開田遺跡発掘調査報告	長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集 2002
	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成11年度	2001
	京都府 城陽市教育委員会	
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第39集	2001
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2001
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 第41集	2001
京都府	(財) 京都埋蔵文化財調査研究センター	
	京都府埋蔵文化財情報 第79号	2001

京都府埋蔵文化財情報 第80号	(二〇〇一・六)	2001
京都府埋蔵文化財情報 第81号	(二〇〇一・九)	2001
京都府埋蔵文化財情報 第82号		2001

京都府立大学文学部考古学研究室

東山古墳群Ⅱ 中町文化財報告25	2001
------------------	------

大阪府

豊中市教育委員会

蛍池北道跡 ー第1次発掘調査報告書ー	平成13年(2001年)3月	2001
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要	平成12年度(2000年度)	2001
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要	平成13年(2001年)	豊中市文化財調査報告書第51集 2002

貝塚市教育委員会

海塚道跡発掘調査概要	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第50集	1999
沢城跡発掘調査概要	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第51集	1999
沢共同墓地道跡発掘調査概要	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第52集	1999
津田北道跡 発掘調査報告書	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第53集	2000
貝塚市道跡群発掘調査概要22	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第54集	2000
貝塚市内道跡発掘調査概要	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第56集	2001
加治・神前・畠中道跡発掘調査概要9		
ー貝塚中央線南海本線単独立体交差化工事に伴う側道建設工事の調査ー	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第57集	2001
貝塚市道跡群発掘調査概要23	貝塚市埋蔵文化財調査報告 第58集	2001

高槻市教育委員会

高槻城クリシタン墓地 ー高槻城三の丸跡北郭地区発掘調査報告書ー		
高槻市文化財調査報告書 第22冊		2001
嶋上道跡群25 高槻市文化財調査概要X XⅦ		2001
史跡・今城塚古墳 ー平成12年度・第4次規模確認調査ー		2001
高槻市文化財年報 平成11年度		2001

東大阪市教育委員会

東大阪下水道事業関係発掘調査概要報告ー平成11年度ー	2000
瓜生堂道跡第46次発掘調査中間報告書 平成11年度	2000
瓜生堂道跡第47ー1次発掘調査中間報告書 平成12年度	2001
東大阪埋蔵文化財発掘調査概要ー平成12年度ー	2001

熊取町教育委員会

熊取町道跡群発掘調査概要報告書X V	熊取町埋蔵文化財調査報告第36集	2001
--------------------	------------------	------

蛍池西道跡調査団

大阪府豊中市蛍池西道跡 (本文編)		
	阪神高速道路大阪池田線池田延伸工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1998
大阪府豊中市蛍池西道跡 (図版編)		
	阪神高速道路大阪池田線池田延伸工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1998

大阪大学埋蔵文化財調査委員会

待兼山道跡Ⅲ ー大阪大学旧医歯技術短期大学跡地試掘調査報告ー	2001
--------------------------------	------

大阪大学大学院文学研究科考古学研究室

勝福寺古墳測量調査報告書	2001
--------------	------

国立民族学博物館情報管理施設

国立民俗学博物館国内資料調査委員 CD-ROM版 調査報告書21 解説書	2001
--------------------------------------	------

兵庫県

赤穂市教育委員会

東有年・沖田道跡の風景 ーほ場整備事業に伴う発掘調査の記録ー	赤穂市文化財調査報告書48	1999
赤穂の石灯籠 その一 赤穂市文化財調査報告書五一		2000
赤穂の石灯籠 その二 赤穂市文化財調査報告書五一の二		2000

	姫路市教育委員会	
	TSUBOHORI 平成11年度(1999)姫路市埋蔵文化財調査略報	2000
	加東郡教育委員会	
	加東郡埋蔵文化財報告27 埋蔵文化財調査年報～2000年度～	2001
	大手前大学人文科学部考古学研究会	
	南所3号墳試掘調査 ー神戸市北区道場町塩田字南所所在ー 大手前大学考古学研究会報告第1冊	2001
	大手前大学史学研究所	
	神戸市・下山手通道跡	
奈良県	奈良市教育委員会	
	奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成10年度	2000
	奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成11年度	2001
	奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 1999	2000
	奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 2000	2000
	桜井市教育委員会	
	桜井市 平成6年度国庫補助による発掘調査報告書2	
	桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 16集	1995
	桜井市 平成11年度国庫補助による発掘調査報告書	
	桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 21集	2000
	桜井市 平成12年度国庫補助による発掘調査報告書	
	桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 22集	2001
和歌山県	桜井市内 1999年度 発掘調査報告書3	2000
	(財)元興寺文化財研究所	
	滋賀県野洲町大森原所在 大森原西遺跡	
	(財)和歌山市文化体育振興事業団	
	史跡和歌山城第22次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告第25集 2000
	鳴神VI遺跡第5次発掘調査概報	和歌山市文化体育振興事業団調査報告第26集 2001
	和歌山市内遺跡発掘調査概報 平成11年度 府中遺跡発掘調査	2001
	史跡和歌山城石垣保存修理報告書	1999
	和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報6 ー平成8(1996)・平成9(1997)年度ー	2000
	岩出町教育委員会	
	岩出町内遺跡発掘調査概報 平成11年度 根来寺坊院跡の調査	2000
島根県	島根県教育委員会	
	平成12年度 国指定史跡山代二子塚環境整備事業に伴う発掘調査報告書 ー山代二子塚古墳ー	2001
	御崎谷遺跡・大床遺跡 ー明治の海軍望楼跡と昭和の防空監視明跡の調査ー	
	隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書 第1冊	2001
	島根県教育庁 埋蔵文化財調査センター年報IX平成12年度	2001
	島根県教育委員会・太田市教育委員会	
	石見銀山「妙正寺跡」 石見銀山遺跡石造物調査報告書1	2001
	松江市教育委員会 財団法人 松江市教育文化振興事業団	
	奥山古墳群発掘調査報告書 2001年9月 松江市文化財調査報告書 第90集	2001
	財団法人 松江市教育文化振興事業団	
	財団法人松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査年報V 平成12年度	2001
	日本道路公団中国支社 島根県教育委員会	
	堂床遺跡 中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4	2001
	茂芳目遺跡 布志名遺跡 大堤I遺跡 大堤II遺跡 横ノ木古墳群 真野谷遺跡 杉谷遺跡 室山遺跡 中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4	2001

岩屋道跡・平床Ⅱ道跡	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 6	2001
上野道跡・竹ノ崎道跡 (本文編) (図版編)	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 9	2001
荒畑道跡・ラント道跡・野田道跡	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書11	2001
湯の奥道跡 登安寺道跡 湯後道跡 土井砂道跡	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書12	2001
熊谷道跡・要害道跡	中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書13	2001
国土交通省中国地方整備局		
戸井谷尻道跡・長老畑道跡 (第一分冊) (第二分冊)	志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9	2001
国土交通省出雲工事事務所 島根県教育委員会		
長廻横穴墓群・長廻道跡 (Vol.1) 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ		2001
国土交通省中国地方整備局松江国道工事事務所		
塩津丘陵道跡群 (塩津山道跡 柳道跡 柳Ⅱ道跡) 小久白墳墓群 一般国道9号 (安来道路) 建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区13		2001
国土交通省松江国道工事事務所 島根県教育委員会		
布志名大谷Ⅰ道跡 (1号墳) 一般国道9号松江道路 (連結部) 建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 1		2001
国土交通省松江国道工事事務所 島根県教育委員会		
布志名大谷Ⅲ道跡 一般国道9号松江道路 (連結部) 建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 2		2001
国土交通省浜田工事事務所 島根県教育委員会		
石見焼陶連道跡調査報告 1 (飯田A道跡・長東坊師窯跡) ——一般国道 9 号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 V—		2001
石見焼陶連道跡調査報告 2 上府八反原窯跡 (佐々木窯跡) ——一般国道 9 号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 VI—		2001
恵良道跡 堂々炭窯跡 上条道跡 水戸 (三戸) 神社跡 (上条古墳) 立女道跡 ——一般国道 9 号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 IV		2001
国土交通省中国地方整備局 島根県教育委員会		
丸山道跡・大槌古跡 志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書10		2001
国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所 島根県教育委員会		
古志本郷道跡Ⅱ 斐井川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ		2001
国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所 島根県教育委員会		
蟹谷道跡 上沢Ⅲ道跡 古志本郷道跡Ⅲ 斐井川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ		2001
島根県土木部河川課 島根県教育委員会		
島根県松江市西川津町所在 西川津Ⅷ道跡 朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第13冊		2001
岡山県 岡山市教育委員会		
三手向原道跡 —中世土師器窯と集落道跡の発掘調査報告—		2001
足守藩武家屋敷跡Ⅱ —足守小学校プール建設に伴う発掘調査報告—		2001
史跡保存整備事業 史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告		2001
岡山市埋蔵文化財調査の概要 1999 (平成11) 年度		2001
広島県 福山市教育委員会 福山市埋蔵文化財発掘調査団		
井上北道跡 —土砂採取に伴う発掘調査報告書—		2001

広島大学文学部帝釈峠道跡群発掘調査室

広島大学文学部 帝釈峠道跡群発掘調査室年報X V

2001

山口県

下関市教育委員会

伊倉道跡 山口県下関市大字伊倉字龍王田地内	伊倉道跡（龍王田地地区）発掘調査報告書		
	下関市埋蔵文化財調査報告書	47	2001
伊倉道跡 山口県下関市伊倉本町488番地内	伊倉道跡（下川地区）発掘調査報告書		
	下関市埋蔵文化財調査報告書	54	2001
長門国府跡（長門国府跡周辺道跡群第12次発掘調査）	山口県下関市長府宮の内町地内		
長門国府跡（宮の内地区）発掘調査報告書	下関市埋蔵文化財調査報告書	71	2001
長門国府跡（長門国府跡周辺道跡群 第13次発掘調査）	山口県下関市長府金屋町地内		
長門国府跡（金屋地区）発掘調査報告書	下関市埋蔵文化財調査報告書	72	2001
長門国府跡（長門国府跡周辺道跡群 第14次発掘調査）	山口県下関市長府惣社町地内		
長門国府跡（惣社地区）発掘調査報告書	下関市埋蔵文化財調査報告書	73	2001
熊野原道跡 山口県下関市熊野町一丁目地内	熊野原道跡発掘調査報告書		
	下関市埋蔵文化財調査報告書	74	2001

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館年報6	—平成12年度—		2001
--------------	----------	--	------

山口市教育委員会

上東道跡	山口市埋蔵文化財調査報告第62集	1997	
東福寺跡・御堀道跡	山口市埋蔵文化財調査報告第76集	2001	
上東道跡 弥生時代遺物編	山口市埋蔵文化財調査報告第77集	2001	
大内氏道跡整備基本構想 史跡大内氏道跡附凌雲寺跡保存修理事業報告書1		2001	
史跡大内氏道跡附凌雲寺跡 館跡整備基本計画策定事業報告書			
史跡大内氏道跡附凌雲寺跡保存修理事業報告書2		2001	

(財) 山口県教育財団 山口県埋蔵文化財センター

大崎道跡（本船地区）	山口県埋蔵文化財センター調査報告 第22集		2001
山口県埋蔵文化財センター年報	—平成12年度— 陶祖 第14号		2001

徳島県

(財) 徳島県埋蔵文化財センター

阿讃山脈東南縁の古墳群	—四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査概報—	2001	
	徳島県埋蔵文化財センター調査概報 第3集	2001	
鮎喰道跡・石井道跡-徳島県立城西高等学校・名西高等学校施設新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-			
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第26集	2000	
四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告15 円通寺道跡	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第28集	2000	
四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告16 八幡道跡・井内道跡・坊道跡・須賀道跡・末道跡	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第29集	2000	
貞光前田道跡 -西部テクノスクール建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第35集	2001	
四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告21 波島遺跡・下波島遺跡・八幡遺跡・(B)・(C)・(D)・(E)・(F)・(G)・(H)・(I)・(J)・(K)・(L)・(M)・(N)・(O)・(P)・(Q)・(R)・(S)・(T)・(U)・(V)・(W)・(X)・(Y)・(Z)	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第41集	2001	
徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.11 1999年度		2000	
徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.12 2000年度		2001	

徳島県教育委員会 (財) 徳島県埋蔵文化財センター

新蔵町1丁目道跡 企業局総合管理事務所所在地点Ⅱ			
—徳島県企業局総合管理事務所駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2000		
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第30集	2000	
新蔵町3丁目道跡 徳島保健所地点			
—徳島保健所改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—			
(第一分冊 本文編) (第二分冊 図版編) 2000	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第31集	2000	
南前川町1丁目道跡—鳴戸教育大学(附小)校舎新築埋蔵文化財発掘調査報告書—			
	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第36集	2002	

徳島市教育委員会

阿波国府跡発掘調査報告書	2000
阿波国府跡発掘調査報告書	2001
徳島市埋蔵文化財発掘調査概報10	2000
徳島市埋蔵文化財発掘調査概報11	2001

香川県

高松市教育委員会

松縄下道跡 太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第四冊	高松市埋蔵文化財調査報告書 第52集	2001
木太中村道跡 都市計画道路福岡三谷線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第一冊	高松市埋蔵文化財調査報告書 第53集	2001
高松市内道跡発掘調査概報 一平成12年度国庫補助事業一	高松市埋蔵文化財調査報告書 第54集	2001
香西南西打道跡 鬼無藤井道跡		
高松港頭地区再開発関連事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第一・二冊		2001
善通寺市		
旧練兵場道跡 市営西仙遊町住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		2001

愛媛県

今治市教育委員会

近見ハサマ古墳	今治市埋蔵文化財調査報告書第53集	2000
山方桜ノ町道跡	今治市埋蔵文化財調査報告書第54集	2000
市内道跡試掘確認調査報告書X	今治市埋蔵文化財調査報告書第55集	2000
市内道跡試掘確認調査報告書X I	今治市埋蔵文化財調査報告書第56集	2000
桜井浜ノ上道跡	今治市埋蔵文化財調査報告書第57集	2000
市内道跡試掘確認調査報告書X II	今治市埋蔵文化財調査報告書第59集	2001
市内道跡試掘確認調査報告書X III	今治市埋蔵文化財調査報告書第60集	2001
伊予国分寺跡確認調査	今治市埋蔵文化財調査報告書第61集	2001
阿方中屋道跡Ⅲ	今治市埋蔵文化財調査報告書第62集	2001
且勇龍道跡 宅間馬場口道跡	今治市埋蔵文化財調査報告書第63集	2001

松山市教育委員会

東雲神社道跡	松山市文化財調査報告書79	2001
富院の道跡Ⅱ 一鳥越一 一津田中学校構内一 一北富院地内一	松山市文化財調査報告書80	2001
小野地区の道跡 北海本恵社谷道跡2次調査地 北海本北池道跡・北海本太尺寺道跡	松山市文化財調査報告書81	2001
東野中畦道跡	松山市文化財調査報告書82	2001
伊台急部道跡	松山市文化財調査報告書85	2002
桑原地区の道跡Ⅳ 桑原本郷道跡・桑原道跡・桑原小石原道跡・東野お茶屋台道跡1次2次3次	松山市文化財調査報告書86	2002
松山市埋蔵文化財調査年報 12 平成11年度		2001
松山市埋蔵文化財調査年報 13 平成12年度		2001

松山市教育委員会 財団法人 松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

大海道跡 一1・2次調査一	松山市文化財調査報告書77	2000
播磨塚天神山古墳	松山市文化財調査報告書83	2001
福音寺地区の道跡Ⅲ 筋違Ⅰ・Ⅱ道跡	松山市文化財調査報告書84	2001

(財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター

尼ノ古城跡・かわらがはな涼跡 一四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XVI一		
伊予市編Ⅳ 緩埋12-5		2001
松ノ元道跡 一一般国道196号今治小松道路埋蔵文化財調査報告書 第1集一 緩埋12-6		2001
鶴が峠古墳群 (LIX) 一主要地方道松山港線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一 緩埋12-7		2001
大除道跡2次調査主要地方道宿毛津島線緊急輸送路ネットワーク整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書一		
本文編 資料編 図版編 緩埋13-1		2001
水戸森道跡・七反山道跡・今岡城跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XVII・内子町編		2001

福岡県

(財) 北九州市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室

木屋瀬宿本陣跡・脇本陣跡 一直方・水巻線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書1一		
北九州市埋蔵文化財調査報告書第255集		2000

御座道跡 第16地点	一中貫・賀弥生が丘1号線道路改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告1-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第256集	2000
貨・井手ヶ本道跡 第3次	一飛行場南線道路改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告2-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第257集	2001
小倉城御普請所跡	一街路事業域内大手町線道路改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第258集	2001
下石田道跡	一湯川東谷線道路改築工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第259集	2000
長野フンテ道跡2	-4区の調査-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第260集	2001
米町道跡2	(第2地点の調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書第261集	2001
長野小西田道跡2	-北九州市総合運動公園建設に伴う埋蔵文化財調査報告4-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第262集	2001
長野角屋敷道跡2	- (仮) 北九州市総合運動公園建設に伴う埋蔵文化財調査報告5-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第263集	2001
上賀道跡 (C) 4	4区 貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告	北九州市埋蔵文化財調査報告書第264集	2001
本屋瀬宿本陣跡・脇置本陣跡2	-直方・水巻線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告2-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第265集	2001
本屋瀬宿本陣跡・脇置本陣跡3	-本屋瀬街づくり拠点施設建設に伴う埋蔵文化財調査報告-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第266集	2001
金丸道跡3	-一般国道200号直方バイパス建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告-	北九州市埋蔵文化財調査報告書第267集	2000
埋蔵文化財調査室年報17 平成11年度			2001
北九州市教育委員会			
八ヶ道山墳墓群	-北九州小倉南区大字葛原所在-	北九州市文化財調査報告書第54集	1993
西園大品道跡	-北九州市若松区西園町所在-	北九州市文化財調査報告書第55集	1993
田町道跡	-北九州市小倉北区田町所在-	北九州市文化財調査報告書第56集	1993
小倉城北の丸跡	-北九州市小倉北区城内2-2所在-	北九州市文化財調査報告書第57集	1993
京町道跡	-北九州市小倉北区城内所在-	北九州市文化財調査報告書第59集	1993
小倉城跡	-北九州市小倉北区城内所在-	北九州市文化財調査報告書第60集	1994
早稲田道跡	-北九州市小倉南区北方三丁目所在-	北九州市文化財調査報告書第61集	1994
高坊道跡 (第2地点)	北九州市文化財調査報告書第88集		2000
鬼ヶ原道跡	-マンション建設工事に伴う埋蔵文化財調査-	北九州市文化財調査報告書第90集	2000
大手町道跡第2地点	-消防局本部庁舎建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査-	北九州市文化財調査報告書第91集	2001
小倉城下大坂町道跡	株式会社福岡銀行小倉支店建替え工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査	北九州市文化財調査報告書第92集	2001
福岡県教育委員会			
仁右衛門堀道跡	上巻 下巻 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第14集		2001
船越高原A道跡	福岡県浮羽郡田主丸・吉井町所在道跡の調査		
一般国道210号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第15集			2001
西新町道跡	-福岡県福岡市早良区西新所在西新町道跡第12次調査報告2-	福岡県文化財調査報告書第157集	2001
内ヶ磯竈跡1	福岡県直方市大字領野所在近世竈跡の調査	福岡県文化財調査報告書第163集	2001
上唐原了清道跡	福岡県直方市大平村所在道跡の調査	一般河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告 6	2001
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報	-平成10年度-		2001
福岡県埋蔵文化財発掘調査年報	-平成11年度-		2001
九州大学大学院人文科学研究所考古学研究室			
福岡県志元村道跡	縄文貝塚・江戸墓地の発掘調査 考古学資料集15		2000
佐賀県大友道跡	-弥生墓地の発掘調査-	考古学資料集16	2001
玄界灘における海底道跡の探査と確認調査	(課題番号 10410094)		
平成10年~12年度科学研究費補助金 (基礎研究 (B)(2)) 研究成果報告書			2001

梧岡市教育委員会

一般国道202号福岡外環状道路及び福岡市営地下鉄3号線建設に伴う発掘調査2

梅林道跡 第2次調査	福岡市埋蔵文化財報告書	第660集	2001
前方後円墳3基を含む4世紀～7世紀の古墳群の報告 本文編・図版編			
羽根戸南古墳群 第3次調査	福岡市埋蔵文化財報告書	第661集	2001
諸岡所在 笹原道跡群第3次調査・飯付所在三笠道跡群第3次調査			
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書-10-	福岡市埋蔵文化財報告書	第662集	2001
比恵29 比恵道跡群第72次調査概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第663集	2001
箱崎10 箱崎道跡第18・19次調査報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第664集	2001
吉塚7 吉塚道跡群第7次調査概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第665集	2001
博多75 博多道跡群第118次調査の概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第666集	2001
博多76 博多道跡群第117次調査の概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第667集	2001
博多77 博多道跡群第116・119次調査概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第668集	2001
博多78 博多道跡群第121次調査概要免掘調査報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第669集	2001
博多79 博多道跡群第123次調査概要報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第670集	2001
比恵30 比恵道跡群第69・70・71次免掘調査報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第671集	2001
那珂27 那珂道跡群第67次調査の概要	福岡市埋蔵文化財報告書	第672集	2001
那珂28 那珂道跡群第70・74次免掘調査報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第673集	2001
那珂29 那珂道跡群第72次三笠道跡群4次調査概要報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第674集	2001
吉武道跡群XⅢ飯盛・吉武訓場整備事業関係調査報告書6	福岡市埋蔵文化財報告書	第675集	2001
高畑道跡17次 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書11	福岡市埋蔵文化財報告書	第676集	2001
笹居道跡6 笹居のガイド・データブック	福岡市埋蔵文化財報告書	第677集	2001
井尻道跡B 第9・10次調査報告	福岡市埋蔵文化財報告書	第678集	2001
中南部(6) 松原道跡群5次調査 日佐道跡群第2次調査 警務部道跡群第4次調査報告			
飯付周辺道跡調査報告書 第22集	福岡市埋蔵文化財報告書	第679集	2001
片江B道跡 片江道跡群第2次調査報告書	福岡市埋蔵文化財報告書	第680集	2001
橋井川A道跡 橋井川A道跡第1次調査報告書	福岡市埋蔵文化財報告書	第681集	2001
西新町道跡7 西新町道跡第10次調査報告書	福岡市埋蔵文化財報告書	第682集	2001
有田・小田部 第36集	福岡市埋蔵文化財報告書	第683集	2001
入部XⅠ 入部道跡群第2次調査報告(3)	福岡市埋蔵文化財報告書	第684集	2001
松木田道跡群2 第3次調査下副(縄文時代早期)遺物編	福岡市埋蔵文化財報告書	第685集	2001
中山道跡 内野岡場整備地区内埋蔵文化財調査報告書	福岡市埋蔵文化財報告書	第686集	2001
原道跡10 原道跡群第20次調査	福岡市埋蔵文化財報告書	第687集	2001
拾六町道跡他	福岡市埋蔵文化財報告書	第688集	2001
卯内尺古墳	福岡市埋蔵文化財報告書	第689集	2001
野方久保道跡	福岡市埋蔵文化財報告書	第690集	2001
周般寺道跡群4	福岡市埋蔵文化財報告書	第691集	2001
九州大学統合移転用地内埋蔵文化財免掘調査概報1 元岡・桑原道跡群免掘調査			
国史跡 元寇防塁(生の松原地区)復元・修理報告書	福岡市埋蔵文化財報告書	第692集	2001
鴻鶴館 11 平成11年度免掘調査報告書 鴻鶴館 11	福岡市埋蔵文化財報告書	第693集	2001
平成11年(1999)年度 福岡市埋蔵文化財年報 VOI 14	福岡市埋蔵文化財報告書	第694集	2001
	福岡市埋蔵文化財報告書	第695集	2001

久留米市教育委員会

筑後国府跡 一第168次調査一	久留米市文化財調査報告書	第164集	2000
格屋敷遺跡 県営大橋地区は城整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書			
	久留米市文化財調査報告書	第165集	2000
大谷古墳群 一第1・2次調査一	久留米市文化財調査報告書	第166集	2000
久留米市埋蔵文化財調査集Ⅲ 持田遺跡 木塚遺跡 ヘボノ木遺跡 久留米城下町遺跡 山川南本村遺跡	久留米市文化財調査報告書	第167集	2000
筑後国府跡 一第170次調査一	久留米市文化財調査報告書	第168集	2000
久留米城下町遺跡 第14次調査(米屋町)	久留米市文化財調査報告書	第169集	2001
筑後国府跡 一第169次調査概要報告一	久留米市文化財調査報告書	第170集	2001
旗原遺跡一第2次調査一 久留米市荒木町下荒木所在遺跡の発掘調査報告	久留米市文化財調査報告書	第171集	2001

筑後国府跡	～第173次調査報告～	久留米市文化財調査報告書	第172集	2001
横道跡Ⅱ	J R久大本線久留米大学前駅新設及び駅前広場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	久留米市文化財調査報告書	第173集	2001
金丸道跡Ⅱ	～第3次調査～			
久留米市都市計画事業「花畑駅周辺土地区画整理事業」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		久留米市文化財調査報告書	第174集	2001
平成12年度 久留米市内道跡群	西小路道跡 石丸道跡 内野道跡 野堀道跡 道蔵道跡			
市ノ上北道跡 上野道跡 念仏塚道跡		久留米市文化財調査報告書	第175集	2001
久留米市の建造物		久留米市文化財調査報告書	第176集	2001
直方市教育委員会				
直方市内道跡群		直方市文化財調査報告書	第21集	2000
西光寺道跡		直方市文化財調査報告書	第22集	2000
水町道跡群整備事業報告書		直方市文化財調査報告書	第23集	2001
片山道跡 福岡県直方市大字永満寺所在道跡の調査		直方市文化財調査報告書	第24集	2001
甘木市教育委員会				
小田小塚本道跡 福岡県甘木市大字小田字切通所在道跡の調査		甘木市文化財調査報告書	第51集	2000
甘木小池道跡 福岡県甘木市大字甘木字小池所在道跡の調査		甘木市文化財調査報告書	第52集	2001
平塚川添道跡 福岡県甘木市大字平塚字川添所在道跡の調査・平塚工業団地造成に伴う発掘調査報告書		甘木市文化財調査報告書	第53集	2001
平塚川添道跡 保存整備事業報告書		甘木市文化財調査報告書	第54集	2001
筑後市教育委員会				
上北島塚ノ本道跡 福岡県筑後市大字上北島塚ノ本所在道跡の調査				
筑後北部第二地区道跡群 福岡県筑後市大字高江所在道跡の調査		筑後市文化財調査報告書	第31集	2001
筑後市内道跡群Ⅱ 福岡県筑後市大字薩敷、高江、下北島、水田、長浜、鶴田、志、津島所在道跡の調査		筑後市文化財調査報告書	第32集	2001
筑後西部第2地区道跡群(Ⅳ) 福岡県筑後市大字水田所在				
泉宮担い手育成基金整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		筑後市文化財調査報告書	第34集	2001
筑後東部地区道跡群Ⅴ 筑後市大字久志・新井所在道跡の調査		筑後市文化財調査報告書	第35集	2001
筑後東部地区道跡群Ⅵ 福岡県筑後市大字鶴田所在道跡の調査		筑後市文化財調査報告書	第36集	2001
春日市教育委員会				
上平田道跡 福岡県春日市大和町所在道跡の発掘調査概要		春日市文化財調査報告書	第25集	1999
大土居水城跡 福岡県春日市昇町所在水城跡の発掘調査概要		春日市文化財調査報告書	第26集	1999
野藤道跡 福岡県春日市須玖所在道跡の発掘調査		春日市文化財調査報告書	第27集	2000
大土居道跡 福岡県春日市昇町所在水城跡の発掘調査		春日市文化財調査報告書	第28集	2000
須玖磐石道跡 福岡県春日市関本所在道跡の調査		春日市文化財調査報告書	第29集	2001
大荒道跡 天田道跡 福岡県春日市大和町所在道跡の発掘調査		春日市文化財調査報告書	第30集	2001
大坪道跡 福岡県春日市大和町所在道跡の発掘調査		春日市文化財調査報告書	第31集	2001
春日市埋蔵文化財年報6 平成9年度				1999
春日市埋蔵文化財年報7 平成10年度				2000
春日市埋蔵文化財年報8 平成11年度				2001
春日市故国の丘歴史資料館				
平成13年度 考古企画展 古代の器				2001
大野城市教育委員会				
瑞穂・原ノ畑道跡 大野城市文化財調査報告書～第57集				2001
大野城市の文化財第33集 〈大野城市の道跡〉				2001
宗像市教育委員会				
富地原岩野A -福岡県宗像市大字富地原所在道跡の発掘調査報告-		宗像市文化財調査報告書	第49集	2001
三郎丸堂ノ上C -福岡県宗像市三郎丸所在道跡の発掘調査報告-		宗像市文化財調査報告書	第50集	2001

東郷登り立 -福岡県宗像市東郷所在遺跡の発掘調査報告-	宗像市文化財調査報告書	第51集	2001
むなかたの文化財 -平成10.11年度文化財調査概要-			2002
太宰府市教育委員会			
三条道跡 -一般道内山三条線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	太宰府市の文化財	第51集	2001
大宰府条坊跡 X VI	太宰府市の文化財	第52集	2001
大宰府条坊跡 X VII 陣ノ浦道跡(大宰府条坊跡第47次調査)	太宰府市の文化財	第53集	2001
原道跡 第8・11次調査	太宰府市の文化財	第54集	2001
宝満山道跡群 III 第11・21次調査報告書	太宰府市の文化財	第55集	2001
佐野地区道跡群 XI 佐野土地前整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書	太宰府市の文化財	第56集	2001
大宰府条坊跡 X VIII -地区道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	太宰府市の文化財	第57集	2001
太宰府・佐野地区道跡群 X II -カヤノ道跡第7次調査・殿城戸道跡第6次調査-	太宰府市の文化財	第58集	2001
前原市教育委員会			
JR筑肥線複線化用地内道跡群 JR筑肥線複線化に伴う文化財調査報告書	前原市文化財調査報告書	第67集	2000
前原西町道跡 福岡県前原市大字前原西町所在道跡の調査	前原市文化財調査報告書	第68集	2000
有田墓ノ本道跡 福岡県前原市大字有田字墓ノ本所在道跡の調査	前原市文化財調査報告書	第69集	2000
前原市			
前原市内文化財整備基本計画			1998
那珂川町教育委員会			
野口道跡群 福岡県筑紫郡那珂川町片縄所在道跡群の調査	那珂川町文化財調査報告書	第53集	2001
安徳原道跡群 福岡県筑紫郡那珂川町大字安徳字竹原所在道跡群の調査	那珂川町文化財調査報告書	第54集	2001
内田道跡群 筑紫郡那珂川町大字片縄字内田所在道跡群の調査	那珂川町文化財調査報告書	第55集	2001
松木道跡 IV 福岡県筑紫郡那珂川町片縄所在道跡群の調査	那珂川町文化財調査報告書	第56集	2001
芦屋町教育委員会			
芦屋町化石探検ハンドブック 芦屋町山鹿地区芦屋町群新世化石群調査報告			2001
芦屋町歴史民俗資料館年報 第2号 平成12年度			2001
マルチメディアによる文化財保存活用方策に関する調査研究報告書 - C D -			2001
豊津町教育委員会			
昔見橋ノ口道跡 福岡県京都郡豊津町大字昔見所在古代道路跡の調査	豊津町文化財調査報告書	第22集	2000
豊前国府跡惣社地区 I 福岡県京都郡豊津町大字惣社所在古代官衙跡の調査	豊津町文化財調査報告書	第23集	2000
徳永川之上道跡 F 地区 福岡県京都郡豊津町大字徳永所在道跡の調査	豊津町文化財調査報告書	第24集	2001
狭間宮ノ下道跡(遺物編) 団体営は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	豊津町文化財調査報告書	第14集	2001
-豊前市大字狭間に所在する縄文時代集落の調査報告-	豊前市文化財調査報告書		
行橋市教育委員会			
平成13年度特別展 豊の国からのメッセージ 行橋の埋蔵文化財			2001
中間市教育委員会			
垣生羅漢山道跡群 福岡県指定文化財「垣生羅漢百穴」第1次範囲内容確認調査	中間市文化財調査報告書	第3集	2001
遠賀町教育委員会			
先ノ野道跡・鹿ノ浦道跡	遠賀町文化財調査報告書	第14集	2001
筑穂町教育委員会			
上穂波地区道跡群4 福岡県嘉穂郡筑穂町大字阿恵所在道跡群の調査・陣ノ内道跡・	筑穂町文化財調査報告書	第7集	2001
多々良道跡・三角道跡			

北野町教育委員会			
古賀ノ上遺跡2	福岡県三井郡北野町大字八重亀所在遺跡の調査	北野町文化財調査報告書 第14集	2001

大乃洗町教育委員会			
鶴木橋遺跡	福岡県三井郡大乃洗町大字鶴木所在遺跡の調査	大乃洗町文化財調査報告書 第21集	2001

三瀬町教育委員会			
西牟田清導寺浦遺跡	福岡県三瀬郡三瀬町所在遺跡の調査報告書	三瀬町文化財調査報告書 第7集	2001

九州歴史資料館			
大宰府史跡出土軒瓦・叩打瓦文字瓦型式一覧			2000

佐賀県

佐賀市教育委員会			
野中遺跡(1区・2区)		佐賀市文化財調査報告書第119集	2001
石土井遺跡跡1-1区の調査-		佐賀市文化財調査報告書第120集	2001
増田遺跡群V-7区の調査-		佐賀市文化財調査報告書第121集	2001
佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -1997・1998年度-		佐賀市文化財調査報告書第122集	2001
上岸川遺跡 -1区の調査-		佐賀市文化財調査報告書第123集	2001
徳永遺跡群IV徳永遺跡10区	-佐賀市久保和泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書10-	佐賀市文化財調査報告書第124集	2001
徳永遺跡群V徳永遺跡12区	-佐賀市久保和泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書11-	佐賀市文化財調査報告書第125集	2001
上和泉遺跡群II上揚遺跡2区	-佐賀市久保和泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書12-	佐賀市文化財調査報告書第126集	2001

佐賀県教育庁文化財課			
佐賀県文化財年報 6	1999年度		2001

唐津市教育委員会			
菅牟田荒谷遺跡	-農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	唐津市文化財調査報告書 第96集	2001
東山I遺跡	農道改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	唐津市文化財調査報告書 第97集	2001
外原遺跡	中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査	唐津市文化財調査報告書 第98集	2001
衣干古墳群		唐津市文化財調査報告書 第99集	2001
半田新田遺跡		唐津市文化財調査報告書 第100集	2001
唐津市内遺跡確認調査(17)	土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告	唐津市文化財調査報告書 第101集	2001
千々賀遺跡	-住宅団地造成工事に係る埋蔵文化財調査-	唐津市文化財調査報告書 第102集	2001

鳥栖市教育委員会			
京町遺跡	J T鳥栖工場跡地開発に係る埋蔵文化財調査報告書	鳥栖市文化財調査報告書第54集	1997
今泉遺跡		鳥栖市文化財調査報告書第55集	1997
西田遺跡	泉宮ほ馬整備事業関係文化財調査報告書(10)	鳥栖市文化財調査報告書第56集	1998
静尾城下町遺跡		鳥栖市文化財調査報告書第57集	1999
安永田遺跡	市道萩野柚比線拡幅に伴う埋蔵文化財調査報告書	鳥栖市文化財調査報告書第62集	2001
長ノ原遺跡	神山古墳 -泉道九千部山公園線建設に伴う埋蔵文化財調査報告-	鳥栖市文化財調査報告書第63集	2001
加藤田遺跡		鳥栖市文化財調査報告書第64集	2001
長ノ原遺跡	-国道3号線道路拡幅工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-	鳥栖市文化財調査報告書第65集	2001
永田古墳群	鳥栖北部配水池設置事業関係埋蔵文化財調査報告書	鳥栖市文化財調査報告書第66集	2001
安永田遺跡	-くすり博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-(本文編)(考察・図版編)	鳥栖市文化財調査報告書第67集	2001
わかしむかしの弥生が丘			2001

佐賀県教育委員会			
大久保遺跡II,IV平原遺跡	本川川河川局部改良工事関係文化財調査報告書2	佐賀県文化財調査報告書 第137集	1998
柚比遺跡群I	第1分冊～3分冊 鳥栖北部丘陵新都市関係文化財調査報告書2	佐賀県文化財調査報告書 第148集	2001

千代田町教育委員会			
高志神社遺跡 佐賀県神埼郡千代田町大字下板所在の遺跡の調査	千代田町文化財調査報告書第27集	2000	
姉遺跡（Ⅷ区の調査）佐賀県神埼郡千代田町大字姉所在の遺跡	千代田町文化財調査報告書第28集	2000	
三日月町教育委員会			
社遺跡 一嘉瀬川浄水場建設に伴う文化財発掘調査報告書一	三日月町文化財調査報告書第11集	1999	
二俣遺跡 一俣遺跡第2次発掘調査報告書一	三日月町文化財調査報告書第12集	1999	
埴野町教育委員会			
不動山窯跡群 吉田1号窯跡 埴野町古窯跡発掘調査報告書Ⅲ 1998	埴野町文化財調査報告書第8集	1998	
埴野町の古陶磁窯跡 近世肥前古陶磁窯跡発掘調査概要書 1998	埴野町文化財調査報告書第9集	1998	
佐賀県武雄市教育委員会			
武雄市内道跡発掘調査報告書（平成3年度～11年度）付、東福寺古墳群 武雄市文化財調査報告書第41集	2001		
佐賀県東松浦郡西町教育委員会			
長宗我部元親跡（個人住宅建築に伴う発掘調査）	鎮西町文化財発掘調査報告書 第19集	2001	
建設省九州地方建設局 国営吉野ヶ里歴史公園工事事務所			
国営吉野ヶ里歴史公園 生活復元展示基本設計報告書		2000	

長崎県	厳原市教育委員会		
	矢立山古墳群発掘調査概報（Ⅰ）	厳原町文化財調査報告書 第5集	2001
熊本県	熊本市教育委員会		
	池辺寺跡Ⅲ 一平成10・11年度発掘調査報告書一		2001
	神水遺跡Ⅳ 一第5次・18次調査区発掘調査報告書一		
	（都市計画道路船場・神水線建設に伴う埋蔵文化財調査報告）		2001
	熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 一平成11・12年度一		
	（調査報告）辻遺跡 第1次調査区 水前寺庵寺跡 第1次調査区 大江遺跡群 第52次調査区		2001
	特別史跡 熊本城跡 西出丸（奉行所跡）二ノ丸御門跡 南大手門跡・南坂		
	石垣保存修理工事・発掘調査報告書		1999
	熊本市埋蔵文化財調査年報 第4号 一平成11年度一		2001
	熊本県玉名郡南関町教育委員会		
	四反田遺跡 九州縦貫自動車道玉名パーキングエリア拡幅改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書	南関町文化財調査報告書 第6集	2001
	免田町教育委員会		
	本日 第3次～5次発掘調査報告	免田町文化財調査報告 第3集	2001
	熊本大学文学部考古学研究室		
	考古学研究室報告 第36集	I ナガラ原東貝塚3 II 河原第3遺跡 III 資料報告	2001

大分県	大分県教育委員会		
	下ノ山遺跡 一東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）一 2001	大分県文化財調査報告書 第114輯	2001
	清太郎遺跡 一東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅱ）一 2001	大分県文化財調査報告書 第115輯	2001
	大波羅遺跡 大分地方事務局日田支所新宮に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第116輯	2001
	富貴寺遺跡（東地区） 露川火山砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第117輯	2001
	虫喰谷遺跡 国道197号南バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第118輯	2001
	安国寺遺跡 田深川豊の国ふれあい川づくり事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第119輯	2001
	大園遺跡 県道三重新設線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第120輯	2001

毛井道跡A地区	国道197号線南バイパス道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大分県文化財調査報告書 第121輯	2001
二目川道跡	県道松岡日岡線改良工事関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第122輯	2001
上野道跡群	大分上野丘高校地区 大分上野丘高校管理棟増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第123輯	2001
行者原孤塚古墳	国道213号線(糸原JIC)改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001	大分県文化財調査報告書 第124輯	2001
西山社製糸工場跡・旧古町橋跡・吉田家屋敷跡・武藤家屋敷跡・上家原敷跡・由学館跡	大分県竹田市稲葉川 河川改修工事に伴う文化財発掘調査報告書Ⅱ 大分県文化財調査報告書	第124輯	2001
浮殿道跡	一県道中津高田線交通安全第1種事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一 2001	大分県文化財調査報告書 第127輯	2001
都野原田道跡	泉宮担い手育成基盤整備事業久住町都野東部地区に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ	大分県文化財調査報告書第128輯	久住町文化財調査報告書 第9集
尾島道跡	一般国道小内河内香々地線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大分県文化財調査報告書 第129輯	2001
城前道跡	一県道赤根長玉線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	大分県文化財調査報告書 第130輯	2001
後迫道跡	九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(18)		2001
日田市高瀬道跡群の調査 3 上野第1道跡	一般国道210号線日田バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ		2001
大分県埋蔵文化財年報9	平成11(1999)年度版	2001	2001
日田市教育委員会			
惣田道跡	日田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集		1994
小迫辻原道跡Ⅱ H地区	日田地区道跡群発掘調査報告Ⅰ	日田市埋蔵文化財調査報告書 第15集	2000
朝日ヶ丘道跡	一市営朝日ヶ丘住宅改築工事に伴う発掘調査報告書一	日田市埋蔵文化財調査報告書 第18集	2000
本村道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第19集		2000
山口道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第20集		2000
日田条里上手地区	日田市埋蔵文化財調査報告書 第21集		2000
徳瀬道跡第3次	日田市埋蔵文化財調査報告書 第22集		2000
上ノ馬場道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第23集		2000
三和教田道跡D地点	日田市埋蔵文化財調査報告書 第24集		2000
元宮道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第25集		2000
山ノ口道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第26集		2000
三和教田道跡G地点	日田市埋蔵文化財調査報告書 第27集		2000
平島道跡D地点	塔ノ本古墳 祇園原道跡2次 長迫道跡C地点 長迫道跡D地点 尾瀬道跡6次	日田市埋蔵文化財調査報告書 第28集	2001
大波羅道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第29集		2001
尾瀬道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第30集		2001
日田条里上手地区5次	日田市埋蔵文化財調査報告書 第31集		2001
川原田道跡	日田市埋蔵文化財調査報告書 第32集		2001
吹上道跡・天満古墳	一簡図確認調査に伴う概要報告一		2000
平成6年度(1994年度)日田市埋蔵文化財年報			1996
小迫辻原道跡 写真図版編	1998 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書10		1998
日田地区道跡群発掘調査報告Ⅰ	日田市埋蔵文化財調査報告書 第15集		1998
平成10年度(1998年度)日田市埋蔵文化財年報			2000
平成11年度(1999年度)日田市埋蔵文化財年報			2001
ありたを掘る	市道田島有田線埋蔵文化財発掘調査概要パンフレット		2000
日田市教育委員会			
荒田道跡	一東九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一		2001
田舎台道跡	一西の原地区発掘調査概報一	1994.8	1994
下中尾道跡	一急傾斜地区改良工事に伴う発掘調査一	1996.3	1996

国史 白井磨崖仏保存修理工事報告書 本文編 図版編	1997
白井石仏群地域道跡 - 重要道跡確認緊急調査報告書 -	1999.3
竹田市教育委員会	
竹田地区道跡群 刈小野地区 片々道跡 坂折道跡 中角(名子)地区 城下町道跡群Ⅲ 難波屋敷	2000
竹田地区道跡 片々道跡 狭田地区 城下町道跡	2001
片々道跡 農免道路整備事業小宮土2期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2001
難波屋敷	2001
平井B道跡 大野川上流農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2000
宮生台地と周辺の道跡Ⅹ 西園南道跡	2000
下石家原敷跡 下石家東足庭敷跡	2000
中川午之助屋敷群 久戸谷近世墓地区群 一般国道502号改良工事埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ	2000
市道岡城線埋蔵文化財発掘調査報告書 中川午之助屋敷群2 中川午之助屋敷群3 野殿家原敷跡	
野殿家原敷跡下道跡	2001
史跡 岡城跡ⅩⅤ 平成11年度 史跡岡城跡保存修理事業報告書	2000
史跡 岡城跡ⅩⅥ 平成12年度 史跡岡城跡保存修理事業報告書	2001
豊後高田市教育委員会	
真中地区道跡発掘調査報告書 上野道跡 柳ヶ谷道跡 島巡り道跡 相原政所道跡	
大内ヶ道・宮ノ谷道跡 桜山道跡 麦田ノ上道跡 2000 豊後高田市文化財調査報告書 第6集	2000
仙地区道跡発掘調査報告書 高宇田条里道跡 高宇田条里道跡Ⅱ元地区 2000 豊後高田市文化財調査報告書 第7集	2000
豊後高田地区道跡群発掘調査概報ⅩⅥ 2000 間戸道跡 松尾道跡 前田道跡 富貴寺道跡前田地区	
富貴寺道跡中田地区	2000
豊後高田地区道跡群発掘調査概報ⅩⅦ 2001 天全寺門前坊地区 道ノ下道跡 山下道跡	2001
佐伯市教育委員会	
萩山道跡群 萩山土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2001
宇佐市教育委員会	
宇佐地区道跡群発掘調査概報ⅩⅢ 今年度の調査の概要 御嶋・村原道跡2次調査 高森城跡5次調査 別府・折戸ノ上道跡の調査	2001
中津市教育委員会	
大悟法条里跡池ノ下道跡 福島道跡入垣地区 長者屋敷道跡	
2000年度 中津地区道跡群発掘調査概報(ⅩⅢ)	中津市文化財調査報告書 第25集 2001
長者屋敷道跡	中津市文化財調査報告書 第26集 2001
国東町教育委員会	
国東町の堂宇 - 米浦地区 - 大分県国東町文化財調査報告書 第20集	2000
蛸宮岡場整備国東川南地区関係発掘調査報告書 2001 安国寺道跡(吉継2地区)	
安国寺道跡(割田1地区) 原道跡(餅田3・4地区) 原道跡(原ノ下1・2地区)	
大分県国東町文化財調査報告書 第21集	2001
蛸宮岡場整備事業国東川南地区関係発掘調査報告書 2001 原道跡(亀井1地区) 原道跡(平原1地区)	
原道跡(七郎丸1地区)	大分県国東町文化財調査報告書 第22集 2001
地方拠点史跡等総合整備事業に伴う発掘調査報告書 国史跡 安国寺集落道跡	
大分県国東町文化財調査報告書 第23集	2001
国東町の堂宇 - 富来地区 - 大分県国東町文化財調査報告書 第24集	2001
史跡安国寺集落道跡整備事業報告書 大分県国東町文化財整備報告書第1集	2001
大分県安岐町教育委員会	
塩屋条里道跡	安岐町文化財調査報告書 第9集 2001
三重町教育委員会	
三重地区道跡群発掘調査概報Ⅴ 上田原道跡 殿治屋道跡 久知良原道跡 浅水井上原道跡	2001
千歳村教育委員会	
五郎丸近世墓地区群 大分県大野郡千歳村所在道跡の発掘調査報告書 第Ⅵ集	2000

九重町教育委員会		
釣道跡 春田道跡A・B地区 2000.3		
九重町文化財調査報告第23輯 県道右田引治線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書	2001	
	九重町歴史資料館年報	2001

大分県日田郡天瀬町教育委員会		
天瀬町埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集 塚田の道跡(写真図編)		
県営園地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(その1)	2001	

三光村教育委員会		
三光村の道跡 三光地区道跡群発掘調査事業 三光村文化財調査報告書(第3集)	2001	

耶馬溪町教育委員会		
岸の上道跡	耶馬溪町文化財調査報告書 第2集	2001

大分県立歴史博物館		
六郷山寺院遺構確認調査報告書IX 浄土寺・願成寺・富貴寺・清滝寺・愛敬寺・観音寺・長安寺		
	大分県歴史博物館調査報告書第5集	2001
豊後国安岐郷2 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報		2001

宮崎県

宮崎県教育委員会		
宮崎県宮崎市池内所在 池内横穴墓群発掘調査整理報告書		1997
国衛路保存整備基礎調査報告書 寺崎道跡 日向国庁を含む官衙道跡		2001
特別史跡 西部原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書(VI)		2001
特別史跡 西部原古墳調査報告書 第2集 西部原13号古墳(墳丘出土古墳時代遺物)		2001
史跡 生目古墳群 一保存整備事業 発掘調査概要報告書Ⅱー	宮崎市文化財調査報告書	第46集 2001
深田道跡 ー宮崎市総合スポーツ公園建設に伴う発掘調査ー	宮崎市文化財調査報告書	第47集 2001
間越道跡 ーMagoé siteー 養護老人ホーム移転に伴う発掘調査	宮崎市文化財調査報告書	第48集 2001

宮崎県日南市教育委員会		
平成12年度 日南市内道跡発掘調査概報	日南市埋蔵文化財調査報告書	第13集 2001
平成12年度 楠原坂ノ上道跡		
社会福祉法人「徳栄会」特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書		
	日南市埋蔵文化財調査報告書	第14集 2001

宮崎県小林市教育委員会		
広庭道跡 平川地区県営農村活性化住環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書		
	小林市埋蔵文化財調査報告書	第12集 2001

宮崎県西都市教育委員会		
市内道跡発掘調査概要報告書VI 西都原地区道跡 日向国分寺跡		
	西都市埋蔵文化財発掘調査報告書	第30集 2001
平成12年度 西部原古墳研究所 年報 第17号		2001

宮崎県えびの市教育委員会		
内小野道跡 県営緊急用地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書		
	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第24集 2000
天神免道跡 携帯電話基地局鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第28集 2000
島内地下式横穴墓群	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第29集 2001
昌明寺道跡 県営担い手育成基盤整備事業昌明寺地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第30集 2001
東川北地区道跡群 県営担い手育成型開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告Ⅰ		
	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第31集 2001
長江浦地区道跡群 (本文・図版編)	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第32集 2002
東川北地区道跡群 県営担い手育成型開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告Ⅱ		
	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第33集 2002
小岡丸地区道跡群 県営担い手育成型開場整備事業小岡丸地区に伴う発掘調査概報		
北田道跡・田之上城跡	えびの市埋蔵文化財調査報告書	第34集 2002

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

黒草第2道跡 県営農地保全整備事業（元野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	田野町文化財調査報告書	第38集	2001
元野河内道跡 県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	田野町文化財調査報告書	第39集	2001
畑田道跡 県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（図面・図版編）	田野町文化財調査報告書	第40集	2001
ヅノ山第1道跡 田野町文化財調査報告書		第41集	2001

宮崎県埋蔵文化財センター

右基ヶ追道跡 一般国道220号線青島バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第21集	2000
内宮田道跡 柳道跡 中別府道跡 東九州自動車道（西部～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第30集	2001
木城村古墳27号・60号 横穴墓 一宮崎県児湯郡木城町所在の古墳時代の横穴墓一	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第31集	2000
梅ヶ島道跡 大辻屋敷道跡 一東九州自動車道（西部～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第32集	2001
本城原道跡 主要地方道都城沢尻線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第34集	2001
井尻道跡 雀田道跡 沖ノ田道跡 主要地方道南宮崎線道路改善事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第35集	2001
嶋道跡 西部簡易裁判所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第36集	2001
元地原道跡 地方特定道路整備事業（都農線・元知原工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第37集	2001
大岩田上村道跡 農用地総合整備事業「都城区域」区画整理（今町団地）に伴う発掘調査概要	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第38集	2001
町屋敷道跡 東九州自動車道（西部～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第39集	2001
上ノ追道跡 東九州自動車道建設（西部～清武間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第40集	2001
山田町所在 虎崩・榎木田道跡 高崎町所在 黒勢戸・上示野原道跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第41集	2001
国宮都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第42集	2001
梅北佐土原道跡 中尾道跡 賢原道跡 農用地整備事業「都城区域」	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第43集	2001
農業用道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第44集	2001
木脇道跡（旧石器時代～弥生時代編）（古墳時代～中世編）	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第45集	2001
東九州自動車道（西部～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第46集	2001
松元道跡 井手口道跡 塚原道跡 東九州自動車道建設（西部～清武間）	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第47集	2001
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第48集	2001
王子原道跡 国宮都城盆地農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第49集	2001
志戸平道跡（3次） 頭田道跡 鬼付女川河川改良事業に伴う発掘調査報告書	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第46集	2001
権現原第1道跡 下星野道跡 東九州自動車道（西部～清武間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第47集	2001
倉岡第2道跡 東九州自動車道建設（西部～清武間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第48集	2001
東九州自動車道（都農～西部間）関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅰ	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	第49集	2001

高城町教育委員会	
町内遺跡発掘調査報告書	高城町の文化財調査報告書 第9集 2000
山城第1遺跡調査報告書 平成12年度 細井地区県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査概要報告書	高城町の文化財調査報告書 第10集 2001
高城町の文化財	2001
宮崎県北郷町教育委員会	
北郷町内遺跡発掘調査概要報告書 -1999・2000年度-	北郷町文化財調査報告書第9集 2001
田中遺跡 県営中山間地域総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	北郷町文化財調査報告書第10集 2001
宮崎県三股町教育委員会	
三股町内遺跡Ⅰ	三股町文化財報告書 第3集 2001
宮崎県西諸県郡高原則教育委員会	
町内遺跡Ⅰ	高原則町文化財調査報告書 第8集 2001
鹿児島県	
鹿児島市教育委員会	
大龍遺跡 -大龍小学校屋内運動場建設に伴う第7次緊急発掘調査報告書-	第2集 先史時代編
-大龍小学校校区公民館建設に伴う第8次緊急調査報告書-	
鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(32・33)	2001
鹿児島県薩摩郡薩摩町教育委員会	
寺屋敷遺跡 通山遺跡 宮ノ前遺跡 大木屋遺跡	
農免農道整備事業(小永田地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
鹿児島県薩摩郡薩摩町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	2001
高山町教育委員会(財)元興寺文化財研究所	
永野原遺跡 県営シラス対策後田地区関連農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
高山町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)	2000
軍原遺跡 広域営農団地農道整備事業 肝属2期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書	
高山町埋蔵文化財発掘調査報告書	2000
鹿児島県薩摩郡薩摩町教育委員会 給良郡加治町教育委員会	
弥勒堂跡	加治木町埋蔵文化財発掘調査報告書 3 2001
鹿児島県大隅町教育委員会(財)元興寺文化財研究所	
鹿児島県大隅町 日輪城(恒吉城)跡 急傾斜崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
大隅町埋蔵文化財発掘調査報告書(20)	2000
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
上野原遺跡 (第10地点)所在地 鹿児島県国分市大字上之段水ヶ迫ほか	
国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ)	
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28)	2001
竹ノ山A・B遺跡 「歩きたくなる」事業(徳重・横井・鹿児島線)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(29)	2001
柳堀遺跡(日置郡松元町)西ノ原B遺跡(日置郡松元町)	
-南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-	(鹿児島西IC~伊集院IC)
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(30)	2001
一ノ谷遺跡 (日置郡伊集院町)	
南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(伊集院IC~市来IC)	
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(31)	2001

2. 定期刊行物・図録等

北海道	財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構		
	第5回アイヌ語弁論大会報告書		2002
	函館市史編さん室		
	函館市史 通説編 第4巻		2002
	帯広市		
	地域が舞台	帯広アカデミー報告	1996
	地域の知的資産	帯広アカデミー報告	1997
	帯広市教育委員会		
	吉田 巖 資料集-10	帯広叢書 第44巻	2000
	吉田 巖 資料集-10(原資料編)	帯広叢書 第44巻	2000
福島県	吉田 巖 資料集-12	帯広叢書 第46巻	2001
	吉田 巖 資料集-13	帯広叢書 第47巻	2002
	財団法人 いわき市教育文化事業団		
	いわき市教育文化事業団 研究紀要第11号 2000		2000
	筑波大学歴史・人類学系		
	筑波大学 先史学・考古学研究 第12号		2001
	群馬県		
	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団		
	研究紀要 19		2001
	(財) 山武郡市文化財センター		
千葉県	研究ノート山武 第2号		1997
	研究ノート山武 第3号 進化論の潜在力他		2000
	文化財かわら版		
	文化財かわら版 十三号 考古学ニュース他		2000
	東京都		
	吉川弘文館		
	街道の日本史52 国東・日田と豊前道		2002
	文化庁 株式会社ぎょうせい		
	文化庁月報 4月号 No.391 特集	文化政策機能の充実に向けて	2001
	文化庁月報 5月号 No.392 特集	映画芸術・メディア芸術の振興	2001
	文化庁月報 6月号 No.393 特集	コンテンツ利用のさらなる円滑化に向けて	2001
	文化庁月報 7月号 No.394 特集	登録有形文化財(建造物)の活用	2001
	文化庁月報 8月号 No.395 特集	世界へ向けた現代舞台芸術の発言	2001
	文化庁月報 9月号 No.396 特集	無形の文化財保護政策の充実	2001
	文化庁月報10月号 No.397 特集	国際文化交流：人と組織のネットワーク	2001
	文化庁月報11月号 No.398		2001
	文化庁月報12月号 No.399 特集	宗教法人法50年	2001
	文化庁月報 1月号 No.400 特集	世界遺産における文化的景観の保護	2001
	文化庁月報 2月号 No.401 特集	文化芸術振興基本法	2002
	文化庁月報 美術館・博物館の振興		2002
	文化庁 第一法規出版株式会社		
	月刊文化財 2 (449号)		2001
	月刊文化財 3 (450号)		2001
	月刊文化財 4 (451号)		2001
	月刊文化財 5 (452号)		2001
	月刊文化財 6 (453号)		2001
	月刊文化財 7 (454号)		2001

文化庁 第一法規出版株式会社

月刊文化財 8 (455号)	2001
月刊文化財 9 (456号)	2001
月刊文化財10 (457号)	2001
月刊文化財11 (458号)	2001
月刊文化財12/平成13年 (459号)	2001
月刊文化財 1/平成14年 (460号)	2002
月刊文化財 2/平成14年 (461号)	2002

(株) ジャパン通信情報センター

文化財発掘出土情報 2001.4	【巻頭グラビア】青森県野辺地町 向田 (18) 道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.5	【巻頭グラビア】滋賀県草津市 大將軍道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.6	【巻頭グラビア】福岡県糟田町 城腰道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.7	【巻頭グラビア】鹿児島県名瀬市 小湊フワガネタ (外金久) 道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.8	【巻頭グラビア】熊本県長岡村 河陽F道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.9	【巻頭グラビア】京都府宇治田原町 山麓寺跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.10	【巻頭グラビア】三重県久居市 上野道跡	2001
文化財発掘出土情報 2001.11	【巻頭グラビア】愛媛県松山市 祝谷道跡群細中地区 (仮称)	2001
文化財発掘出土情報 2001.12	【巻頭グラビア】東京都葛飾区 柴又八幡神社古墳	2001
文化財発掘出土情報 2002.1	【巻頭グラビア】埼玉県毛呂山町新田東道跡	2002
文化財発掘出土情報 2002.2	【巻頭グラビア】福島県会津若松市墓科道跡	2002
文化財発掘出土情報 2002.3	【巻頭グラビア】愛知県安城市神ノ木道跡	2002

早稲田大学考古学会

古代 第109号	2001
古代 第110号	2001

神人物往来者

歴史読本 九月号 (第四十六巻第九号) 特集 日本の創業者 波瀾万丈伝	2001
-------------------------------------	------

(株) 学習研究社

歴史群像シリーズ【戦国】セクション 裂帛 島津戦記 【決死不退の薩摩魂】	2001
--------------------------------------	------

(財) 東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター

道跡を駆けめぐる - 東京都埋蔵文化財センター20年の奇跡 -	2001
---------------------------------	------

第一法規出版

Newsletter	2001
------------	------

富山県

財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所

紀要 富山考古学研究 第4号	2001
----------------	------

石川県

金沢市

市史かなざわ 第7号	2001
金沢市史 資料編2 中世二	2001
金沢市史 資料編4 近世二	2001
金沢市史 資料編14 民俗	2001
金沢市史 資料編15 学芸	2001

愛知県

(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター

財団法人 瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要 第9輯	2001
瀬戸大窯とその時代 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念企画展	2001

四日市市

四日市市史 第一巻 史料編 自然	1990
四日市市史 第二巻 史料編 考古	1988
四日市市史 第三巻 史料編 考古	1993
四日市市史 第四巻 史料編 文化財	1989

四日市市史	第五卷	史料編	民俗	1995
四日市市史	第六卷	史料編	絵図（絵図集）（解説）	1992
四日市市史	第七卷	史料編	古代・中世	1991
四日市市史	第八卷	史料編	近世	1991
四日市市史	第九卷	史料編	近世	1993
四日市市史	第十卷	史料編	近世	1996
四日市市史	第十一卷	史料編	近代	1992
四日市市史	第十二卷	史料編	近代	1993
四日市市史	第十三卷	史料編	近代	1996
四日市市史	第十四卷	史料編	現代	1996
四日市市史	第十五卷	史料編	現代	1998
四日市市史	第十六卷	通年史	古代・中世 【別冊】 善教寺文書	1995
四日市市史	第十七卷	通年史	近世	1999
四日市市史	第十八卷	通年史	近代	2000
四日市市史	第十九卷	通年史	現代	2001
四日市市史	第二十卷	年表・索引編		2002
四日市市史研究	第15号			2002

四日市市教育委員会

四日市市道跡マップ	2001
四日市市文化財保護年報12 ー平成12年度ー	2001

京都府

京都市歴史資料館

京都市歴史資料館紀要	第16号	1999
京都市歴史資料館紀要	第17号	2000
京都市歴史資料館紀要	第18号	2001
企画展 京都市の文化財 新指定の美術工芸品・有形民俗文化財		2001

京都市考古資料館

京都市考古資料館年報	平成9、10年度	2000
京都市考古資料館年報	平成11、12年度	2002

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館 館報	第4号（2000年度）	2001
---------------	-------------	------

うらしま伝説交流サミット実行委員会

うらしま伝説交流サミット記録集	2001
-----------------	------

大阪府

春木 吉彦

千利休の貨幣（わびさび）論 ー初花詩抄ー	1997
堺のうたの唄の詩歌俳人（うたびと）第五冊	1998
彷徨（堺）（一）未来であった南蛮	2001

兵庫県

大手前大学史学研究所文化財調査室

瓦 近代の酒蔵所用	2001
-----------	------

奈良県

（財）元興寺文化財研究所

財団法人 元興寺文化財研究所 案内	2001
-------------------	------

全国史跡整備市町村協議会事務局

2001 全史協会報	2001
全史協 加盟市町村名簿	2001

奈良大学文学部文化財学科

文化財學報 第一九集	2001
------------	------

天理大学考古学研究室

古事 天理大学考古学研究室紀要 第5冊	2001
---------------------	------

	浅川 滋男 奈良国立文化財研究所平城宮発掘調査部 竪穴住居にの空間分節に関する復原研究 平成10～12年度科学研究費補助金【基盤研究C】課題番号10650643 2001
	飛鳥資料館 遺跡を語る 飛鳥資料館 図録第37冊 2001 飛鳥のイメージ 2001
和歌山県	(財)和歌山市文化体育振興事業団 平成13年春季特別陳列発掘物語 2001 第4回和歌山市埋蔵文化財速報展 2001
島根県	島根県教育庁埋蔵分科座センター いにしへの川津を掘る ―あさくみがわのながれ―総集編 2001
山口県	下関市立考古博物館 研究紀要 第5号 2001 弥生時代 日本海地域の交流 2001
香川県	引田町歴史民俗資料館 引田町史 自然・原始～近世・文化財 1997 引田町史 近・現代 1997 引田町史 民俗 1997
福岡県	(財)北九州市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室 研究紀要 ー第15号ー 2000 博物館等建設推進九州会議 文明のクロスロード MUSEUM KYUSHU 第68号 特集 宝石と装身 2001 文明のクロスロード MUSEUM KYUSHU 第69号 特集 宝石と装身 2001 文明のクロスロード MUSEUM KYUSYU 第70号 特集 市場のにぎわい 2001 福岡大学総合研究所 福岡大学 総合研究所報 第240号 総合科学編 (第3号) 研究テーマ:日韓交渉考古学の基礎的研究 ―原史・古代を中心に― 2000 七隈史学会 七隈史学 第3号 2002 豊前市教育委員会 豊前の民俗芸能 ―祭(まつり)ー 2001 筑紫野市歴史博物館 ふるさと館くしの 五郎山古墳開館記念特別展 五郎山古墳展 ―壁画の意味をさぐる― 2001
佐賀県	佐賀県教育庁文化財課 地域と一体となった肥前古陶磁窯跡の保存と活用―窯跡を保存し活用していくために― ふれあい歴史のさと研究委嘱事業報告書 2001
熊本県	熊本市 市史研究 くまもと 第12号 2001
大分県	九州・沖縄水中考古学協会 NEWSLETTER 九州・沖縄水中考古学協会会報 第5巻・第2号 通巻16号 2000 大分県教育庁文化課 (文化財資料室) 豊後への道 2001 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査(県境～大分間) 総集編 2001

坂ノ市地区郷土史愛好会 あま白水部 - 会報第18号 -	2001
大分県教育委員会 大分県のシシ垣 - 民俗文化財 シシ垣調査報告書 - 大分県文化財調査報告書第126輯	2001
大分県芸術文化振興会編 大分県文化年鑑 2000	2001
大分県立先哲資料館 大友府内 ～よみがえる中世国郡都市～ 史料館研究紀要 第6号	2001 2001
菊池 輝夫 大分県内の仁王所在地図 付阿吽形両仁王尊の対の写真	2001
大分市大在地区文化財同好会 平成13年度 大佐井 第19号	2002
大分県立歴史博物館 大分県立歴史博物館 研究紀要 2 八幡信仰とその遺宝	2001 2001
九重町教育委員会 回顧 二日市洞穴 -25 t h-	2000



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐみ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年5月26日決定）

大分市埋蔵文化財調査年報 13

2002

発行日

平成14年12月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0025 (097) 534-6111

印刷

大分市南津留8番1号

株式会社 陽明社
